FUJIFILM

DIGITAL CAMERA

FinePix S5 Pro

使用説明書/ソフトウェア取扱ガイド

このたびは、弊社製品をお買い上げいただきありがとうございます。
この説明書には、フジフイルムデジタルカメラ
ファインピックスS5 Proおよび付属のソフトウェアの使い方が
まとめられています。
内容をご理解の上、正しくご使用ください。

本製品の関連情報はホームページをご覧ください。
http://fujifilm.jp/

FinePix 基本操作ガイド
はじめにお読みください

BL00577-101(1) J

▶ご使用の前に必ず別冊の「安全上のご注意」をお読みください。

重 要 ご使用になられる前に必ずお読みください。

ご注意：CD-ROMのパッケージ開封前に必ずお読みください。

富士フイルム株式会社がお客様に提供するCD-ROMのパッケージ開封前に必ず本ソフトウェア使用許諾契約書をお読みください。お客様は、本ソフトウェア使用許諾契約書に同意された場合にのみ、CD-ROMに記録されたソフトウェアを使用できます。
お客様がCD-ROMのパッケージを開封された場合、お客様は本ソフトウェア使用許諾契約書に同意されたものとみなします。

ソフトウェア使用許諾契約書

お客様と富士フイルム株式会社（以下富士フイルムといいます）は、富士フイルムがお客様に提供するCD-ROMに記録されたソフトウェアの使用につき、以下のとおり契約します。
富士フイルム以外の事業者のソフトウェアで、本契約とは別の使用許諾契約が付されたソフトウェアの使用については、当該使用許諾契約の規定が本契約に優先するものとします。

1. 定義
（1）本CD-ROMとは、富士フイルムがお客様に提供するCD-ROM「Software for FinePix」を指します。
（2）本ソフトとは、富士フイルムがお客様に提供する、本CD-ROMに記録されたソフトウェアを指します。
（3）関連資料等とは、富士フイルムがお客様に提供する本ソフトの使用説明書その他本ソフトに関する資料を総称して指します。
（4）本製品とは、富士フイルムが提供する本CD-ROMと関連資料等を総称して指します。

2. 使用権の許諾
富士フイルムはお客様に対し、本ソフトに関する以下の非独占的、譲渡不能の権利を許諾します。
①機械読み取り可能な形式で、１台のコンピュータに本ソフトをインストールし、使用する権利
②バックアップ目的にて本ソフトを１部に限り複製する権利

3. 禁止事項
（1）お客様は富士フイルムの事前の書面による承諾なく、本ソフト、本CD-ROMおよび関連資料等の第三者への譲渡、貸与または占有の移転その他の処分をし、また富士フイルムより許諾された権利を第三者に再許諾等してはいけません。
（2）お客様は、本契約にて明示的に認められた場合を除き、本ソフトおよび関連資料等を複製してはいけません。
（3）お客様は、本ソフトおよび関連資料等を改変・変更・翻案し、また本ソフトおよび関連資料等に付された著作権表示その他財産権の表示を削除してはいけません。
（4）お客様は、本ソフトのリバースエンジニアリング、逆コンパイルまたは逆アセンブルをしてはいけません。また第三者をしてこれらの行為をさせてはいけません。

4. 著作権その他の知的財産権
本ソフトおよび関連資料等に関する著作権その他の知的財産権は、富士フイルムまたは本ソフトおよび関連資料等に記載された権利者に帰属します。本契約によりお客様に許諾された場合を除き、明示または黙示を問わずいかなる権利もお客様に譲渡されまたは許諾されません。

5. 保証および免責
（1）お客様が本製品をお買上げ後90日以内に本CD-ROMに読み取り不能等の物理的欠陥が見つかった場合、富士フイルムは無償にて良品と交換します。
（2）本製品による第三者の著作権その他知的財産権の侵害の有無に関し、富士フイルムは何ら保証を行わないものとし、本製品の使用による第三者の著作権その他知的財産権の侵害およびそれによって生じるすべての損害につき、富士フイルムは一切責任を負いません。
（3）本製品は提供時の状態のままお客様に提供されるものです。富士フイルムは、第(1)項に定めるほか、商品性の保証、特定目的への適合性その他本製品につき、一切保証しません。

6. 責任の制限
富士フイルムは、「5．保証および免責」に明記されている場合を除き、いかなる場合においても、本製品の使用や使用不能から生じる損害（逸失利益、付随的、特別あるいは結果的な損害を含みますがこれに限りません）について一切責任を負いません。

7. 輸出関連法の遵守
お客様は、本ソフトを日本国の「外国為替及び外国貿易法」その他の輸出規制関連法に違反して日本国外に持ち出す等の行為を行ってはなりません。

8. 解除
お客様が本契約に違反した場合は、富士フイルムは何らの通知・催告をすることなく直ちに本契約を解除することができます。

9. 契約期間
本契約は、お客様が本ソフトの使用を開始した日に発効し、「8．解除」に基づき本契約が解除され、またはお客様が本ソフトの使用を終了するときまで有効とします。

10.契約終了後の義務
本契約が終了した場合、お客様はお客様の責任にて本ソフト（複製物を含む）、本CD-ROMおよび関連資料等をすべて消去・廃棄するものとします。

本製品に同梱されているCD-ROMを音楽用CDプレーヤーにかけないでください。
耳に障害を負う恐れや、スピーカー、イヤホンなどを破損する恐れがあります。

本書はパーソナルコンピュータ（以下パソコンといいます）とWindows、Macintoshの使用方法に関する基本的な知識をお持ちになっていることを前提として書かれています。
パソコンとWindows、Macintoshの使用方法については、それぞれに付属のマニュアルをご覧ください。
表示される画面やメニューが本書と異なる場合がありますがご了承ください。

まずお確かめください（付属品）

下記の付属品がすべてそろっているかお確かめください。

● 充電式バッテリー NP-150（1個）

● バッテリーチャージャー
BC-150（1式）

● ショルダーストラップ（1本）

● アイピースキャップ（1個）

● LCDカバー（1個）本体装着

● ボディキャップ（1個）本体装着

● FinePix S5 Pro専用ビデオケーブル（1本）
φ 3.5mm ミニプラグ×ピンプラグ：約1.5m

● USBケーブル（mini-B）（1本）

● アクセサリーシューカバー（1個）本体装着

● シンクロターミナルキャップ（1個）本体装着

● リモートレリーズ端子キャップ（1個）本体装着

● CD-ROM（1枚）
Software for FinePix CX

● 使用説明書（本書1部）

● 安全上のご注意（1部）

● 保証書（1部）

FinePix 基本操作ガイド

シャッターボタン（P.45）

半押しすると、撮影モードへの復帰を行います。全押しすると撮影されます。

電源スイッチ（P.38）／イルミネータースイッチ（P.20）

電源をON/OFF、表示パネルを点灯します。

アクセサリーシュー（P.89）

外部フラッシュを取り付けます。

シンクロターミナル（P.89）

シンクロコードを必要とするフラッシュを接続するときに使用します。

フラッシュポップアップボタン（P.76）

内蔵フラッシュを使うときに、このボタンを押して、フラッシュをポップアップします。

フォーカスモードレバー（P.43, 50）

AF-S（シングルAFサーボ）、AF-C（コンティニュアスAFサーボ）、M（マニュアルフォーカス）を切り換えます。

⚡ フラッシュシンクロモードボタン（P.79）

メインコマンドダイヤルと併用して、シンクロモードを選択します。

フラッシュ調光ボタン（P.81）

サブコマンドダイヤルと併用して、フラッシュの調光補正量を選択します。

次ページにつづく

レリーズモードダイヤル解除ボタン（P.62）

このボタンを押しながら、レリーズモードダイヤルを回します。

レリーズモードダイヤル（P.62）

S（1コマ撮影）、**CL**（低速連続撮影）、**CH**（高速連続撮影）、Ö（セルフタイマー撮影）、**MUP**（ミラーアップ撮影）を切り換えます。

MODE（露出モード）ボタン（P.67）

メインコマンドダイヤルと併用して、
露出モードを選択します。
P：プログラムオート
S：シャッター優先オート
A：絞り優先オート
M：マニュアル

FORMAT フォーマットボタン（P.37）

カメラに挿入されているメディアを初期化します。削除（フォーマット）ボタンと同時に押して使用します。

QUAL（クオリティー）ボタン（P.91, 92）

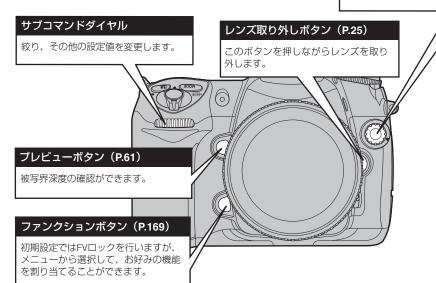
画像を記録するときの画質と画像の大きさを選択します。

ISO（感度）ボタン（P.90）

メインコマンドダイヤルと併用して、ISO感度を選択します。

WB（ホワイトバランス）ボタン（P.94, 95, 98）

コマンドダイヤルと併用して、ホワイトバランスを設定します。

露出補正ボタン（P.74）

メインコマンドダイヤルと併用して、露出補正の値を設定します。

表示パネル（P.19）

ファインダー内に表示されている情報や、その他の情報が表示されます。

10ピンターミナル

10ピンターミナル用のアクセサリーを接続するときに使用します。

サブコマンドダイヤル

絞り、その他の設定値を変更します。

レンズ取り外しボタン（P.25）

このボタンを押しながらレンズを取り外します。

プレビューボタン（P.61）

被写界深度の確認ができます。

ファンクションボタン（P.169）

初期設定ではFVロックを行いますが、メニューから選択して、お好みの機能を割り当てることができます。

次ページにつづく

BKT（オートブラケティング）ボタン（P.101）

コマンドダイヤルと併用して、オートブラケティングを設定します。
ボタンとダイヤルで設定する前に、セットアップメニューからオートブラケティングの種類を選択してください。
メインダイヤル：撮影枚数の設定
サブダイヤル：補正値の設定

削除ボタン（P.49）

画像再生中に画像を消去するときに使用します。

FORMAT フォーマットボタン（P.37）

カメラに挿入されているメディアを初期化します。
MODE（フォーマット）ボタンと同時に押して使用します。

再生ボタン（P.46）

再生画面の表示・非表示を切り換えます。

MENU（メニュー）/OKボタン

撮影メニュー、再生メニューを表示するときや、メニュー画面で、決定するときに、このボタンを押します。
撮影メニュー一覧は108ページをご参照ください。

DISP（表示）/BACK（戻る）ボタン（P.46）

メニュー画面で、取りやめるときに、このボタンを押します。また、再生モードのときに、このボタンを押して画面表示を切り換えます。

SET UP（セットアップ）ボタン（P.135）

セットアップメニューを表示するときに使用します。
セットアップメニュー 一覧は136ページをご参照ください。

フェイスズームインボタン（P.48）／ヘルプボタン（P.107）

画像再生中に顔をズーム（拡大）して表示するときや、メニュー操作中にヘルプ画面を表示するときに、このボタンを押します。
長押しするとライブ画像表示になります。

AE-L/AF-L（AE/AFロック）ボタン（P.58, 65）

押している間、露出とピントを固定します。

AF-ON（AF作動）ボタン（P.51）

押し続けると、シャッターの半押しを続けたときと同様に、カメラが自動的に被写体にピントを合わせます。

視度調節ダイヤル（P.42）

ファインダー内の像を見やすくします。フォーカスエリアが最もはっきり見えるように調節してください。

メインコマンドダイヤル

シャッタースピード、その他の設定値を変更します。

測光モードダイヤル（P.64）

マルチ・中央重点・スポットを切り換えます。

マルチセレクター

メニューの選択、フォーカスエリアの選択をします。

フォーカスエリアロックレバー（P.55）

▲▼◀▶ ボタンを使用して、フォーカスエリアを選択するときに解除します。

AFエリアモードセレクトダイヤル（P.51）

ピントを合わせるAFエリアモードの設定をします。

目次

もっと使いこなそう（再生編）

カメラの設定を変える

次ページにつづく

プリンターなどに接続する

ソフトウェアを使う

お使いになる前に

ご使用になる前に必ず別冊の「安全上のご注意」をお読みください。

■ 撮影の前には試し撮りをしましょう

大切な撮影（結婚式や海外旅行など）をするときには、必ず試し撮りをし、画像を再生して撮影されていることを確認してください。

※ 本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用および撮影により得るであろう利益の喪失など）については補償いたしかねます。

■ 著作権についてのご注意

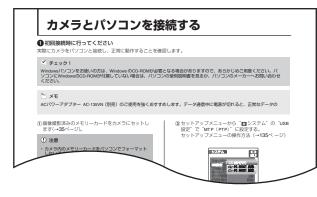
あなたがデジタルカメラで記録したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示物などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。また、著作権の目的となっている画像やファイルの記録されたメモリーカードの転送は、著作権法の規定による範囲内で使用する以外はご利用いただけませんので、ご注意願います。

■ 製品の取り扱いについて

本製品は、精密な電子部品で構成されておりますので、画像記録中にカメラ本体に衝撃を与えると、画像ファイルが正常に記録されないことがありますのでご注意ください。

■ 液晶について

液晶パネルが破損した場合、中の液晶には十分にご注意ください。万一以下の状態になったときは、それぞれの応急処置を行ってください。

- **皮膚に付着した場合：**
  付着物をふき取り、水で流し、石けんでよく洗浄してください。
- **目に入った場合：**
  きれいな水でよく洗い流し、最低15分間洗浄したあと、医師の診断を受けてください。
- **飲み込んだ場合：**
  水でよく口の中を洗浄してください。大量の水を飲んで吐き出したあと、医師の手当を受けてください。

■ 商標について

- CompactFlash™（コンパクトフラッシュ）は米国SanDisk社の商標です。
- Macintosh、iMac、iBook、Mac OSは、米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。
- Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
  Windows の正式名称は、Microsoft® Windows® Operating System です。
- その他の社名、商品名などは、日本および海外における各社の商標または登録商標です。

■ ラジオ、テレビなどへの電波障害についてのご注意

- 本製品は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。本製品は、家庭環境で使用することを目的としていますが、本製品がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書に従って正しい取り扱いをしてください。
- 本製品を飛行機や病院の中で使用しないでください。使用した場合、飛行機や病院の制御装置などの誤作動の原因になることがあります。

※ その他の注意については216ページをご参照ください。

本書について

カメラとパソコンを接続する

❶初回接続時に行ってください
実際にカメラをパソコンと接続し、正常に動作することを確認します。

チェック！
Windowsパソコンをお使いの方は、Windows のCD-ROMが必要となる場合がありますので、あらかじめご用意ください。パソコンにWindowsのCD-ROMが付属していない場合は、パソコンの使用説明書を見るか、パソコンのメーカーへお問い合わせください。

メモ
ACパワーアダプター AC-135VN（別売）のご使用を強くおすすめします。データ通信中に電源が切れると、正常なデータの

①画像撮影済みのメモリーカードをカメラにセットします(→35ページ)。

注意
・カメラ内のメモリーカードをパソコンでフォーマット

③セットアップメニューから“システム”の“USB設定”で“MTP（PTP）”に設定する。
セットアップメニューの操作方法（→135ページ）

注意

カメラを使用するときに、故障などを防ぐために注意していただきたいことを記載しています。

チェック！

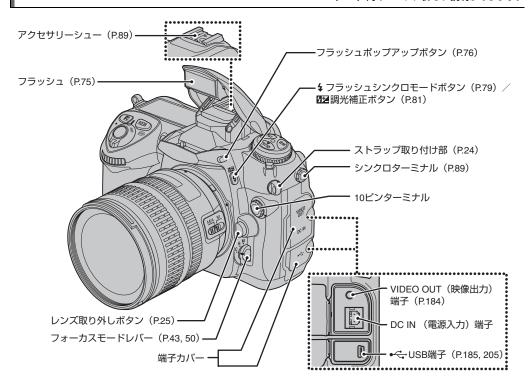
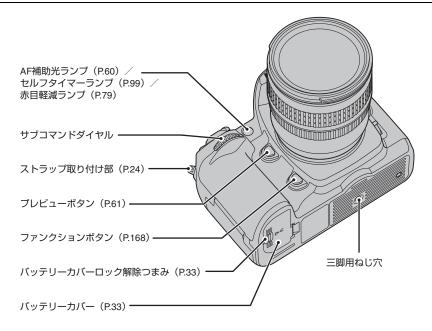
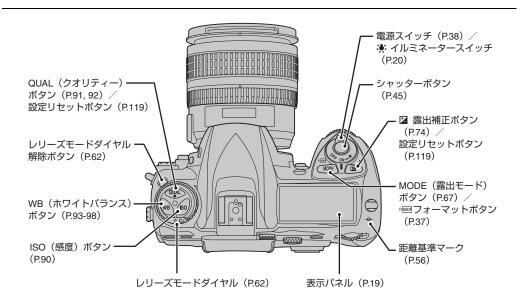
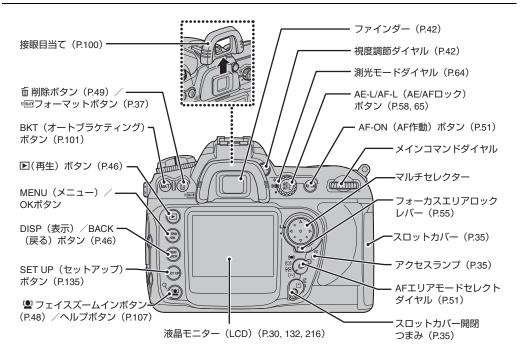
実際に操作するときに確認していただきたいことを記載しています。

メモ

カメラを使用するにあたって知っておくと便利なこと、参考になることを記載しています。

■ ボタンのイラストについて

本書ではボタンを図のように説明しています。

例：▶ ボタンを押すとき

MENU/OKボタンを押すとき

■ 表記について

コンパクトフラッシュカード（CFカード）/マイクロドライブを「メモリーカード」と表記しています。

各部の名前

＊（　　）内のページに詳しい説明があります。

次ページにつづく

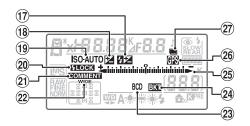
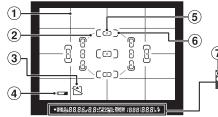
AF補助光ランプ（P.60）／
セルフタイマーランプ（P.99）／
赤目軽減ランプ（P.79）
サブコマンドダイヤル
ストラップ取り付け部（P.24）
プレビューボタン（P.61）
ファンクションボタン（P.168）
バッテリーカバーロック解除つまみ（P.33）
バッテリーカバー（P.33）
三脚用ねじ穴

電源スイッチ（P.38）／
イルミネータースイッチ（P.20）
QUAL（クオリティー）ボタン（P.91, 92）／設定リセットボタン（P.119）
シャッターボタン（P.45）
露出補正ボタン（P.74）／設定リセットボタン（P.119）
レリーズモードダイヤル解除ボタン（P.62）
MODE（露出モード）ボタン（P.67）／フォーマットボタン（P.37）
WB（ホワイトバランス）ボタン（P.93-98）
ISO（感度）ボタン（P.90）
距離基準マーク（P.56）
レリーズモードダイヤル（P.62）
表示パネル（P.19）
QUAL
WB
ISO
MODE
OFF
ON
FORMAT

接眼目当て（P.100）
削除ボタン（P.49）／
フォーマットボタン（P.37）
BKT（オートブラケティング）ボタン（P.101）
（再生）ボタン（P.46）
MENU（メニュー）／OKボタン
DISP（表示）／BACK（戻る）ボタン（P.46）
SET UP（セットアップ）ボタン（P.135）
フェイスズームインボタン（P.48）／ヘルプボタン（P.107）
液晶モニター（LCD）（P.30, 132, 216）
ファインダー（P.42）
視度調節ダイヤル（P.42）
測光モードダイヤル（P.64）
AE-L/AF-L（AE/AFロック）ボタン（P.58, 65）
AF-ON（AF作動）ボタン（P.51）
メインコマンドダイヤル
マルチセレクター
フォーカスエリアロックレバー（P.55）
スロットカバー（P.35）
アクセスランプ（P.35）
AFエリアモードセレクトダイヤル（P.51）
スロットカバー開閉つまみ（P.35）
BKT
FORMAT
AE-L
AF-L
AF-ON
CF
SET UP

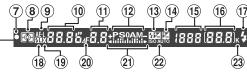
表示パネル／ファインダー／液晶モニターの表示例

■ 表示パネル

① ホワイトバランス色温度表示（P.95）
② シャッタースピード（P.67～72）
露出補正値（P.74）
調光補正値（P.81）
ISO感度（P.90）
ホワイトバランス色温度（P.95）
ホワイトバランスプリセットデータ番号（P.94）
オートブラケティングコマ数（P.101）
非CPUレンズ焦点距離（P.122）
③ フラッシュシンクロマーク（P.158）
④ プログラムシフトマーク（P.68）
⑤ 露出モード（P.67）
⑥ 画像サイズ（ピクセル）（P.92）
⑦ 画質モード（クオリティー）（P.91）
⑧ フォーカスエリア表示（P.55）
AFエリアモード表示（P.52）
⑨ ホワイトバランスモード（P.93）
⑩ 記録可能コマ数（P.45）
本体メモリの空き容量（P.63）
PCカメラモード表示
ホワイトバランスプリセットデータ
取得モード表示（P.98）
⑪ 1000コマ以上補助表示（P.23）
⑫ バッテリー残量表示（P.34）
⑬ フラッシュシンクロモード（P.79）
⑭ ビープ音マーク（P.183）
⑮ 絞り値（P.67～72）
絞り込み段数（P.70、73）
オートブラケティング補正値（P.102）
非CPUレンズ開放絞り値（P.123）
PC接続中マーク（P.205）
⑯ 絞り込み段数マーク（P.70、73）

次ページにつづく

⑰ 調光補正マーク（P.81）
⑱ 露出補正マーク（P.74）
⑲ ISO感度マーク（P.90）
感度自動制御設定マーク（P.155）
⑳ FVロックマーク（P.82）
㉑ 画像コメント入力設定マーク（P.143）
㉒ フォーカスエリアワイドフレームマーク（P.54）
㉓ バーコードデータ入力表示（P.144）
㉔ オートブラケティングマーク（P.102）

㉕ 露出インジケーター（P.72）
露出補正インジケーター（P.74）
オートブラケティングインジケーター（P.102）
PC接続中インジケーター（P.205）
㉖ GPS通信マーク（P.146）
㉗ 多重露出マーク（P.114）

■ イルミネーターについて

イルミネーターを点灯させせると、暗いところで表示パネルが確認しやすくなります。電源スイッチを“☀”イルミネーターまで回すと、表示パネルが照明されます。電源スイッチを放すと電源スイッチは“ON”の位置まで自動的に戻り、点灯し続けます。ただし、シャッターを切った直後やオートパワーセーブが働いて待機状態になったときには消灯します。

■ ファインダー

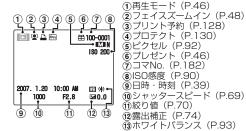
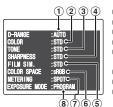
① 構図用格子線（P.23）
（セットアップメニューで“▣表示”の“格子線表示”を“ON”に設定している場合のみ表示されます。）
② 中央部重点測光エリアφ8mm（P.64）
③ カードなしマーク*（P.226）
④ バッテリー残量表示*（P.34）
⑤ フォーカスエリア（ノーマルフレーム）（P.53）
⑥ フォーカスエリア（ワイドフレーム）（P.53）
⑦ ピント表示（P.44、50）
⑧ 測光モード（P.64）
⑨ AEロックマーク（P.66）
⑩ シャッタースピード（P.67～72）
⑪ 絞り値（P.67～72）
絞り込み段数（P.70、73）
⑫ 露出モード（P.67）
⑬ 調光補正マーク（P.81）
⑭ 露出補正マーク（P.74）
⑮ ISO感度（P.90）
⑯ 記録可能コマ数（P.45）
本体メモリの空き容量（P.63）
ホワイトバランスプリセット
データ取得モード表示（P.98）
露出補正値（P.74）
調光補正値（P.81）
PC接続中マーク（P.205）
⑰ レディーライト（P.76）
⑱ FVロックマーク（P.82）
⑲ フラッシュシンクロマーク（P.158）
⑳ 絞り込み段数マーク（P.70、73）
㉑ 露出インジケーター（P.72）
露出補正インジケーター（P.74）
㉒ 感度自動制御設定マーク（P.155）
㉓ 1000コマ以上補助表示（P.23）

* セットアップメニューの“▣表示”の“ファインダー内警告表示”で非表示にできます。

次ページにつづく

■ 液晶モニター（LCD）

画像情報1

輝度（MASTER）、赤色（RED）、緑色（GREEN）、青色（BLUE）のヒストグラム、高輝度警告表示の5パターンを表示できます。

注意　高輝度警告について

露出オーバーして、白トビした箇所を黒く点滅して表示します。

高輝度警告

画像情報2

①再生モード（P.46）
②フェイスズームイン（P.48）
③プリント予約（P.128）
④プロテクト（P.130）
⑤ピクセル（P.92）
⑥プレゼント（P.46）
⑦コマNo.（P.182）
⑧ISO感度（P.90）
⑨日時・時刻（P.39）
⑩シャッタースピード（P.69）
⑪絞り値（P.70）
⑫露出補正（P.74）
⑬ホワイトバランス（P.93）

① D-RANGE（P.111）
② COLOR（P.112）
③ TONE（P.112）
④ SHARPNESS（P.113）
⑤ フィルムシミュレーション（P.110）
⑥ 色空間（P.113）
⑦測光モード（P.64）
⑧露出モード（P.67）

①②③④
LENS :20-80mm F3.5-5.6
FOCAL LENGTH :38mm
FLASH :---
COMMENT :XXXXXXXXXXXX XXXXXXXXXXXX XXXXXXXX

①レンズ
②焦点距離
③フラッシュシンクロモード（P.79）
④画像コメント（P.143）

メモ

- 液晶モニターで撮影画像表示中または1コマ再生中に“DISP/BACK”ボタンを押すと画面表示が切り換わります。
  ヒストグラム、画像情報を表示しているときに、▲▼を押すとヒストグラムや画像情報内容をさらに切り換えることができます。
- 画像情報2を表示しているときに、▲▼を数回押すと、フォーカスフレームを表示することができます。

■ 1000コマ以上の補助表示

記録可能コマ数が1000コマ以上あるときに点灯します。たとえば1260コマ撮影できるときは、下のように表示されます。

■ 電源OFF時の表示

電源がOFFのときも、バッテリーが入っていれば、表示パネルには記録可能コマ数が表示されます。

注意

- カメラにバッテリーが入っていない、あるいはバッテリー残量が全くない状態では、ファインダー全体が暗くなり、像がはっきりと見えませんが、故障ではありません。新しいバッテリーを入れると明るくなります。
- ファインダー内（フォーカスエリア、構図用格子線）の液晶表示は、高温下では薄くなり、低温下では濃くなって液晶の応答速度が多少遅くなることがありますが、常温時には正常に戻ります。
- 表示パネルとファインダー内表示（マークや数字の表示されるところ）の液晶表示は、高温下では黒くなり、低温下では液晶の応答速度が多少遅くなることがありますが、常温時には正常に戻ります。

バリブライト・フォーカスエリア／マルチディスプレイ・スクリーンについて

このカメラはフォーカスエリアを選択すると、選択されたフォーカスエリアがファインダースクリーン上に鮮明に表示される、バリブライト・フォーカスエリアを装備しています。この機能により、周囲が明るい場合はフォーカスフレームを黒く表示し、周囲が暗い場合はフォーカスフレームを瞬間的に赤く表示しますので、選択されたフォーカスエリアを素早く確認することができます。さらにセットアップメニューで“表示”の“格子線表示”を“ON”に設定することにより、構図用の格子線を表示させるマルチディスプレイ・スクリーンも装備しています。この構図用の格子線は撮影時の構図決定に効果的で、風景撮影やPCニッコールを使用してアオリ撮影などを行うときに便利です。

* これらの機能に使用されている液晶の特性により、選択されたフォーカスエリアから外側に延びる細い線が見える場合やフォーカスフレームを照明する際にファインダー内が赤くなる場合がありますが、いずれも故障ではありません。

ストラップ、レンズを取り付ける

ストラップを取り付ける

ストラップをストラップ取り付け部に取り付けます。両端を取り付けたら、ストラップが外れないことを十分にご確認ください。

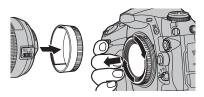
注意

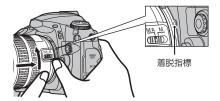
ストラップの取り付けかたを間違えると、カメラが落下するおそれがありますので、しっかり取り付けてください。

レンズを取り付ける

❶ レンズの種類を確認します。

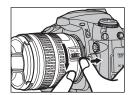
CPU内蔵ニッコールレンズにはCPU信号接点があります。

Gタイプニッコールレンズ（絞りリングなし）

Gタイプ以外のCPU内蔵ニッコールレンズ（絞りリングあり）

メモ

詳細は「このカメラに使用可能なレンズについて」（→26ページ）をご参照ください。

❷ カメラの電源スイッチを“OFF”に合わせて、電源を切ります。(→38ページ)

❸ レンズの裏ぶたとカメラのボディーキャップを外します。

❹ カメラとレンズの着脱指標を合わせて、レンズを矢印方向にカチッと音がするまで回します。

> **注意**
>
> - レンズの交換は必ずゴミやほこりの少ないところで行ってください。
> - レンズを取り付けるときは、レンズ取り外しボタンを押さないでください。
> - レンズをカメラに対して傾いた状態で取り付けようとすると、カメラのレンズ取り付け部分を傷つける可能性がありますのでご注意ください。

カメラからレンズを取り外すには

カメラの電源をOFFにして、レンズ取り外しボタンを押しながら、レンズを矢印の方向へ回して外します。
カメラからレンズを外しておくときは、ミラーやファインダースクリーンへのゴミやほこりの付着を防ぐために、付属のボディキャップを装着して、カメラの内部を保護してください（ニコン製ボディキャップもご使用になれます）。

次ページにつづく

■ このカメラに使用可能なレンズについて

このカメラには、CPU 内蔵ニッコールレンズ（IX ニッコールレンズを除く）をご使用ください。
特に、D タイプまたはG タイプAF ニッコールレンズを装着すれば、全ての機能が使用できます。

CPU内蔵ニッコールの種類と使用できるその他のレンズ等について

レンズ ＼ モード		フォーカスモード			露出モード		測光モード		
							マルチパターン測光		中央部重点測光/スポット測光
		オートフォーカス	フォーカスエイド	マニュアル	P、S	A、M	3D-RGB	RGB	
CPUレンズ*2	Gタイプレンズ*3、Dタイプレンズ*3、AF-Iレンズ、AF-Sレンズ	○	○	○	○	○	○	—	○*1
	PCマイクロ85mm F2.8D*4	—	○*5	○	—	○*6	○	—	○*1
	AF-S/AF-Iテレコンバーター*7	○*8	○*8	○	○	○	○	—	○*1
	Gタイプ・Dタイプ以外のAFレンズ（F3AF用を除く）	○*9	○*9	○	○	○	—	○	○*1
	Ai-Pニッコール	—	○*10	○	○	○	—	○	○*1
非CPUレンズなど*11	Ai-S、Ai、シリーズEレンズ、*12 改造Aiレンズ	—	○*10	○	—	○*13	—	○*14	○*15
	メディカル120mm F4	—	○	○	—	○*16	—	—	—
	レフレックスレンズ	—	—	○	—	○*13	—	—	○*15
	PCニッコール	—	○*5	○	—	○*17	—	—	○
	Ai-S、Aiテレコンバーター*18	—	○*8	○	—	○*13	—	○*14	○*15
	AFテレコンバーター TC-16AS	—	○*8	○	—	○*13	—	○*14	○*15
	ベローズPB-6*19	—	○*8	○	—	○*20	—	—	○
	オート接写リング（PK-11A.12.13.PN-11）	—	○*8	○	—	○*13	—	—	○

[*1] フォーカスエリアの選択によりスポット測光エリアの移動ができます。(→64ページ)。
[*2] IXレンズは装着できません。
[*3] このカメラはVRレンズのVR（手ブレ補正）機能に対応しています。
[*4] カメラの測光モード、および調光制御機能は、アオリ操作（シフトまたはティルト）を行っているとき、または開放絞り以外に絞りがセットされているときには、正しく機能しません。
[*5] アオリ操作を行っていない場合のみ可能です。
[*6] 露出モードはマニュアル（M）で使用可能です。
[*7] AF-Sレンズ、AF-Iレンズ専用（ただしAF-S DX ED12-24mm F4G、AF-S ED17-35mm F2.8D、AF-S DX ED17-55mm F2.8G、AF-S DX ED18-55mm F3.5-5.6G、AF-S DX ED18-70mm F3.5-4.5G、AF-S DX VR ED 18-200mm F3.5-5.6G、AF-S DX ED55-200mm F4-5.6G、AF-S ED24-85mm F3.5-4.5G、AF-S VR ED24-120mm F3.5-5.6G、AF-S ED28-70mm F2.8Dは使用不可)。
[*8] 合成絞りがf/5.6以上明るい場合に使用できます。
[*9] AF80-200mm F2.8S、AF35-70mm F2.8S、AF28-85mm F3.5-4.5S（New)、AF28-85mm F3.5-4.5Sレンズを使用し、ズームの望遠側かつ至近距離で撮影した場合、ファインダースクリーンのマット面の像とオートフォーカスのピント表示が合致しない場合があります。このような場合は、マニュアルフォーカスによりファインダースクリーンのマット面を利用してピントを合わせて撮影してください。
[*10] 開放絞りがf/5.6以上明るいレンズのみ使用可能です。
[*11] 一部装着不可能なレンズ（→29ページ）があります。
[*12] Ai ED80-200mm F2.8S の三脚座を回転するとカメラと干渉するため、回転方向に制限があります。
Ai ED200-400mm F4S をカメラに装着したままでのフィルター交換はできません。
[*13] レンズ情報手動設定（→120ページ）でレンズの開放絞り値を設定することにより表示パネル、ファインダー内に絞り値が表示されます。
[*14] レンズ情報手動設定（→120ページ）でレンズの焦点距離、開放絞り値を設定することにより可能です。一部のレンズでは焦点距離と開放絞り値を設定しても充分な精度が得られない場合があります。この場合は中央部重点測光またはスポット測光を選択して撮影してください。
[*15] レンズ情報手動設定（→120ページ）で焦点距離、開放絞り値を設定することにより、測光の精度が向上します。
[*16] 露出モードはマニュアル（M）でシャッタースピードは1/125秒以下で使用できます。レンズ情報手動設定（→120ページ）でレンズの開放絞り値を設定することにより表示パネル、ファインダー内に絞り値が表示されます。
[*17] 絞り込み測光で使用します。露出モードが絞り優先オート（A）の場合はレンズ側で絞りプリセットを行い、AEロック後アオリを行ってください。露出モードがマニュアル（M）の場合はレンズ側で絞りプリセットを行い、アオる前に測光して露出を決定してください。

次ページにつづく

*18 Ai 28-85mm F3.5-4.5S、Ai 35-105mm F3.5-4.5S、Ai 35-135mm F3.5-4.5S、AF-S 80-200mm F2.8D レンズとの組み合わせによっては、露出補正を行う必要があります。詳細はテレコンバーターの使用説明書をご覧ください。

*19 オート接写リングPK-12またはPK-13を併用すると装着できます。

*20 絞り込み測光で使用可能、露出モードが絞り優先オート（A）の場合はベローズ側で絞り込みを行い、測光後撮影してください。

・複写装置PF-4へはカメラアダプター PA-4を併用すると装備できます。

■ GタイプおよびGタイプ以外のCPU内蔵ニッコールレンズについて

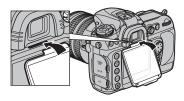
Gタイプニッコールレンズは、レンズ本体から絞りリングをなくしたレンズです。このため、このカメラに使用する場合、従来の絞りリングがあるレンズのように、絞りリングを最小絞り（最も数値の大きい絞り）にセットする必要はありません。

Gタイプ以外のCPU内蔵ニッコールレンズには、絞りリングがあります。本機に使用する場合は、絞りリングを最小絞りにセットしてロックします。絞りリングが最小絞りにセットされていないときは、電源スイッチを“ON”にすると上面表示パネルとファインダー内表示に“FEE”が点滅し、シャッターが切れません。

■ CPU内蔵ニッコール以外のレンズ装着時には

非CPUレンズを使用する場合は、セットアップメニューから“拡張”の“レンズ情報手動設定”（→120ページ）でレンズの焦点距離と開放絞り値を設定することによって、絞り値表示、RGBマルチパターン測光などCPU レンズをカメラに装着した場合の機能の一部が使用可能になります。レンズの焦点距離と開放絞り値を設定しない場合、RGBマルチパターン測光が使用できなくなり、RGBマルチパターン測光にセットした場合は、自動的に中央部重点測光で測光されます。

また、非CPUレンズを使用する場合は、露出モードがA（絞り優先オート）、M（マニュアル）でのみ使用可能になります。絞りのセットは、レンズの絞りリングでのみ行えます。“レンズ情報手動設定”でレンズの開放絞り値を設定しない場合、表示パネルとファインダー内の絞り値表示が開放からの絞り込み段数表示となりますので、絞りの確認は、レンズの絞りリングで行ってください。露出モードをP（プログラムオート）またはS（シャッター優先オート）にセットした場合は、露出モードを自動的にA（絞り優先オート）に切り換えて制御します。この場合、表示パネルのPまたはSが点滅して警告し、ファインダー内表示に**A**が点灯します。

■ 使用できないCPU内蔵ニッコール以外のレンズ

下記のCPU内蔵ニッコール以外のレンズは使用できません。無理に装着しようとすると、カメラやレンズを破損しますのでご注意ください。

- Ai改造をしていないレンズ（Ai方式以前の連動爪を使用するタイプ）
- フォーカシングユニットAU-1を必要とするレンズ（400mm F4.5、600mm F5.6、800mm F8、1200mm F11）
- フィッシュアイ（6mm F5.6、8mm F8、OP10mm F5.6）
- 旧21mm F4
- K2 リング
- ED180-600mm F8（製品No.174041～174180）
- ED360-1200mm F11（製品 No.174031～174127）
- 200-600mm F9.5（製品 No.280001～300490）
- F3AF用（80mm F2.8、200mm F3.5、テレコンバーター TC-16S）
- PC28mm F4（製品 No.180900以前の製品）
- PC35mm F2.8（製品 No.851001～906200）
- 旧PC35 mm F3.5
- 旧レフレックス1000mm F6.3
- レフレックス1000mm F11（製品 No.142361～143000）
- レフレックス2000mm F11（製品 No.200111～200310）

LCDカバーを取り付ける

液晶モニターの破損や汚れを防ぐため、カメラを使用しないときや持ち運ぶときは、付属のLCDカバーをカメラに取り付けてください。

❶ 液晶モニター部の上にある溝にLCDカバーの上部をはめ込みます。

❷ LCDカバーの透明な部分が液晶モニターと重なるように置き、カチッと音がするまで上から軽く押します。

LCDカバーを取り外すには

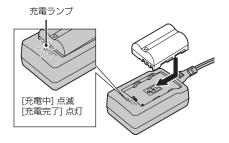
カメラをしっかりと支え、上図のようにLCDカバーの下からゆっくりと外してください。

バッテリーを充電する

お買い上げ時にバッテリーは充電されていません。カメラをお使いになる前に必ず充電してください。

■ 使用するバッテリー

充電式バッテリー NP-150

■ 充電式バッテリー NP-150について

充電式バッテリー NP-150は、カメラに入れることにより、バッテリーに関する情報について通信を行うことができるリチウムイオンバッテリーです。この通信機能により、バッテリーの状態をカメラで確認することができます。NP-150をこのカメラで使用した場合、表示パネルで6段階の表示を行う（→34ページ）ほか、セットアップメニューで“メンテナンス”の“電池チェック”（→178ページ）により、液晶モニターに詳細なバッテリーの残量や、直前の充電からの合計撮影回数、バッテリーの劣化度を表示することができます。

注意

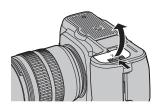
- 本機には専用の充電式バッテリー以外はお使いになれません。
- 工場出荷時に同梱のバッテリーはフル充電されていません。お使いになる前に必ず充電してください。
- カメラとACパワーアダプターを直接接続してもバッテリーを充電することはできません。
- 電極に汚れがあると充電できない場合があります。充電前にバッテリーの電極、充電器の端子を乾いたきれいな布などで清掃することをおすすめします。
- 低温時は充電時間が長くなることがあります。
- NP-150は使わなくても、少しずつ放電しています。撮影の直前（1～2日前）にはNP-150を充電してください。
- バッテリーにラベルなどをはらないでください。カメラから取り出せなくなることがあります。
- バッテリーについてのご注意は221、222ページをご参照ください。

次ページにつづく

❶ 同梱のバッテリーチャージャー BC-150を電源コンセントに接続します。

❷ バッテリーチャージャーにバッテリーを、表示に従って正しくセットすると充電が開始されます。

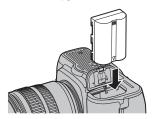
注意

充電が終わったら、バッテリーを取り外し、電源プラグをコンセントから抜いてください。

メモ

使い切ったバッテリーを充電するには約2時間15分かかります。

バッテリーを入れる

❶カメラの電源スイッチを“OFF”に合わせて、電源を切ります。(→38ページ)

❷バッテリーカバーを開けます。

注意

バッテリーカバーに無理な力を加えないでください。

❸バッテリーを入れます。

下図のように、正しい向きでいれてください。

❹バッテリーカバーを閉めます。

バッテリーを取り出すには

バッテリーをカメラから取り出す前に、必ず電源がOFFになっていることを確認してください。取り外したバッテリーには、ショートを防止するため、必ず付属の端子カバーを取り付けてください。

バッテリー残量について

電源を入れ、表示パネルまたはファインダーでバッテリー残量を確認します。

表示パネル	ファインダー	意味
	表示なし	バッテリーは充分に残っています。
	表示なし	バッテリーが減り始めました。
		バッテリーが残り少なくなりました。バッテリー交換の準備をしてください。
（点滅）	（点滅）	撮影できません。バッテリーを交換してください。

注意　バッテリーについて

- 温度が低いところで使用したとき、バッテリーの特性上バッテリー残量不足の表示（、（点滅））が早く出る場合があります。バッテリーをポケットなどで温めて使用することをおすすめします。
- モードによっては“”から“（点滅）”になるまでの時間が短くなることがあります。
- バッテリーについてのご注意は221、222ページをご参照ください。

メモリーカードを入れる

本機は、撮影した画像をコンパクトフラッシュ／マイクロドライブに記録します。
この使用説明書ではコンパクトフラッシュカード（CFカード）／マイクロドライブを「メモリーカード」と表記しています。

■ 使用可能なコンパクトフラッシュ／マイクロドライブ

次のコンパクトフラッシュカード（CFカード）とマイクロドライブが使用可能です。

・SanDisk 社製コンパクトフラッシュカード

SDCFH シリーズ（Ultra Ⅱ）	512MB、1GB、2GB、4GB
SDCFX シリーズ（Extreme Ⅲ）	1GB、2GB、4GB

・マイクロドライブ

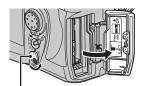
DSCM-11000	1GB
3K4-2	2GB
3K6	4GB、6GB

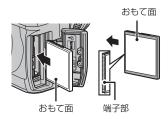
注意

・上記メモリーカードの機能、動作の詳細、動作保証などについては、メモリーカードメーカーにご相談ください。
その他のメーカー製のメモリーカードにつきましては、動作の保証はいたしかねます。
・マイクロドライブはハードディスクです。マイクロドライブを使用する場合は、カメラに振動や衝撃を与えないよう十分にご注意ください（特に記録中や再生中にはご注意ください）。

❶ カメラの電源スイッチを“OFF”に合わせて、電源を切ります。(→38ページ)

アクセスランプが消灯していることを確認してください。

❷ スロットカバー開閉つまみを回して、スロットカバーを開けます。

スロットカバー開閉つまみ

注意

スロットカバーは、絶対に電源を入れたまま開けないでください。メモリーカードまたは画像ファイルなどが壊れることがあります。

次ページにつづく

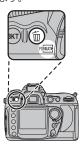
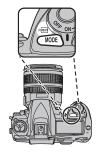
❸ メモリーカードを入れます。

下図のように正しい向きで、スロットの中に挿入してください。
メモリーカードが正しく挿入されると、アクセスランプが点灯（緑色）します。

注意

向きを間違えて挿入すると、カメラおよびメモリーカードが破損するおそれがあります。正しい方向で挿入しているか、再度ご確認ください。また、無理に押し込まないでください。

❹ スロットカバーを閉めます。

メモリーカードを取り出すには

スロットカバーを開け、イジェクトボタンを押し、メモリーカードを取り出します。

メモリーカードを初期化（フォーマット）するには

メモリーカードを初期化すると、カード内のデータはすべて消えてしまいます。カード内に必要なデータが残っている場合は、初期化の前に、パソコンなどに保存してください。

① 電源をONにします（→38ページ）。

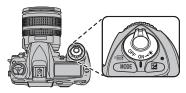
② “🗑”ボタンと“MODE”ボタンを同時に約2秒以上押します。

③ 表示パネルとファインダー内表示にFor（フォーマット）という文字が点滅したら、再度“🗑”ボタンと“MODE”ボタンを押します。

④ 初期化が完了すると、表示パネルに記録可能コマ数（これから撮影できるコマ数）が表示されます。

注意

初期化中は、電源をOFFにしたり、バッテリーやメモリーカードを取り出したりしないでください。

メモ

- For（フォーマット）表示が点滅しているときに“🗑”ボタンと“MODE”ボタン以外のボタンを押すと、初期化は解除されます。
- セットアップメニューの“⚙システム”の“フォーマット”からもメモリーカードの初期化を行えます。

電源を入れる／切る

電源を入れるには、電源スイッチを“ON”に合わせます。
電源を切るには“OFF”に合わせます。

使用する言語と日時を設定する

ご購入後初めて電源を入れたときは、使用する言語と日時が設定されていません。確認画面が表示されますので、使用する言語と日時を設定しましょう。

❶ 電源を入れると言語設定画面が表示されます。

① 使用する言語を選びます。

② “MENU/OK”ボタンを押すと、設定が完了します。

❷ 日時を設定します。

① 設定したい項目（年、月、日、時、分）を選びます。

② ▲▼を押して日時設定を変更します。

メモ

- 設定中に▲または▼を押し続けると数字が連続して変わります。
- 時設定で12を越えると自動的にAM（午前）/PM（午後）が切り換わります。

❸ 日付の並び順を変更します。

① "日付の並び順" を選びます。

② 並び順を設定します。

③ "MENU/OK" ボタンを押すと、設定が完了します。

日付の並び順について

例）2007年1月20日
年. 月. 日：2007.1.20
月/日/年 ：1/20/2007
日. 月. 年：20.1.2007

次ページにつづく

メモ

バッテリーを取り外して長期間保管したときも言語設定と日時設定がクリアされ確認画面が表示されます。ACパワーアダプターを接続またはバッテリーを入れて約2日間以上経過していれば、カメラから両方とも取り外しても、約6ヶ月間保持されます。

オートパワーセーブ機能

オートパワーセーブ機能を有効にして、設定した時間操作しないと自動的に待機状態になります（→183ページ）。待機状態になると、表示パネルのシャッタースピード／絞り値表示とファインダー内表示が消灯します。待機状態から復帰するには、シャッターボタンを半押しするか、“▶”ボタンを押します。

日時を再設定する

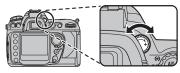
❶ セットアップメニューを表示します。

① “SET-UP” ボタンを押して、セットアップメニューを表示します。

② “時間・言語/LANG.” を選びます。

③ 時間・言語/LANG.画面を表示します。

❷ 日時設定の画面を表示します。

① “日時設定” を選びます。

② 日時設定の画面を表示します。➡「使用する言語と日時を設定する」（→38ページ）をご参照ください。

ファインダーの見えかたを調節する

撮影するときは、ファインダーをのぞきながら構図を決めます。あらかじめ、ファインダー内がはっきり見えるように調節してください。

レンズキャップを外して、ファインダーをのぞきながら視度調節ダイヤルを左右に回し、フォーカスエリアの枠線（シャッターボタンを半押ししたときに表示されます）が最もはっきり見えるように調節してください。

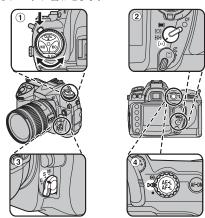
フォーカスエリア

注意

ファインダーをのぞきながら視度調節ダイヤルを回すときは、目に近い位置での操作となりますので、指先やつめで目を傷つけないように注意してください。

カメラまかせの初期設定で撮影する

ここではカメラをご購入時の状態（初期設定）で撮影するための基本的な流れを説明します。

❶ 電源スイッチを“ON”に合わせて、電源を入れます。

> メモ
>
> ・バッテリーの残量を確認する（→34ページ）
> ・撮影可能枚数を確認する（→45ページ）

❷ 撮影に関する設定をします。

① レリーズモードダイヤル解除ボタンを押しながら、レリーズモードダイヤルを**S**（1コマ撮影）に合わせます。

② AFエリアモードセレクトダイヤルを[::]（シングルエリアAF）に合わせます。

③ フォーカスモードレバーを**S**（シングルAFサーボ）に合わせます。

④ 測光モードダイヤルを[マルチパターン測光アイコン]（マルチパターン測光）の位置にセットします。

使ってみよう

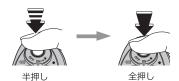
次ページにつづく

カメラの上手な構えかた

右手でカメラのグリップを包み込むようにしっかりと持ち、左手でレンズを支えます。
両手で構えて脇を締めます。

注意

- 撮影するときにカメラが動くとブレた画像になってしまいます。しっかりと構えて撮影しましょう。
- レンズやフラッシュ、AF補助光ランプに指やストラップがかかったまま撮影するとピントが合わなかったり、適正な明るさ（露出）で撮影できないことがあります。

❸ 被写体に中央のフォーカスエリアを合わせて、シャッターボタンを半押しします。

ファインダー内ピント表示	意味
●（点灯）	被写体にピントが合っています。
●（点滅）	オートフォーカスでピントを合わせることができません。

メモ

- シャッターボタンを軽く押すと途中で少し止まるところがあります。そこまで押すことを半押しといいます。半押ししたときにピントと明るさが決まります。
- シャッターボタンを半押しにすると、そのときレンズ動作音が発生します。

❹ 半押しの状態からさらに押し込んで（全押し）、撮影しましょう。

メモ

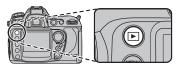
被写体が中央のフォーカスエリアから外れてしまう場合は、フォーカスロック撮影を行ってください（→57ページ）。

注意

警告表示については225～229ページをご参照ください。そのほか疑問に感じたことなどがありましたら、「困ったときは」（→230～234ページ）をご参照ください。

■ 撮影可能枚数について

表示パネルとファインダーに撮影可能枚数が表示されます。撮影条件やメモリーカードの種類によって、撮影可能枚数は異なります。

 メモ

メモリーカードの標準撮影枚数については238ページをご覧ください。

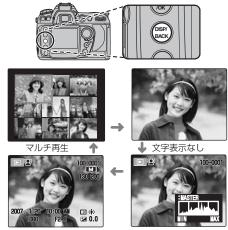
撮影した画像を見る

思っていたとおりに撮影できているかどうか、再生して見てみましょう。
特に大切な撮影の時には試し撮りをして、確認してください。

再生モードに切り換える

“▶”ボタンを押すと、再生モードに切り換わります。

メモ

“▶”ボタンを押したときは、最後に撮影した画像が表示されます。

注意　再生できる静止画について

本機で記録した静止画、CF/マイクロドライブ対応の弊社製デジタルカメラで記録した静止画（一部非圧縮画像を除く）が再生できます。なお、本機以外のカメラで撮影した静止画はきれいに再生できない場合や、再生ズームができない場合があります。
本機以外のカメラで撮影した画像を再生した場合、画面に“”プレゼントアイコンが表示されます。

画面表示を切り換える

“DISP/BACK”ボタンを押すごとに画面表示が切り換わります。

メモ

画像表示１、画像表示２のときにマルチセレクターの▲▼を押すと、画像情報の表示内容を切り換えることができます。

1コマ再生する

見たい画像を選びます。
◀：前の画像が表示されます。
▶：次の画像が表示されます。

再生ズーム

❶拡大／縮小する

1コマ再生時に画像をズーム（拡大）できます。

▼ボタン（縮小）　**▲ボタン**（拡大）

拡大、縮小します。

メモ

再生ズームを解除するには、“DISP/BACK”ボタンを押します。

❷表示範囲を移動する

①表示を切り換えます。

②見える範囲を移動します。

メモ

ズーム画面に戻るには、“▶”ボタンを押します。

■ ズーム倍率

ピクセル	最大ズーム倍率
L 4256×2848	約5.9倍
M 3024×2016	約4.2倍
S 2304×1536	約3.2倍

使ってみよう

次ページにつづく

フェイスズームイン

１コマ再生時にこのカメラで撮影した画像の人物の顔をズーム（拡大）できます。人物の顔が認識されなかった場合は中央部分を拡大して表示します。

❶ 顔を拡大する

顔を拡大します。
顔が複数認識されたときは押すたびに表示される顔が切り換わります。

メモ

▲か▼を押すと、通常の再生ズームになります。フェイスズームイン画面に戻るには、“ [顔アイコン] ”ボタンを押します。

❷ 表示範囲を移動する

ナビゲーション画面
（現在の表示位置）

① 表示を切り換えます

② 見える範囲を移動します。

メモ

フェイスズームインを解除するには、“DISP/BACK”ボタンを押します。

マルチ再生する

9コマ表示され、そこから見たい画像を選ぶことができます。

① 見たい画像を選びます。
▲か▼を数回押すと次のページが表示されます。

② “MENU/OK” ボタンを押すと、選んだ画像が大きく表示されます。

メモ

マルチ再生中に“ ”ボタンを押すと、フェイスズームインまたは再生ズーム画面になります。

ダイレクト消去する

1コマ再生時に“ ”ボタンを使用して、簡単に画像を削除することができます。

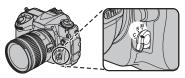
① 消去するコマ（ファイル）を選びます。

② 消去確認画面を表示します。

③ “実行” を選びます。

④ “MENU/OK” ボタンを押すと、表示中のコマ（ファイル）が消去されます。

注意

誤って消去するともとに戻せません。

フォーカス設定

フォーカスモード、フォーカスエリア、AFエリアモードを設定することにより、カメラのフォーカス（ピント合わせ）機能をコントロールします。

フォーカスモードの選択

フォーカスモードレバーで、フォーカスモードを選びます。

S（AF-S・シングルAFサーボ）

ファインダー内の“●”ピント表示が点灯した状態でシャッターボタンの半押しを続けると、ピントはそこで固定（フォーカスロック）されるモードです。風景などの静止した被写体の撮影に向いています。
初期設定はピント表示が点灯したときのみシャッターがきれるフォーカス優先モードです。

C（AF-C・コンティニュアスAFサーボ）

ファインダー内の“●”ピント表示が一旦点灯してもフォーカスロックは行われず、シャッターをきるまでピント合わせの動作を続けるモードです。スポーツなどの動く被写体の撮影に向いています。シャッターボタンの半押しを続けると、被写体が動いている場合には予測駆動フォーカス（➞51ページ）に切り替わり、被写体の動きに応じてピントを追い続けます。
初期設定はピント表示の点灯／消灯にかかわらず、いつでもシャッターをきることができるレリーズ優先モードです。

M（マニュアルフォーカス）

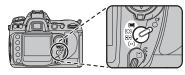
撮影者自身がレンズのフォーカスリングを回してピントを合わせるモードです。開放絞り値がf/5.6よりも明るいレンズを装着すると、ファインダー内の“●”ピント表示によって合焦状態を確認できる「フォーカスエイドによるピント合わせ」（➞57ページ）が行えます。また、ピント表示の点灯／消灯にかかわらず、いつでもシャッターをきることができます。

メモ

オートフォーカスに対応していないレンズを使用している場合や、オートフォーカスでピント合わせができない場合は**M**（マニュアルフォーカス）にセットしてください。

■ “AF-ON”ボタンについて

“AF-ON”ボタンを押し続けると、シャッターボタンの半押しを続けたときと同様にカメラが自動的に被写体にピントを合わせることができます。

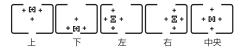
■ 予測駆動フォーカスについて

フォーカスモードレバーを**C**（コンティニュアスAFサーボ）にセットして、シャッターボタンを半押し、または“AF-ON”ボタンを押し続けてピント合わせを行っているとき、動いている被写体であるとカメラが認識すると、自動的に予測駆動フォーカスに切り替わります。予測駆動フォーカス作動時は、シャッターがきれる時点での被写体の到達位置を予測しながらピントを追い続けます。

AFエリアモードの選択

フォーカスモードが**S**（シングルAFサーボ）、または**C**（コンティニュアスAFサーボ）のとき、ピントを合わせるフォーカスエリアをカメラがどのように選択するかを設定することができます。

AFエリアモードセレクトダイヤルで、AFエリアモードを選びます。

[ ] シングルエリアAFモード

指定した1つのフォーカスエリアのみでピントを合わせるモードです。
動きの少ない被写体に対して、選択したフォーカスエリア単独で正確にピントを合わせたい場合などに便利です。

[ ] ダイナミックAFモード

指定した1つのフォーカスエリアから被写体が外れてしまった場合でも、他のフォーカスエリアの情報を利用してピント合わせるモードです。
フォーカスモードの**C**（コンティニュアスAFサーボ）と組み合わせて、動いている被写体（特に不規則な動きをする被写体）を追い続けるときなど、被写体をフォーカスエリアに正確に捉え続けることが困難な場合に便利です。

次ページにつづく

グループダイナミックAFモード

1つのグループを選択してピントを合わせるモードです。隣り合う複数のフォーカスエリアを組み合わせ、5つのグループを構成します。

指定したグループの中央にあるフォーカスエリアから被写体が外れてしまった場合でも、グループ内のフォーカスエリアの情報を利用してピント合わせをします。

至近優先ダイナミックAFモード

すべてのフォーカスエリアのうち、一番手前の被写体を捉えているフォーカスエリアを使って、ピントを合わせるモードです。いずれかのフォーカスエリアにピントが合いますので、ピントのはずれた画像を避けることができます。

メモ

フォーカスモードが**M**（マニュアルフォーカス）のときは、AFエリアモードが自動的に（シングルエリアAFモード）になります。

■ 表示パネルの表示

シングルエリアAFモード	
ダイナミックAFモード	
グループダイナミックAFモード	
至近優先ダイナミックAFモード	

メモ

- 選択されているフォーカスエリア（またはグループ）によって、点灯するフォーカスエリアの位置が異なります。表のイラストは中央のフォーカスエリアを選択した場合です。
- 至近優先ダイナミックAFモードときは、表示パネル、ファインダー内ともにフォーカスエリアは表示されません。また、任意のフォーカスエリアを選択することもできません。

フォーカスエリアフレームの切り換え

AFエリアモードが シングルエリアAFモードまたは ダイナミックAFモードのときは、フォーカスエリアをノーマルフレーム（11ヵ所）とワイドフレーム（7ヵ所）に切り換えることができます。

ノーマルフレーム（11点）

11カ所のフォーカスエリアにあるフレームの内側でピントを合わせます。被写体の特定の部位に、ピントを合わせたい場合などに使用します。

ワイドフレーム（7点）

ノーマルフレームよりも広いエリアでピント合わせを行います。
選択可能なフォーカスエリアは7カ所になります。ノーマルフレームよりも被写体を捉えやすくなり、シャッターチャンスを逃しにくくなります。ただし、フォーカスエリアが広くなるため、フレーム内に複数の被写体が含まれた場合は意図しない部分にピントが合うことがあります。

■ 表示パネルおよびファインダー表示

説明のため、すべてのフォーカスエリアを点灯させています。

ノーマルフレーム（11点）

	表示パネル	ファインダー
シングルエリアAFモード		
ダイナミックAF モード		

ワイドフレーム（7点）

	表示パネル	ファインダー
シングルエリアAFモード	WIDE	
ダイナミックAF モード	WIDE	

メモ

AF エリアモードが グループダイナミックAFモードまたは 至近優先ダイナミックAFモードの場合、フォーカスエリアフレームの切り換えの設定にかかわらず、フォーカスエリアはノーマルフレーム（11カ所）になります。

次ページにつづく

■ セットアップメニューから設定する

セットアップメニューの設定方法（→135ページ）

セットアップメニューで“AF”の“フォーカスエリアフレーム切替”を選びます。

NORMAL 11点：ノーマルフレーム（11点）
WIDE 7点：ワイドフレーム（7点）

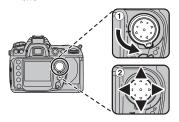
■ ファンクションボタンとサブコマンドダイヤルで設定する

① セットアップメニューから“ボタン操作”の“ファンクションボタンの機能”を“フォーカスエリアフレーム切換え”にします（→135、169ページ）。

② ファンクションボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルを回します。

③ 表示パネルの“**WIDE**”が点灯／消灯します。

 メモ

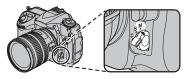
“**WIDE**”の点灯中は、ワイドフレーム（7点）となり、消灯中はノーマルフレーム（11点）となります。

フォーカスエリアの選択

このカメラには、撮影画面内に11カ所（初期設定）のフォーカスエリアがあります。被写体の位置や構図に合わせてフォーカスエリアの位置を選択できます。

① フォーカスエリアロックレバーを●側に回転させてロックを解除します。

② マルチセレクターの▲▼◀▶を押してフォーカスエリアを選択します。
中央部を押すと、中央部のフォーカスエリアまたは中央のフォーカスエリアのグループが選択されます。

③ 選択が終わったら、フォーカスエリアロックレバーを**L**側に回転させてロックします。

メモ

- 液晶モニターで画像再生中、メニュー表示中およびオートパワーセーブ中は、フォーカスエリアを選択できません。
- AFエリアモードでグループダイナミックAF（→52ページ）が設定されている場合は、フォーカスエリアのグループごとに選択できます。
- AFエリアモードで至近優先ダイナミックAF（→52ページ）が設定されている場合は、フォーカスエリアは選択できません。

マニュアルフォーカス

マニュアルフォーカスは、オートフォーカスの苦手な被写体（→59ページ）を撮影するときや、AFニッコール以外のレンズを装着しているときにご使用ください。

① フォーカスモードレバーを**M**（マニュアル）にセットします。

② レンズのフォーカスリングを回して、ファインダースクリーンのマット面の像がはっきり見えるように合わせます。"●"ピント表示の点灯・消灯にかかわらず、シャッターをきることができます。

メモ

- A-M切り換え方式のレンズを装着して、マニュアルフォーカスでピントを合わせる場合は、レンズ側もMにしてください。また、M/A（マニュアル優先オートフォーカス）モード機能を搭載しているレンズを装着する場合は、レンズ側はM/AまたはMのどちらにセットしてもフォーカスが可能です。詳細はご使用になる各レンズの使用説明書をご覧ください。
- ライブ画像表示を使用して、モニター上の画像で確認しながらピントを合わせるときはマニュアルフォーカスをご使用ください。

距離基準マークについて

距離基準マークは撮影距離の基準となるマークで、カメラ内の撮像面の位置を示します。マニュアルフォーカスや接写などでカメラから被写体までの距離を実測する場合、このマークが基準となります。レンズ取り付け面（レンズマウント）から撮像面までの寸法（フランジバック）は46.5mmです。

■ フォーカスエイドでピントを合わせる

ファインダー内の“●”ピント表示によって合焦状態を確認できます。
フォーカスエイドは、開放絞りがf/5.6以上明るいレンズを装着しているときに利用できます。

① フォーカスモードレバーを**M**（マニュアル）にセットします。
② ピントを合わせたいものに選択しているフォーカスエリアを重ねます。
③ フォーカスリングを回します。
④ シャッターボタンを半押しします。ピントが合っていると、“●”ピント表示が点灯します。

フォーカスロック撮影をする

オートフォーカスで主要被写体（ピントを合わせたい人物や物など）がいずれのフォーカスエリアからもはずれる構図の場合に使用します。また、オートフォーカスが苦手な被写体（→59ページ）にも有効です。

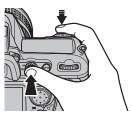
❶ ピントを合わせます。

① ピントを合わせたい被写体にフォーカスエリアを重ます。
② シャッターボタンを半押しします。
“●”ピント表示が点灯します。

半押し

もっと使いこなそう（撮影編）

次ページにつづく

❷ フォーカスをロックします。

フォーカスモードがS（シングルAFサーボ）の場合：
シャッターボタンを半押ししたままにすると、ピントがそのまま固定（フォーカスロック）されます。

フォーカスモードがC（コンティニュアスAFサーボ）の場合：
シャッターボタンを半押ししたまま、“AE-L/AF-L”ボタンを押すと、ピントがそのまま固定（フォーカスロック）されます。
シャッターボタンから指を離しても、“AE-L/AF-L”ボタンを押している間はフォーカスロックされます。また、AEロック（→65ページ）も同時に行われます

❸ 半押しのまま、撮りたい構図にカメラを動かしてシャッターボタンを押し込みます。

全押し

メモ

・フォーカスロックの操作はシャッターを切る前なら何度でもやり直せます。
・フォーカスロック後は、主要被写体との撮影距離を変えないでください。
・シャッターボタンの半押しでフォーカスロックした場合は、シャッターをきった後もシャッターボタンを半押ししたまま再度シャッターボタンを押し込めば、ピントを固定したまま繰り返し撮影できます。“AE-L/AF-L”ボタンでフォーカスロックした場合は、“AE-L/AF-L”ボタンを押したまま再度シャッターボタンを押せば、ピントを固定したまま繰り返し撮影できます。
・ピントが固定された後に被写体が動いた（撮影距離が変化した）場合は、いったんシャッターボタンや“AE-L/AF-L”ボタンから指を離し、フォーカスロックを解除してからピントを合わせ直してください。

オートフォーカスの苦手な被写体について

次のような被写体では、オートフォーカスによるピント合わせができないことがあります。このような場合は、フォーカスモードを**M**マニュアルフォーカス（→56ページ）に切り換えてピントを合わせるか、フォーカスロック（→57ページ）を利用しておおよそ同じ距離の被写体にピントを合わせ、そのまま構図を元に戻して撮影してください。

明暗差がはっきりしない場合（白壁や背景と同色の服をきている人物など）

フォーカスエリア内に遠いものと近いものが混在する被写体（オリの中の動物や木の前の人物など）

連続した繰り返しパターンの被写体（ビルの窓など）

フォーカスエリア内の被写体の輝度差が著しく異なる場合（太陽が背景に入った日陰の人物など）

フォーカスエリアに対して主要被写体が小さい場合（フォーカスエリア内に遠くの建物と近くの人物が混在する被写体など）

絵柄がこまかな場合（一面の花畑など、被写体が小さいか、明暗差が少ない被写体など）

AF補助光について

このカメラはAF補助光ランプを搭載しています。被写体が暗い場合でも、シャッターボタンを半押しすると自動的にAF補助光を照射し、被写体を照らしてオートフォーカスでのピント合わせが可能となります。

AF補助光は、フォーカスモードがAF-S（シングルAFサーボ）で、AFレンズを装着し、被写体が暗い場合に、次のいずれかの条件を満たすと自動的に照射を行います。

- シングルエリアAFまたはダイナミックAFに設定され、フォーカスエリアが中央に選択された状態
- グループダイナミックAFで、中央のグループ選択された状態、またはセットアップメニューの“[■]AF”の“グループダイナミックAF”が“パターン1:中央優先”か“パターン2:中央優先”に設定され、中央のフォーカスエリアを含むグループが選択された状態
- 至近優先ダイナミックAF時

注意

AF補助光を連続して使用すると、照射ランプを保護するため一時的に照射が制限されます。少し時間をおくと照射可能になります。また、短時間に何回も使用すると、AF補助光の窓が熱くなることがありますので、ご注意ください。

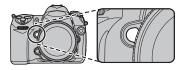
メモ

- 使用可能なAFレンズの焦点距離は24～200mm、AF補助光が届く距離範囲の目安は約0.5～3mです。
- ケラレを防止するために、AF補助光使用時は、レンズフードを取り外してください。
- AF-S VR ED 200-400mm F4G はAF補助光を使用したオートフォーカス撮影は行えません。

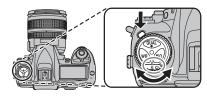
■ ケラレが発生するレンズ

- 下記のレンズではケラレが発生し、0.7m以内の撮影距離ではAF補助光を使用してのオートフォーカス撮影は行えません。
  - AFマイクロED 200mm F4D
  - AF-S VR ED 24-120mm F3.5 -5.6G
  - AF-S ED 28-70mm F2.8D
  - AFマイクロED 70-180mm F4.5-5.6D
- 下記のレンズではケラレが発生し、撮影距離1m以内ではAF補助光を使用してのオートフォーカス撮影は行えません。
  - AF-S DX ED 55-200mm F4-5.6G
- 下記のレンズではケラレが発生し、撮影距離1.5m以内ではAF補助光を使用してのオートフォーカス撮影は行えません。
  - AF-S VR ED 70-200mm F2.8G
  - AF-S ED 80-200mm F2.8D
  - AF ED 80-200mm F2.8D
- 下記のレンズではケラレが発生し、撮影距離2.5m 以内ではAF補助光を使用してのオートフォーカス撮影は行えません。
  - AF VR ED 80-400mm F4.5-5.6D

■ ニコン製スピードライトとアクティブ補助光について

ニコン製スピードライトSB-800、SB-600、またはワイヤレススピードライトコマンダー SU-800を使用して撮影した場合、AF補助光の発光条件が満たされると、スピードライト側のAF補助光（アクティブ補助光）が自動的に照射を行います。照射可能なフォーカスエリアはAFレンズの焦点距離によって異なります。

	ノーマルフレーム（11 点）	ワイドフレーム（7点）
AFレンズの焦点距離が24～34mmの場合		
AFレンズの焦点距離が35～70mmの場合		
AFレンズの焦点距離が71～105mmの場合		

その他のスピードライトでは、カメラ側のAF補助光が自動的に照射を行います。

プレビューボタンについて

プレビューボタンを押し続けると、露出モードがP（プログラムオート）、S（シャッター優先オート）のときは制御される絞りまで、露出モードがA（絞り優先オート）、M（マニュアル）のときはセットしてある絞りまで、レンズの絞り羽根が絞り込まれます。この状態でファインダーをのぞくと、そのときの絞りのおおよその被写界深度（ピントの合う前後の範囲）が確認できます。

レリーズモード

レリーズモードダイヤルで、撮影動作を**S**（1コマ撮影）、**CL**（低速連続撮影）、**CH**（高速連続撮影）、⏲（セルフタイマー撮影）、**MUP**（ミラーアップ撮影）から選択できます。

レリーズモードダイヤル解除ボタンを押しながら、レリーズモードダイヤルで、レリーズモードを選びます。

S 1コマ撮影

シャッターボタンを押すたびに1コマずつ撮影と記録が行われ、記録中はアクセスランプが点灯します。本体メモリの空き容量が0になるまで、すぐに次の撮影が可能です。

CL 低速連続撮影

シャッターボタンを押し続けると、約1～2コマ/秒*連続して撮影が行えます（→146ページ）。

CH 高速連続撮影

シャッターボタンを押し続けると、最大約3コマ/秒*で連続して撮影が行えます。動きのある被写体などに使用すると便利です。

⏲セルフタイマー撮影

手ブレを軽減したい場合や撮影者自身も被写体として加わりたいような場合はセルフタイマー撮影が行えます（→99ページ）。

MUP ミラーアップ撮影

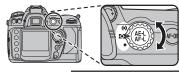
シャッターボタンを1回押すとカメラ本体のミラーアップを行い、もう一度押すと1コマ撮影してミラーが戻ります（1回目のシャッターボタンを押した後約30秒経過した場合は、自動的にシャッターがきれます）。撮影時にミラーアップの振動によるブレを防ぐことができます。ミラーアップ中は、オートフォーカス、測光、ファインダーで構図を確認することができませんのでご注意ください。

* 連続撮影速度は、フォーカスモード**C**、露出モード**S**または**M**、1/250秒以上の高速シャッタースピード、ISO感度200、撮影メニューの“D-Rng D-RANGE”が“100%”での値です。

メモ

CL（低速連続撮影）時、**CH**（高速連続撮影）時では、撮影メニューの“D-Rng D-RANGE”の設定によって撮影間隔が長くなることがあります。

■ 本体メモリの空き容量の表示

・シャッターボタンを半押しまたは押し続けている間、本体メモリの空き容量（コマ数）が表示パネルとファインダー内に表示されます。連続撮影時はメモリーカードへの記録が終わったコマ数分だけ続けて撮影でき、最大で100コマまでの連続撮影が可能です。
・メモリーカードへの書き込み中に連続撮影速度が低下した場合は、〔r00〕が表示されます。
・メモリーカードの容量や撮影条件によって、本体メモリの空き容量表示部に表示されるコマ数は変わります。

メモ

・連続撮影時の構図の縦位置・横位置に関する情報は、連続撮影開始時の情報が記録されます。連続撮影中に構図を変えても、反映されません。
・連続撮影終了直後にアクセスランプが点灯している間は、カメラ本体からメモリーカードを取り出さないでください。メモリーカード、画像サイズ（ピクセル）、画質モード（クオリティー）の設定によっては、数十秒から1分間程度アクセスランプが点灯します。
・データ書き込み中にカメラ本体からメモリーカードを取り出すと、画像データが消失するだけでなく、カメラ本体とメモリーカードに不具合が生じるおそれがありますので、絶対に取り出さないでください。
・アクセスランプ点灯中に電源スイッチをOFFにすると、撮影されたすべての画像がメモリーカードに記録されてから電源が切れます。
・連続撮影時にバッテリーの残量がなくなった場合は、新たな撮影動作は行われず、撮影済みの画像データがメモリーカードに記録されて終了します。
・マイクロドライブを使用すると、まれに書き込み速度が低下することがあります。

測光モード

通常はマルチパターン測光で最適な露出を得ることができます。意図的に露出値を変えて撮影（AEロックや露出補正）するときや、撮影シーン（逆光やコントラストの激しいときなど）に応じて3つの測光モードから選ぶことができます。

測光モードダイヤルで、測光モードを選びます。

マルチパターン測光

このカメラは1005分割RGBセンサーを採用しています。1005分割RGBセンサーから得られた画面全域のさまざまな情報を分類して露出を決定する「3D-RGBマルチパターン測光Ⅱ」が可能です。特に明るい色（白や黄色）の被写体や、暗い色（黒や濃い緑色）の被写体が画面全体を大きく占めているような場合に威力を発揮し、目で見た感じにより近く再現します。
GまたはDタイプ以外のCPUレンズ装着時は「RGBマルチパターン測光Ⅱ」になります。
セットアップメニューの“拡張”の“レンズ情報手動設定”（→120ページ）でレンズの焦点距離と開放絞り値を設定した非CPUレンズ装着時は「RGBマルチパターン測光」となります。

- AEロック（→65ページ）や露出補正（→74ページ）を行うときは、中央部重点測光またはスポット測光をおすすめします。

中央部重点測光

ファインダー中央部（直径φ8mmの内側）を重点的に測光して露出値を決定しますので、ファインダー内のφ8mmの円を参考に測光範囲を決定してください。

メモ

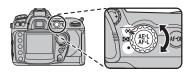
中央部重点測光時は、セットアップメニューから“露出”の“中央部重点測光範囲”で測光範囲を変更できます。画面全体の平均測光にも変更できます。（→157ページ）

スポット測光

フォーカスエリアに重なるφ3mm相当（全画面の約2.0%）を部分的に測光して露出値を決定します。逆光時やコントラストの差が激しいときなど、フォーカスエリア相当の狭い範囲での露出を基準にして撮影したい場合に適しています。

- 測光エリアは、選択されているフォーカスエリアに連動するため、撮影したい構図のまま、マルチセレクターを操作して測光エリアを変えることができます。ただし、非CPUレンズ使用時は、常に中央のフォーカスエリアに相当する部分を測光します。
- 至近優先ダイナミックAFモード時（→52ページ）は、中央のフォーカスエリアに相当する部分を測光します。

・グループダイナミックAFモード時（→52ページ）は、選択したグループの中央のフォーカスエリアに相当する部分を測光します。
・フォーカスエリアフレーム切換えをワイドフレーム（7点）に設定している場合は、各フォーカスエリア中央のφ3mm相当の部分を測光します。

メモ

・非CPUレンズ装着時に測光モードを「中央部重点測光」または「スポット測光」に設定している場合、セットアップメニューの“拡張”の“レンズ情報手動設定”（→120ページ）で焦点距離と開放絞り値を設定すると、測光の精度が向上します。
・非CPUレンズ装着時にセットアップメニューの“拡張”の“レンズ情報手動設定”（→120ページ）で焦点距離と開放絞り値を設定しない場合は、マルチパターン測光を選択しても自動的に中央部重点測光に切り換わります。
・フィルター係数のかかるフィルターを使用する場合、3D-RGBマルチパターン測光Ⅱ、RGB マルチパターン測光Ⅱ、またはRGBマルチパターン測光の効果が得られない場合がありますので、測光モードを中央部重点測光に切り換えて撮影することをおすすめします。

AEロック撮影をする

特定の被写体に露出を固定して撮影できます。露出を合わせたい部分とその周囲とで、著しく明るさが異なるときなどに便利です。

① 露出モードを**M**（マニュアル）以外にセットします(→67ページ)。

② 測光モードダイヤルをスポット測光または中央部重点測光にセットします。
マルチパターン測光は充分なAEロックの効果が期待できないため、おすすめできません。

③ 露出を合わせたい部分にフォーカスエリアを重ねてシャッターボタンを半押ししたまま、“AE-L/AF-L”ボタンを押して、“●”ピント表示の点灯を確認します。

もっと使いこなそう（撮影編）

次ページにつづく

メモ

- “AE-L/AF-L”ボタンを押している間は、測光モードに応じた部分の露出が記憶（ロック）され、構図を変えても露出は変わりません（ファインダー内表示にAEロックマーク**AE-L**が点灯します）。
- スポット測光で、測光エリアとフォーカスエリアが連動する場合（→64ページ）は、選択しているフォーカスエリアを重ねた部分の露出が記憶されます。
- 中央部重点測光にセットした場合は、ファインダー中央部（φ8mmの内側）を重点的に測光した露出が記憶されます。
- フォーカスモードがシングルAFサーボ（AF-S）またはコンティニュアスAFサーボ（AF-C）の場合、フォーカスロックも同時に行われますので、“●”ピント表示の点灯も確認してください。

④“AE-L/AF-L”ボタンを押したまま、構図を決めて撮影します。

メモ

- “AE-L/AF-L”ボタンを押している間も次の操作ができます。
  - 露出モードが P のとき：プログラムシフト
  - 露出モードが S のとき：シャッタースピードの変更
  - 露出モードが A のとき：絞り値の変更

  いずれも、変更後の露出表示にはそれぞれ制御されるシャッタースピード、絞り値が表示されます。
- AEロック中は測光モードを切り換えても変わりません。AEロックを解除してください。

露出モード

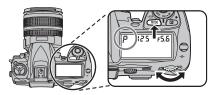
このカメラには、P（プログラムオート）、S（シャッター優先オート）、A（絞り優先オート）、M（マニュアル）の4つの露出モードがあります。

P プログラムオート

撮影シーンに応じて最適露出になるように、シャッタースピード、絞り値をカメラが自動的に制御します。スナップ写真などシャッターチャンスを優先して気軽に撮影したいときに便利です。

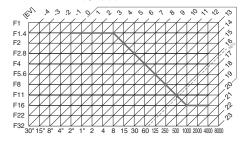
① “MODE” ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回し、表示パネルにPを表示させます。

② 構図を決め、ピントを合わせて撮影します。

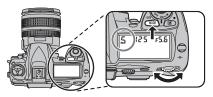
 メモ

- プログラムオートはCPUレンズ装着時のみ撮影できます。
- 非CPUレンズを装着した場合、露出モードを自動的にA（絞り優先オート）に切り換えて制御します。この場合、表示パネルのPが点滅して警告し、ファインダー内表示に**A**が点灯して、露出は絞り優先オート（→70ページ）で制御されます。
- 次の警告がファインダー内表示や表示パネルに点灯した場合は、被写体が明るすぎたり暗すぎたりして、カメラの制御範囲を超えています。
  HI：被写体が明るすぎます。別売のND（光量調節用）フィルターをご使用ください。また、ISO感度が高く設定されている場合は、低く設定してください。
  Lo：被写体が暗すぎます。フラッシュを使用してください。また、ISO感度が低く設定されている場合は、高く設定してください。

次ページにつづく

プログラムシフトについて

プログラムオートで撮影中にメインコマンドダイヤルを回すと、露出を一定にしたままシャッタースピードと絞りの組み合わせを変えることができます。この機能により、プログラムオートにセットしたままシャッター優先オートや、絞り優先オートのような使い方ができます。プログラムシフト中は表示パネルに⁎プログラムシフトマークが点灯します。
解除する場合は、⁎プログラムシフトマークが消灯するまでメインコマンドダイヤルを回す、他の露出モードに切り換える、電源スイッチをOFFにする、セットアップメニューから“☒露出”の“露出設定ステップ幅”（→156ページ）の設定を変更する、ツーボタンリセット（→119ページ）のいずれかを行います。

■ プログラム線図

プログラム線図はプログラムオート撮影時の露出制御をグラフにしたものです。

――――：ISO100、開放絞りf1.4・最小絞りf/16のレンズ（例：AF50mm F1.4D）の場合
測光範囲：EV0～20

- 測光範囲により、EV 値の両端に制限があります。
- マルチパターン測光では、ISO100の場合16 1/3を超えるEV値では、すべて16 1/3として制御されます。

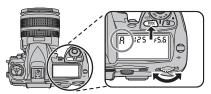
S シャッター優先オート

シャッタースピード（30秒～1/8000秒）を設定すると、カメラが自動的に絞りを決定します。動きの一瞬をとらえる（高速側シャッター）、動きを表現する（低速側シャッター）など、シャッタースピードを重視した撮影に最適です。

① “MODE” ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回し、表示パネルにSを表示させます。

② メインコマンドダイヤルで好みのシャッタースピード（30秒～1/8000秒）をセットします。

③ 構図を決め、ピントを合わせて撮影します。

メモ

- シャッター優先オートはCPUレンズ装着時のみ撮影できます。
- 非CPU レンズを装着した場合、露出モードを自動的にA（絞り優先オート）に切り換えて制御します。この場合、表示パネルのSが点滅して警告し、ファインダー内表示に**A**が点灯します。
- 露出モードをM（マニュアル）にしてbulb（バルブ）にセットした後、bulbを解除しないでS（シャッター優先オート）にセットすると、bulb表示が点滅してシャッターはきれません。Sで撮影する場合はメインコマンドダイヤルを回してbulb以外のシャッタースピードにセットしてください。
- 次の警告がファインダー内表示や表示パネルに点灯した場合は、被写体が明るすぎたり暗すぎたりして、カメラの制御範囲を超えています。
  Hi：被写体が明るすぎます。シャッタースピードをより高速側にセットし、それでも警告表示が消えない場合は、別売のND（光量調節用）フィルターを使用してください。また、ISO感度が高く設定されている場合は、低く設定してください。
  Lo：被写体が暗すぎます。シャッタースピードをより低速側にセットし、それでも警告表示が消えない場合はフラッシュを使用してください。また、ISO感度が低く設定されている場合は、高く設定してください。
- 長時間露出を行う場合は、残量が充分にあるバッテリーをご使用ください。

A 絞り優先オート

絞り（最小絞り～開放絞り）を設定すると、カメラが自動的にシャッタースピードを制御します。遠くまでピントを合わせる（最小絞り側）、背景をぼかす（開放絞り側）など、被写界深度（ピントの合う前後の範囲）を重視した撮影に最適です。

① “MODE” ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回し、表示パネルにAを表示させます。

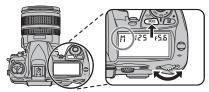
② サブコマンドダイヤルで好みの絞り（最小絞り～開放絞り）をセットします。

③ 構図を決め、ピントを合わせて撮影します。

メモ

- セットできる最小絞り、開放絞りはレンズの種類によって異なります。
- 非CPUレンズを装着してセットアップメニューの“拡張”の“レンズ情報手動設定”（→120ページ）でレンズの開放絞り値を設定した場合は、表示パネルとファインダー内に絞り値が表示されます。絞りのセットは、レンズの絞りリングで行ってください。この場合、絞りリングによる中間絞りの設定は可能ですが、表示は1段単位になります。
  - 開放絞り値を設定しない場合は、表示パネルとファインダー内の絞り値表示が開放からの絞り段数表示（ΔF 、開放絞りはΔF0）となりますので、絞りのセットと確認は、レンズの絞りリングで行ってください。

メモ

- 次の警告がファインダー内表示や表示パネルに点灯した場合は、被写体が明るすぎたり暗すぎたりして、カメラの制御範囲を超えています。
  HI：被写体が明るすぎます。より大きな数値の絞りにセットして、それでも警告表示が消えない場合は、別売のND（光量調節用）フィルターを使用してください。
  また、ISO感度が高く設定されている場合は、低く設定してください。
  Lo：被写体が暗すぎます。より小さい数値の絞りにセットして、それでも警告表示が消えない場合はフラッシュを使用してください。また、ISO感度が低く設定されている場合は、高く設定してください。
- CPUレンズ（Gタイプレンズを除く）の絞りリングが最小絞り（最大値）にセットされていない場合、表示パネルとファインダー内表示にFEEが点滅し、シャッターがきれません。絞りリングを最小絞りにセットしてください。露出モードが、P プログラムオート、S シャッター優先オート、M マニュアルのときも同様です。

M マニュアル

シャッタースピード（bulbおよび30秒〜1/8000秒）と絞り（最小絞り〜開放絞り）を自由に設定できるモードです。表示パネルまたはファインダー内の露出インジケーター表示を参考に、撮影シーンや目的に合わせた露出設定を行えます。
長時間露出（バルブ）もこのモードでセットします。

① “MODE”ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回し、表示パネルにMを表示させます。

もっと使いこなそう（撮影編）

次ページにつづく

② 露出インジケーターを確認しながら、シャッタースピードと絞りをセットします。
シャッタースピードと絞りのセットはどちらが先でもかまいません。

シャッタースピード：
メインコマンドダイヤルでセットします。

絞り：
サブコマンドダイヤルでセットします

③ 構図を決め、ピントを合わせて撮影します。

メモ

手順②でシャッタースピードをbulbにセットしてシャッターボタンを押し続けると、シャッターが開いたままとなるバルブ撮影になります。

■ 露出インジケーターについて

長時間露出（バルブ）を除いて、撮影者がセットしたシャッタースピードと絞り値の組み合わせによる露出値と、カメラが測光した露出値との差が表示されます。表示パネルおよびファインダー内表示の露出インジケーターの見方は次のとおりです。

“露出設定ステップ幅”が“1/3段”の場合

	表示パネル	ファインダー内表示
適正露出		
1/3段 アンダー		
3段以上 オーバー		*

“露出設定ステップ幅”が“1/2段”の場合

	表示パネル	ファインダー内表示
適正露出		
1/2段 アンダー		
3段以上 オーバー		

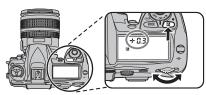
“露出設定ステップ幅”が“1段”の場合

	表示パネル	ファインダー内表示
適正露出		
1段 アンダー		
3段以上 オーバー		

* 露出値のステップが1/3段の場合、2段以上オーバーで、ファインダー内の露出インジケーターがこの表示になります。

- 光量がカメラの測光範囲を超えると、露出インジケーターが点滅して警告します。

メモ

- シャッタースピードをbulb（バルブ）にセットして長時間露出撮影する場合は、撮影中のバッテリー切れを防ぐため、電源としてフル充電した充電式バッテリー NP-150またはACパワーアダプター AC135VNのご使用をおすすめします。撮影中にバッテリーの残量がなくなった場合、撮影を終了して画像をメモリーカードに記録した後、電源が切れます。
- 非CPUレンズを装着してセットアップメニューの“拡張”の“レンズ情報手動設定”（→120ページ）でレンズの開放絞り値を設定した場合は、表示パネルとファインダー内に絞り値が表示されます。絞りのセットは、レンズの絞りリングで行ってください。この場合、絞りリングによる中間絞りの設定は可能ですが、表示は1段単位になります。
  - 開放絞り値を設定しない場合は、表示パネルとファインダー内の絞り値表示が開放からの絞り段数表示（ΔF、開放絞りはΔF0）となりますので、絞りのセットと確認は、レンズの絞りリングで行ってください。

- ニコン製AFマイクロレンズをカメラに装着して、外部露出計の測光値を参考に絞りをサブコマンドダイヤルでセットする場合、露出倍数を考慮する必要はありません。レンズの絞りリングでセットする場合だけ、露出倍数を考慮した補正が必要になります。

もっと使いこなそう（撮影編）

露出補正

カメラが制御する適正露出値を意図的に変えることができます。たとえば、ハイキー（全体に明るいトーン）、ローキー（全体に暗いトーン）など、作画意図に応じた露出表現をしたい場合などに使用します。測光モードはマルチパターン測光では十分な露出補正効果が得られないため、中央重点測光またはスポット測光をおすすめします。いずれの露出モードでもセットできます（ただし露出モードがMのときは、インジケーター表示が変わるのみで、撮影者がセットしたシャッタースピードと絞り値は変わりません）。

① “ ”ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルで補正量（1/3段ステップで±5 段）をセットします。

補正量をセットすると、表示パネルに露出補正マークが表示され、補正量の確認は“ ”ボタンを押すだけで行えます。

ファインダー内には、＋側に補正した場合は が、－側に補正した場合は が表示されます。

－0.3段補正

＋2段補正

表示パネルとファインダー内には、露出インジケーターが露出補正インジケーターとして表示され、露出インジケーターの「**0**」が点滅します。

② 構図を決め、ピントを合わせて撮影します。

 メモ

- 露出補正を解除する場合は、“ ”ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルで補正量を0.0にセットするか、ツーボタンリセット（→119ページ）を行ってください。（カメラの電源スイッチをOFFにしても解除されません。）
- 補正の目安としては、被写体（たとえば人物など）に対して、背景が明るい場合は＋側に、背景が暗い場合は－側に補正するのが基本です。

フラッシュ撮影する

内蔵フラッシュについて

このカメラは18mmレンズの画角をカバーする、ガイドナンバー約12（ISO100・m、20℃）のフラッシュを内蔵しており、モニター発光を行う専用TTL モード（i-TTLモード）によって制御され、i-TTLBL調光やスタンダードi-TTL調光によるフラッシュ撮影ができます。暗いところではもちろん、昼間の屋外撮影などでも、逆光の場合や主要被写体の陰影を弱めたいとき、人物の目にキャッチライトを入れたいときなどに、補助光としても使用できます。

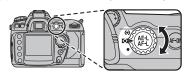
i-TTL-BL調光

マルチパターンによる測光情報をもとに主要被写体と背景光のバランスを考慮したBL（バランス）調光を行います。シャッターボタンを押すと、フラッシュがシャッター開口直前にモニター発光を行い、画面内の各部から戻ってくる反射光をカメラ内の1005分割RGBセンサーが瞬時にモニターし、主要被写体と背景光のバランスを考慮した最適な発光量を決定します。

- GまたはDタイプレンズ装着時は、レンズから得られた被写体までの距離情報も加味した最適な発光量を決定します。
- 非CPUレンズ装着時は、レンズ情報（開放絞り値、焦点距離）を設定することにより、より精度が向上します（→120ページ）。
- 測光モードがスポット測光に設定されている場合、自動的にスタンダードi-TTL調光になります。

スタンダードi-TTL調光

背景の明るさは考慮されず、撮影画面が基準露光量となるように調光されます。主要被写体のみを強調する場合や、フラッシュ撮影で露出補正を行う場合に適しています。

- 測光モードがスポット測光に設定されている場合、自動的にスタンダードi-TTL調光になります。

メモ

- i-TTLモード時のISO 感度連動範囲は100～1600です。ISO感度を1600よりも高く設定した場合には、距離や絞りによっては適正な発光量にならない場合があります。
- 内蔵フラッシュの照射角は18mmレンズの画角までカバーしますが、装着するレンズや絞りの条件によっては、周囲が若干暗くなることがあります。
- セットアップメニューから“露出”の“感度自動制御”の“感度自動制御設定”（→154ページ）を“ON”に設定すると、フラッシュの光量が適正となるように感度自動制御が機能します。ただし“感度自動制御設定”が“ON”に設定されていても、次のような場合は手前の被写体が露出アンダーになることがあります。
  - 低速シャッタースピードでフラッシュ撮影（スローシンクロ）を行う場合
  - 日中の明るい場所でフラッシュ撮影（日中シンクロ）を行う場合
  - 背景が明るい場合

  このような場合には、次の操作を行うことでフラッシュの照射光が届きやすくなります。
  - 露出モードをA（絞り優先オート）などにして絞りを開く
  - スローシンクロを解除する

内蔵フラッシュを使用した撮影

ここでは内蔵フラッシュを使用した撮影の方法を説明します。

① 測光モードをセットします（→64ページ）。

メモ

- スポット測光以外にセットするとi-TTL-BL 調光になります。
- スポット測光にセットした場合、スタンダードi-TTL調光になります。

② フラッシュポップアップボタンを押して、内蔵フラッシュをポップアップします。

③ フラッシュシンクロモードをセットします（→79ページ）。

④ 露出モードをセットし、シャッタースピードと絞りをセットします。
設定可能なシャッタースピードと絞り値（→77ページ）

⑤ ファインダー内表示に“ϟ”レディライトが点灯していることを確認します。

メモ

フラッシュの充電が完了して撮影可能な状態になると、ファインダー内のレディーライトϟが点灯して知らせます。フラッシュが上がった状態でレディーライトϟが点灯していないときは撮影できません。

⑥ 構図を決めてピントを合わせ、内蔵フラッシュの調光範囲（→78ページ）を考慮して撮影します。

メモ

- シャッターをきった後、レディーライト⚡が約3秒間点滅した場合は、フラッシュがフル発光して露出不足の可能性があることを警告しています。撮影距離、絞り値、ISO 感度などを再度確認して、撮影し直してください。
- 内蔵フラッシュ撮影時は、レリーズモードがCL（低速連続撮影）またはCH（高速連続撮影）セットされていても、連続撮影にはなりません。
- 内蔵フラッシュの充電中は、VRレンズのシャッターボタン半押し中の手ブレ補正を行いません。
- 内蔵フラッシュを連続して使用すると、発光部を保護するために一時的に発光が制限されます。少し時間をおくと発光が可能になります。
- 内蔵フラッシュ、ニコン製スピードライトSB-800、SB-600、SB-R200使用時には、本機のプレビューボタンを押すとモデリング発光が行われ、照射光の効果を簡単に確認することができます。プレビュー時にモデリング発光を行わないようにするには、セットアップメニューから“⚡フラッシュ･BKT”の“モデリング発光”（→166ページ）を“OFF”に設定してください。

内蔵フラッシュを収納するには

内蔵フラッシュを収納するときは、カチッと音がするまで手で軽く押し下げます（使用しないときはバッテリーの消耗を防ぐため、常に収納状態にしてください）。

■ 内蔵フラッシュ使用時に設定可能なシャッタースピードと絞り値

露出モード	シャッタースピード	絞り値
P（→67ページ）	カメラが自動的に1/250～1/60秒にセット*1	カメラが自動的にセット
S（→69ページ）	1/250～30秒*2	
A（→70ページ）	カメラが自動的に1/250～1/60秒にセット*1	任意の絞り*3
M（→71ページ）	1/250～30秒*2	

*1 スローシンクロモード、後幕スローシンクロモード、赤目軽減スローシンクロモード選択時は、シャッタースピードが最長30秒まで延長されます。

*2 1/250秒より高速のシャッタースピードにセットされている場合は、内蔵ラッシュをポップアップすると、自動的に同調シャッタースピードの1/250秒にセットされます。

*3 調光範囲は設定しているISO感度と絞り値によって決まります。A（絞り優先オート）またはM（マニュアル）時の絞りのセットは内蔵フラッシュの調光範囲を考慮して行ってください。

次ページにつづく

■ 内蔵フラッシュの調光範囲（光の届く範囲）と限界絞り値

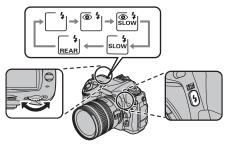
内蔵フラッシュはISO感度と絞り値によって調光範囲（光の届く範囲）が異なります。

ISO感度および絞り値													調光範囲（m）
100	125	160	200	250	320	400	500	640	800	1000	1250	1600	
1.4	1.6	1.8	2	2.2	2.5	2.8	3.2	3.5	4	4.5	5	5.6	1〜7.5
2	2.2	2.5	2.8	3.2	3.5	4	4.5	5	5.6	6.3	7.1	8	0.7〜5.4
2.8	3.2	3.5	4	4.5	5	5.6	6.3	7.1	8	9	10	11	0.6〜3.8
4	4.5	5	5.6	6.3	7.1	8	9	10	11	13	14	16	0.6〜2.7
5.6	6.3	7.1	8	9	10	11	13	14	16	18	20	22	0.6〜1.9
8	9	10	11	13	14	16	18	20	22	25	29	32	0.6〜1.4
11	13	14	16	18	20	22	25	29	32	–	–	–	0.6〜0.9
16	18	20	22	25	29	32	–	–	–	–	–	–	0.6〜 0.7

* 内蔵フラッシュで調光できる最短撮影距離は0.6mです。

露出モードが*P*（プログラムオート）の場合、内蔵フラッシュ使用時にカメラが自動で設定する限界絞りは、使用する感度によって下表のように制御されます。

ISO感度と開放側の限界絞り（F）												
100	125	160	200	250	320	400	500	640	800	1000	1250	1600
2.8	3	3.2	3.3	3.5	3.8	4	4.2	4.5	4.8	5	5.3	5.6

* 感度1 段に対して絞りは1/2 段変化します。制御される絞りよりも開放絞りが暗い場合は、装着レンズの開放絞りによって制御されます。

 メモ

i-TTLモード時のISO 感度連動範囲は100〜1600です。ISO感度を1600よりも高く設定した場合には、距離や絞りによっては適正な発光量にならない場合があります。

フラッシュシンクロモードの種類と特長

5つのフラッシュシンクロモードから、撮影目的や意図に合わせて希望するフラッシュシンクロモードを選びます。

"⚡"ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回して希望するフラッシュシンクロモードを表示パネルに表示させます。

詳しいフラッシュ撮影の手順については76ページをご参照ください。

注意

装着するレンズの種類により赤目軽減ランプの光にケラレが生じ、画面内の人物の位置によっては赤目軽減効果がそこなわれることがあります。

⚡ 先幕シンクロモード

通常のフラッシュ撮影時にはこのモードでセットします。露出モードをP（プログラムオート）またはA（絞り優先オート）にセットしてフラッシュ撮影を行うと、カメラが適正露出となるようにシャッタースピードを1/60～1/250秒（ニコン製スピードライトでオートFPハイスピードシンクロ（→85ページ）を行う場合は1/60～1/8000秒）に自動的にセットします。

⚡👁 赤目軽減モード

フラッシュが発光する前に約1秒間赤目軽減ランプのプリ照射を行い、暗いところで人物の目が赤く写るのを軽減することができます。

- シャッターがきれるまで、カメラや被写体の人物が動かないように注意してください（シャッターチャンスを優先するような撮影にはおすすめできません）。

⚡👁SLOW 赤目軽減スローシンクロモード

赤目軽減モードとスローシンクロモードが同時にセットされます。露出モードはP（プログラムオート）またはA（絞り優先オート）にセットしてください。

- シャッタースピードが遅くなりますので、手ブレに注意してください。三脚のご使用をおすすめします。

注意

露出モードがSまたはMの場合、赤目軽減スローシンクロモードは設定できません。このモードを選択した場合は自動的に「赤目軽減モード」に変更されます。

次ページにつづく

⚡SLOW スローシンクロモード

露出モードをP（プログラムオート）またはA（絞り優先オート）にセットしてフラッシュ撮影を行うと、通常はシャッタースピードが1/60～1/250秒（ニコン製スピードライトでオートFPハイスピードシンクロ（→85ページ）を行う場合は1/60～1/8000秒）に自動的にセットされますが、このモードでは、背景の露出を考慮してシャッタースピードが最長30 秒まで延長されます。これにより、背景を描写しながらフラッシュを発光させ、夕景や夜景の雰囲気を活かした撮影が行えます。

- シャッタースピードが遅くなりますので、手ブレに注意してください。三脚のご使用をおすすめします。

注意

露出モードがSまたはMの場合、スローシンクロモードは設定できません。このモードを選択した場合は自動的に「先幕シンクロモード」に変更されます。

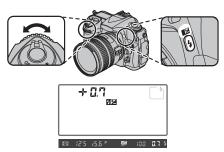
⚡REAR 後幕シンクロモード

シャッター後幕の走行開始（シャッターが閉じる）直前にフラッシュを発光させます。動く被写体をフラッシュで撮影する場合に、その被写体の動きを想像させる光の流れなどを被写体の後方に自然な形で表現できます。

注意

スタジオ用大型ストロボでは正しい同調が行えないため、後幕シンクロモードは使用できません。

メモ

露出モードがPまたはAの場合は、スローシンクロモードも自動的にセットされ、“⚡”ボタンから指を離すと右のように表示されます。シャッタースピードが遅くなりますので、手ブレに注意してください。三脚のご使用をおすすめします。

フラッシュ調光補正

フラッシュ調光補正とは、フラッシュとカメラが行う適正な調光を意図的に変えることをいいます。たとえば、発光量をより多くして主要被写体を一段と明るく照らしたいとき、あるいは発光量をより少なくして、主要被写体に光が強く当たりすぎないようにしたいときに使用します。

“ ”ボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルで補正量（1/3 段ステップで＋1段〜−3段）をセットします。

詳しいフラッシュ撮影の手順については76ページをご参照ください。

- 補正量をセットすると、表示パネルとファインダー内に 調光補正マークが表示されます。
- 補正の目安としては、被写体（たとえば人物など）に対して、背景が明るい場合は＋側に、背景が暗い場合は−側に補正するのが基本です。

調光補正を解除するには

調光補正を解除する場合は、“ ”ボタン を押しながら、サブコマンドダイヤルで補正量を0.0にセットするか、ツーボタンリセットを行ってください。
（カメラの電源スイッチをOFFにしても解除されません）

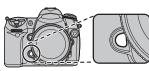
メモ

ニコン製スピードライトSB-800、SB-600 装着時も、調光補正を行うことができます。

FVロック撮影をする

調光量をロック（固定）することにより、被写体に調光量を合わせたまま構図を変えたり、同じ調光量を維持したまま撮影することができます。被写体が画面の中央にない場合など、自由な構図で適切な調光量のフラッシュ撮影が可能です。

① セットアップメニューから“◎ボタン操作”の“ファンクションボタンの機能”を“⚡L：FVロック”または“FVロック・レンズ情報”にします（→135、169ページ）。

② フラッシュポップアップボタンを押して、内蔵フラッシュをポップアップさせます。

③ 調光範囲を考慮して、調光量を合わせたい被写体が画面の中心になるようにカメラを構え、シャッターボタンを半押しして被写体にピントを合わせます。

④ ファンクションボタンを押します。

- フラッシュがモニター発光を行い、調光量を計算します。
- FVロックが行われ、表示パネルとファインダー内に⚡LOCK／⚡L FVロックマークが表示されます。

⑤ 撮りたい構図にカメラを動かしてシャッターボタンを押し込みます。

全押し

FVロック中は、被写体の露出を一定にしたまま複数のコマを撮影することができます。

⑥ ファンクションボタンを押します。
FVロックが解除され、表示パネルとファインダー内から⚡LOCK／⚡L FVロックマークが消灯します。

■ ニコン製スピードライトのFVロックについて

スピードライトSB-800、SB-600、SB-R200使用時も、FVロックを行うことができます。この場合、SB-800の発光モードの種類をTTLまたはAAに、SB-600の発光モードの種類をTTLにセットしてください（詳しくはそれぞれのスピードライトの使用説明書をご覧ください)。FVロック中に、SB-800、SB-600のズーム位置を変更しても、スピードライトの発光量が補正されることにより、FVロックは維持されます。セットアップメニューから“⚡フラッシュ·BKT”の“内蔵フラッシュ発光”（→159ページ）を“C ⚡:コマンダー”に設定して、補助灯（SB-800、SB-600、SB-R200）を使用する場合、“コマンダーモード”設定画面で次のいずれかを行うことによりFVロックを使用できます。

- 内蔵フラッシュ、Aグループ、Bグループのうち、いずれかの“発光モード”を“TTL”に設定する
- 補助灯がSB-800のみで構成されているグループがある場合は、そのグループの“発光モード”を“TTL”または“AA”に設定する

■ 内蔵フラッシュのFVロックについて

内蔵フラッシュのみを発光させてフラッシュ撮影を行う場合、FVロックはセットアップメニューから“⚡フラッシュ·BKT”の“内蔵フラッシュ発光”（→159ページ）が“TTL⚡”に設定されている場合のみ機能します。

内蔵フラッシュに使用可能なレンズ

- 内蔵フラッシュには、18mmから300mmまでのCPUレンズが使用できます。
- ケラレを防止するため、レンズフードは取り外して使用してください。
- 撮影距離0.6m未満では使用できません。
- マクロ付きズームレンズはマクロ領域では使用できません。
- 下記のズームレンズではケラレが発生し、写真の周辺光量が低下しますので、使用できる焦点距離や撮影距離に制限があります。

AF-S DX ED 12-24mm F4G	焦点距離18mm時の撮影距離1.5m以上、 焦点距離20mm 時の撮影距離1m 以上で使用可能
AF-S ED 17-35mm F2.8D	焦点距離24mm 時の撮影距離1m以上で使用可能
AF-S DX ED 17-55mm F2.8G（IF）	焦点距離24mm 時の撮影距離1mで使用可能
AF ED 18-35mm F3.5-4.5D	焦点距離18mm 時の撮影距離1.5m以上で使用可能
AF-S DX VR ED 18-200mm F3.5-5.6G	焦点距離18mm 時の撮影距離1m以上で使用可能
AF 20-35mm F2.8D	焦点距離20mm 時の撮影距離1m以上で使用可能
AF-S ED 28-70mm F2.8D	焦点距離28mm時の撮影距離1.5m以上、 焦点距離35mm時の撮影距離1m以上で使用可能
AFズームマイクロニッコール ED 70-180mm F4.5-5.6D	焦点距離70mm時の撮影距離1m以上で使用可能

- 内蔵フラッシュ撮影時に使用可能な非CPUレンズは、焦点距離が18mmから300mmまでのニッコール（Ai-S、Ai、改造Ai）、ニコンレンズシリーズEが使用できます。ただし、次のレンズは使用に制限があります。

Ai 50-300mm F4.5、Ai 改 50-300mm F4.5、Ai-S ED 50-300mm F4.5	焦点距離135mm以上で使用可能
Ai ED 50-300mm F4.5	焦点距離105mm以上で使用可能

使用可能なニコン製スピードライト

このカメラには、次のニコン製スピードライトが使用できます。
装着レンズ欄の①はCPUレンズ（IXニッコール、F3AF用を除く）、②は非CPUレンズを示します。ただし、非CPUレンズを装着してレンズ情報（→120ページ）を設定した場合は①になります。

スピードライト			SB-800				SB-600*1				SB-R200*2	
			1灯、カメラに装着		補助灯として使用		1灯、カメラに装着		補助灯として使用		補助灯として使用	
装着レンズ			①	②	①	②	①	②	①	②	①	②
区分	i-TTL	i-TTL-BL調光	○*3	○*4	○	○	○*3	○*4	○	○	○	○
		スタンダードi-TTL調光	○*5	○*5			○*5	○*5				
	AA	絞り連動外部自動調光	○*6		○							
	A	外部自動調光	○*6	○		○						
	GN	距離優先マニュアル発光	○	○								
	M	マニュアル	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		オートFPハイスピードシンクロ	○*7	○*7	○*8	○*8	○*7	○*7	○*8	○*8	○*8	○*8
		FVロック	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		マルチエリアアクティブ補助光	○*9				○*9					
	RPT	リピーティングフラッシュ	○	○	○*10	○*10			○*10	○*10		
	REAR	後幕シンクロ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		赤目軽減発光	○	○			○	○				
		オートズーム	○				○					
		ISO感度自動制御	○	○			○	○				

次ページにつづく

*1 アドバンストワイヤレスライティング時は、補助灯としてのみ使用可能です。
*2 セットアップメニューから“フラッシュ·BKT”の“内蔵フラッシュ発光”（→159ページ）を“C:コマンダー”に設定するか、カメラに装着したスピードライトSB-800またはワイヤレススピードライトコマンダー SU-800を併用することにより、アドバンストワイヤレスライティングによるリモート発光が可能です（カメラ本体には直接装着できません）。
*3 測光モードをスポット測光以外にセットしてください。
*4 測光モードをスポット測光以外にセットしてください。セットアップメニューの“拡張”の“レンズ情報手動設定”（→120ページ）でレンズの開放絞り値と焦点距離を設定すると、調光の精度が向上します。
*5 測光モードをスポット測光にしてください。また、スピードライト側でも設定可能です。
*6 絞り連動外部自動調光、外部自動調光の設定はスピードライト側で行ってください。
*7 セットアップメニューから“フラッシュ·BKT”の“フラッシュ撮影同調速度”（→158ページ）を“1/250(AUTO FP)”に設定してください。
*8 セットアップメニューから“フラッシュ·BKT”の“フラッシュ撮影同調速度”（→158ページ）を“1/250(AUTO FP)”に設定してください。内蔵フラッシュ本発光時は、FP発光は行われません。
*9 AFレンズ装着時のみ可能です。
*10 カメラに主灯としてスピードライトSB-800、またはコマンダーとしてワイヤレススピードライトコマンダー SU-800を装着している場合のみ使用可能です。

■ その他のスピードライト

以下のスピードライトを使用する場合、外部自動調光（A）あるいはマニュアル発光撮影となります。TTLにセットすると、カメラのシャッターボタンはロックされ、撮影できません。装着レンズによって機能が変わることはありません。

スピードライト			SB-80DX SB-28DX	SB-50DX	SB-28 SB-26 SB-25 SB-24	SB-30 SB-27*[1] SB-22S SB-22 SB-20 SB-16B SB-15	SB-23 SB-29*[2] SB-21B*[2] SB-29S*[2]
区分	A	外部自動調光	○		○	○	
	M	マニュアル	○	○	○	○	○
	[マルチフラッシュマーク]	マルチフラッシュ	○		○		
	REAR	後幕シンクロ	○	○	○	○	○

*[1] 本機とSB-27を組み合わせると自動的にTTLモードにセットされますが、TTLモードでは使用できませんので、SB-27を強制Aモードにセットし直してください。

*[2] SB-29S・29・21B 使用時のオートフォーカス撮影は、一部のAFマイクロ（60mm・105mm・200mm）レンズ装着時のみ可能です。

注意

ニコン製以外のフラッシュについて

ニコン製以外のフラッシュ（カメラのX接点に250V以上の電圧がかかるものや、アクセサリーシュー部の接点をショートさせてしまうもの）を使用しないでください。カメラの正常な機能が発揮できないだけでなく、カメラおよびフラッシュのシンクロ回路を破損することがあります。

次ページにつづく

■ ニコン製スピードライトを使用する場合の注意

- スピードライトを装着すると、撮影状況にかかわらず、撮影時は常に発光します。
- 詳細はご使用になる各スピードライトの使用説明書をご覧ください。
  クリエイティブライティングシステム対応のスピードライトの使用説明書にカメラ分類表が記載されている場合は、クリエイティブライティングシステム対応デジタル一眼レフに該当する箇所をお読みください。なお、本機はSB-80DX、SB-28DX、SB-50DXの使用説明書に記載のデジタル一眼レフカメラには該当しません。
- オートFPハイスピードシンクロを行わない場合、フラッシュ撮影時の同調シャッタースピードは1/250秒以下の低速シャッタースピードです。
- i-TTLや外部自動調光モードにおいて、フル発光でも露出アンダーになる可能性のある場合には、発光直後にレディーライト⚡が約3秒間点滅し、露出アンダー警告を行います。
- i-TTLモード時のISO 感度連動範囲はISO100～1600相当です。
- ISO感度を1600よりも高く設定した場合には、距離や絞りによっては適正な発光量にならない場合があります。
- スピードライトSB-800、SB-600 使用時で、フラッシュシンクロモードが赤目軽減、赤目軽減スローシンクロモードの場合は、スピードライト側で赤目軽減発光が行われます。
- 本機とSB-800、SB-600以外のスピードライトの組み合わせでは、被写体が暗い場合でも、スピードライト側のAF補助光が照射されません。補助光の照射条件が満たされると、カメラ側のAF補助光が照射されます（➞60～61ページ）。
- 本機とSB-800、SB-600以外のスピードライトの組み合わせでは、オートパワーズーム機能は使用できません。
- 露出モードが**P**（プログラムオート）の場合、カメラが自動で設定するスピードライトの開放側の限界絞りは、使用する感度によって下表のように制御されます。

100	125	160	200	250	320	400
4	4.2	4.5	4.8	5	5.3	5.6

500	640	800	1000	1250	1600
6	6.3	6.7	7.1	7.6	8

  感度1段に対して絞りは1/2段変化します。制御される絞りよりも開放絞りが暗い場合は、装着レンズの開放絞りによって制御されます。
- i-TTLモード時に、調光コードSC-17、SC-28、SC-29 を使用してカメラからスピードライトを離して撮影する場合、スタンダードi-TTL調光以外では適正露出を得られない場合があります。この場合は、スタンダードi-TTL調光に切り換えて撮影してください。また、あらかじめテスト撮影を行ってください。
- i-TTLモード時に、発光面に内蔵パネルまたは付属のバウンスアダプター以外の部材（拡散板など）を装着しないでください。カメラ内の演算に誤差が生じ、適正露光とならない場合があります。

- スピードライトSB-800、SB-600を使用するとき、測光モードをスポット測光にセットすると、スタンダードi-TTL 調光になります。
- 内蔵フラッシュがポップアップした状態でスピードライトを装着した場合、内蔵フラッシュは発光しません。

スピードライトSB-800、SB-600装着時の感度自動制御について

- セットアップメニューから“露出”の“感度自動制御”の“感度自動制御設定”（→154ページ）を“ON”に設定してスピードライトSB-800、SB-600 を装着すると、フラッシュの光量が適正となるように感度自動制御が機能します。ただし“感度自動制御設定”が“ON”に設定されていても、次のような場合は手前の被写体が露出アンダーになることがあります。
  - 低速シャッタースピードでフラッシュ撮影（スローシンクロ）を行う場合
  - 日中の明るい場所でフラッシュ撮影（日中シンクロ）を行う場合
  - 背景が明るい場合

  このような場合には、次の操作を行うことでフラッシュの照射光が届きやすくなります。
  - 露出モードをA（絞り優先オート）などにして絞りを開く
  - スローシンクロを解除する

■ アクセサリーシューについて

このカメラはアクセサリーシューを装備しています。スピードライトSB-800・600・80DX・28DX・28・50DX・27・23・22S・29Sなどを使用する場合、アクセサリーシューに差し込むだけでコードレスで接続できます。セーフティロック機構（ロック穴）を備えていますので、セーフティロックピン付きのスピードライト（SB-800、SB-600 など）を取り付けると、スピードライトが不用意に外れるのを防止できます。

注意

外部フラッシュを使用しないときは、必ずアクセサリーシューカバーを取り付けてください。

■ シンクロターミナル

シンクロコードを必要とするフラッシュ撮影時に、シンクロコードをシンクロターミナル（JIS-B型外れ防止ネジ付き）に接続してください。ただし、スピードライトSB-800・SB-600・80DX・28DX・28・50DX・27・23・22S・29S などをアクセサリーシューに装着した状態で後幕シンクロを行う場合には、シンクロターミナルに他のフラッシュを接続して増灯撮影などを行わないでください。

注意

外部フラッシュを使用しないときは、必ずアクセサリーシューカバーを取り付けてください。

ISO感度を設定する（ISO感度）

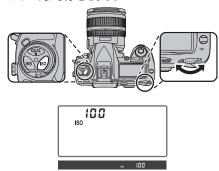
光に対する感度を変更することができます。
ISO感度の設定値が大きいほど高感度になり、暗い場所での撮影が可能になります。
ISO感度は100～3200相当の間で1/3段ステップで設定できます。

■ 設定できるISO感度

100/125/160/200/250/320/400/500/640/800/1000/1250/1600/2000/2500/3200

■ 撮影メニューから設定する

撮影メニューの“ISO感度”でお好みの設定を選びます。

撮影メニューの設定方法（→107ページ）

メモ

高感度撮影ではS画素のみで広ダイナミックレンジ撮影を行います。D-RANGEを130%以上にしてもRAW撮影時のデータ量は約半分で記録されますが、アプリケーションソフトで選択できるダイナミックレンジは400%まで可能です。

■ “ISO”ボタンとメインコマンドダイヤルで設定する

“ISO”ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回して希望するISO感度を表示パネル、ファインダー内に表示させます。

注意

ISO感度を高く設定すると、画像がザラつく場合があります。また、白点などのノイズが生じることがあります。

撮影する画質を設定する（クオリティー）

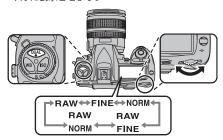
撮影する画質を設定します。撮影目的に合わせた設定をしてください。NORMAL、FINE、RAWの順に画質が高くなります。

■ 設定できる画質

RAW	非圧縮のCCD-RAWファイルで記録します。カメラで画像処理を行わず、パソコンで画像処理を施すときに設定します。
FINE	高画質（低い圧縮率）でJPEG圧縮して記録します。記録できる画像の枚数はRAWよりも多くなります。
NORMAL	標準画質（標準の圧縮率）でJPEG圧縮して記録します。記録できる画像の枚数は最も多くなります。
RAW+FINE	RAWとFINEの、2種類の画像を同時に記録します。
RAW+NORMAL	RAWとNORMALの、2種類の画像を同時に記録します。

注意

- “クオリティー”を“RAW＋FINE”、“RAW＋NORMAL”のいずれかに設定して撮影した場合は、カメラではJPEG画像のみ再生可能です。JPEG画像と同時記録されたRAW画像はパソコンでの再生専用になります。
- RAW画像と同時記録されたJPEG画像をカメラ上で削除すると、RAW画像も削除されます。

■ 撮影メニューから設定する

撮影メニューの“クオリティー”でお好みの設定を選びます。

撮影メニューの設定方法（→107ページ）

■ “QUAL”ボタンとメインコマンドダイヤルで設定する

“QUAL”ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回して使用するクオリティー設定を表示パネルに表示させせます。

もっと使いこなそう（撮影編）

撮影する画像の大きさを設定する（ピクセル）

記録される画像の大きさを変更できます。

■ 設定できる画像サイズ

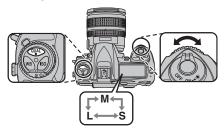
L 4256x2848：
画像サイズを4256×2848ピクセル（約1210 万画素）に設定します。記録できる画像枚数は最も少なくなります。

M 3024x2016：
画像サイズを3024×2016ピクセル（約610万画素）に設定します。

S 2304x1536：
画像サイズを2304×1536ピクセル（約354万画素）に設定します。

■ ピクセル設定と用途例

L 4256x2848	半切、A3 サイズ程度でプリントする場合。
M 3024x2016	六切、四切、A4 サイズ程度でプリントする場合。
S 2304x1536	2L、HV、A5 サイズ程度でプリントする場合。

■ 撮影メニューから設定する

撮影メニューの“ピクセル”でお好みの設定を選びます。
撮影メニューの設定方法（→107ページ）

■ “QUAL”ボタンとサブコマンドダイヤルで設定する

“QUAL”ボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルを回して使用するクオリティー設定を表示パネルに表示させます。

色合いを調整する（WBホワイトバランス）

撮影時の環境・照明光に合わせ、ホワイトバランスを固定して撮影を行いたい場合に設定を変更します。AUTO時は、人物の顔アップなどの被写体や特殊な光源下では、正しいホワイトバランスが得られない場合があります。その場合は光源に合わせたホワイトバランスを選択してください。

■ 設定できるホワイトバランス

A AUTO：
その場の光量や色情報を自動的に判断し、自然なホワイトバランスで撮影できます。**A**（AUTO）で充分な効果を得るには、GまたはDタイプレンズのご使用をおすすめします。

電球：
光源が電球や白熱灯のときに設定します。

蛍光灯1：
光源が昼光色蛍光灯のときに設定します。

蛍光灯2：
光源が昼白色蛍光灯のときに設定します。

蛍光灯3：
光源が白色蛍光灯のときに設定します。

蛍光灯4：
光源が温白色蛍光灯のときに設定します。

蛍光灯5：
光源が電球色蛍光灯のときに設定します。

晴れ：
晴れた日の屋外など、太陽を光源とする撮影のときに設定します。

フラッシュ：
内蔵フラッシュやニコン製スピードライトを使って撮影する場合に適しています。

日陰：
日陰や曇った日の撮影のときに設定します。

K色温度設定：
設定する色温度を数値で選択します（→95ページ）。

PRESET CUSTOM 1～5：
撮影者が被写体や光源を基準にホワイトバランスを合わせることができます（→97ページ）

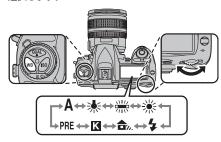
メモ

- ほとんどの場合は**A**（AUTO）で撮影できますが、**A**（AUTO）では対応できない場合や、特定の照明光に固定したい場合は、適応する特定のホワイトバランスを選択してセットします。また、「ホワイトバランスの微調整」（→96ページ）や、撮影者自身がホワイトバランスをセットする「プリセットカスタムホワイトバランスの設定」（→97ページ）も使用可能です。
- スタジオ用ストロボを使用する場合は、**A**（AUTO）に設定していても適正なホワイトバランスが得られない場合があります。その場合は、（フラッシュ）モードにして微調整を行うか、プリセットホワイトバランスをご使用ください。
- K色温度設定とPRESET CUSTOM1～5以外の設定のときは、内蔵フラッシュやニコン製スピードライトSB-800、SB-600をカメラに装着して使用すると、フラッシュ発光時の条件に応じて適したホワイトバランスに調整されます。

次ページにつづく

■ 撮影メニューから設定する

撮影メニューの“WBホワイトバランス”でお好みの設定を選びます。
撮影メニューの設定方法（→107ページ）

メモ

“PRESET CUSTOM”で“実行”を選ぶと設定したホワイトバランスが有効になります。ホワイトバランスの設定をしていない場合は“新規設定”を選び、プリセットカスタムホワイトバランスの設定を行ってください（→97ページ）。

■ “WB”ボタンとコマンドダイヤルで設定する

① “WB”ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回して希望するホワイトバランスのアイコンを選択します。

② 手順①で か**PRE**を選択したときは、“WB”ボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルで番号を選択します。

K 色温度設定について

フラッシュや人工の照明を使用しない日中の風景写真などでは、色温度を指定してホワイトバランスを設定することができます。ホワイトバランスでK（色温度設定）を選択すると、撮影者がホワイトバランスに使用する色温度を、数値で設定することができます。光源が蛍光灯の場合や、フラッシュ撮影の場合は、それぞれ（蛍光灯）モード、（フラッシュ）モードを選択してください。

■ 撮影メニューから設定する

① 撮影メニューの“WBホワイトバランス”で“K色温度設定”を選びます。
撮影メニューの設定方法（→107ページ）

② 色温度を選びます。

③“MENU/OK”ボタンを押して決定します。

■“WB”ボタンとコマンドダイヤルで設定する

①“WB”ボタンを押しながら、表示パネルにKが表示されるまでメインコマンドダイヤルを回します。

②“WB”ボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルを回して希望する色温度を表示パネルに表示させます。

メモ

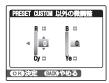
色温度計で測定した色温度をカメラにセットしても、意図したホワイトバランスが得られないことがあります。“K色温度設定”を設定した場合は、試し撮りをして、設定した色温度が撮影状況に適しているかどうかを確認することをおすすめします。

WBホワイトバランスの微調整

ホワイトバランスの微調整を行うことができます。
調整範囲は1段ステップで±3段です。

PRE CUS以外：
PRE CUS以外のホワイトバランスすべてをまとめて微調整します。
PRE CUS. 1〜5：
それぞれのPRE CUS設定のホワイトバランスの微調整を行います。

■ 撮影メニューから設定する

① 撮影メニューの“WBホワイトバランス微調整”を選びます。
撮影メニューの設定方法（→107ページ）

② 微調整を行う項目を選びます。

③ 設定画面に移ります。

R（赤）-Cy：+にすると画像が赤味がかります。また、−にすると画像がシアン味がかります。
B（青）-Ye：+にすると画像が青味がかります。また、−にすると画像が黄色味がかります。
R-Cy、B-Yeを共に+にすると画像がマゼンタ味がかります。
R-Cy、B-Yeを共に−にすると画像が緑味がかります。

④ 調整したい微調整値を−3〜+3の範囲で設定します。

⑤“MENU/OK”ボタンを押して決定します。

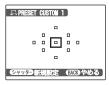
注意

ホワイトバランス微調整の設定は電源をOFFにしたり、撮影メニューリセットを行ってもリセットされません。

プリセットカスタムホワイトバランスの設定

光源に対して正確にホワイトバランスを合わせたいときに使用します。特殊な効果を出したいときにも使用できます。

■ 撮影メニューから設定する

① フォーカスモードレバーを**M**（マニュアル）にセットします。

② 撮影メニューの“WBホワイトバランス”で設定するPRESET CUSTOMを選びます。
撮影メニューの設定方法（→107ページ）

③“新規設定”を選びます。

④ 新規設定画面に移ります。

⑤ 設定したい光源下で白い紙または反射率18%グレーカードなどをファインダー内の中央重点測光エリア（→21ページ）を確実にカバーするようにとらえ、シャッターボタンを押します。

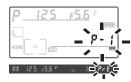
⑥ 適正な露出で測定されると、“GOOD!”と液晶モニターに表示されます。
画面内の□のエリアが撮影された白い紙またはグレーカードの中に入っていることを確認してください。“MENU/OK”ボタンを押して決定します。

■ 適正な露出で測定されないときは

適正な露出が測定されないときは、液晶画面に下記のメッセージが表示されます。

OVER： 被写体が明るすぎます。－側に露出補正してもう一度設定し直してください。

UNDER： 被写体が暗すぎます。＋側に露出補正してもう一度設定し直してください。

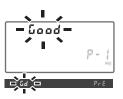
次ページにつづく

■“WB”ボタンとコマンドダイヤルで設定する

① “WB”ボタンを押しながら、表示パネルに**PRE**（プリセット）が表示されるまでメインコマンドダイヤルを回します。

② “WB”ボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルでプリセット番号（P-1～P-5）を選択します。

③ いったん“WB”ボタンから指を離し、再度“WB”ボタンを1.5秒以上押し続けます。プリセット取得モードになり、ファインダー内表示にPr Eの文字が、表示パネルにプリセット番号と**PRE**のアイコンが、それぞれ点滅します。

④ 設定したい光源下で白い紙または反射率18%グレーカードなどをファインダー内の中央重点測光エリア（→21ページ）を確実にカバーするようにとらえ、シャッターボタンを押します。

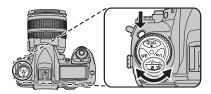
⑤ 適正な露出で測定されると、表示パネルのシャッタースピード表示部にGoodの文字が、ファインダー内のシャッタースピード表示部にGdの文字がそれぞれ約3秒間点滅し、プリセット取得モードを終了します。

■ 適正な露出で測定されないときは

適正な露出が測定されないときは、表示パネルとファインダー内のシャッタースピード表示部／絞り値表示部にnoGdの文字が、それぞれ約3秒間点滅し、手順③に戻ります。

メモ

- 以下のようなときは、カスタムホワイトバランスの設定ができません。
  - メモリーカードの空き容量がない
  - メモリーカードエラー
  - FEEが点滅している
  - コマNO.が999-9999に達している
  - 露出モード5でバルブ設定をしている
- 感度を変更したときは、カスタムホワイトバランスを設定し直すことをおすすめします。

セルフタイマー撮影をする（セルフタイマー）

セルフタイマーは記念写真など、撮影者自身も一緒に写りたいときなどに便利です。三脚などを使用し、カメラを安定させてから行ってください。

■ 設定できるセルフタイマー時間

2秒/5秒/10秒/20秒

❶ **セットアップメニューから“📷撮影”の“セルフタイマー”でお好みの設定を選びます。**

セットアップメニューの操作方法（→135ページ）

撮影
画像コメント入力 OFF
バーコードリーダー/GPS入力
低速連続撮影速度
露出ディレーモード
セルフタイマー
高速表示用データ付加
20秒
10秒
5 秒
2 秒

❷ **レリーズモードダイヤルロックボタンを押しながら、レリーズモードダイヤルを⏲セルフタイマー撮影にセットします。**

❸ **半押しで被写体にピントを合わせて、全押しします。**

 メモ

- フォーカスモードが**S**（AF-S）でピントが合っていないときなど、カメラのシャッターがきれない状態ではセルフタイマーは作動しません。
- AF（オートフォーカス）でピントを合わせる場合は、セルフタイマーを作動させるときにレンズを体などで覆わないように注意してください。

次ページにつづく

❹ 設定した時間で撮影されます。

- セルフタイマー撮影を開始すると、セルフタイマーランプ（AF補助光）が点滅から点灯に変わりシャッターがきれます（2秒設定は点灯のみ）。
- セルフタイマーの作動中は電子音が繰り返しなります。シャッターがきれる前の約2秒間は、電子音の間隔が短くなります。
- セルフタイマーの作動中に内蔵フラッシュを上げると、作動中のセルフタイマーをキャンセルします。
  ファインダー内のレディーライト⚡が点灯してから再度シャッターボタンを押すと、再びセルフタイマーが作動します。

メモ

- 適正露出に影響を与える接眼部からの逆入光を防ぐため、M（マニュアル）以外の露出モードでカメラから離れてセルフタイマー撮影を行う場合は、付属のアイピースキャップで接眼部を覆ってください。アイピースキャップは、接眼目当てを取り外し、ファインダー接眼部の上から差し込むように取り付けます。

- 露出モードがM（マニュアル）で、シャッタースピードがbulbにセットされている場合は、シャッタースピードが約1/3秒でシャッターがきれます。

セルフタイマーを解除するには

レリーズモードダイヤルロックボタンを押しながら、レリーズモードダイヤルをセルフタイマー ⏲以外にセットします。

オートブラケティングを使う

本機のオートブラケティングには大きく分けて、露出値をずらすAEブラケティング、主要被写体のTTL調光レベルをずらすフラッシュブラケティングの2種類があります。

■ 設定できるオートブラケティング

AEフラッシュブラケティング（AE⚡:AE・フラッシュBKT）：
AEブラケティングとフラッシュブラケティングを同時に行います。

AEブラケティング（AE:AE BKT）：
AEブラケティングをセットすると、シャッターをきるたびにカメラが表示する適正露出値（露出モードがマニュアルの場合は撮影者がセットした露出値）に対して、セットした撮影コマ数（最大9コマ）と補正ステップで自動的に露出をずらして（露出補正なしで最大±4段）撮影します。いずれの露出モードでもセットが可能ですが、露出モードによって補正される内容（シャッタースピード／絞り値）が異なります。

フラッシュブラケティング（⚡:フラッシュ BKT）：
フラッシュブラケティングをセットすると、シャッターをきるたびに、セットした撮影コマ数（最大9コマ）と補正ステップで、自動的にフラッシュの光量をずらして（調光補正なしで最大±4段）撮影します。フラッシュブラケティングはi-TTLモード調光時および絞り連動外部自動調光時（ニコン製スピードライトSB-800使用時のみ）に使用できます。

❶ **セットアップメニューから“⚡フラッシュ・BKT”の“オートBKTのセット”でお好みの設定を選びます。**

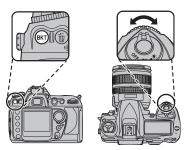
セットアップメニューの操作方法（→135ページ）

❷ **“BKT”ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回して撮影コマ数（104ページ）を表示パネルに表示します。**

もっと使いこなそう（撮影編）

次ページにつづく

0コマ以外に設定されると、表示パネルにBKTオートブラケティングマークとオートブラケティングインジケーターが表示され、表示パネルとファインダー内表示で露出補正マークが点滅します。

❸ “BKT”ボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルで補正ステップ（→104ページ）をセットします。

❹ 構図を決め、ピントを合わせて撮影します。

- 撮影中、シャッタースピードと絞りは補正された値が表示されます。
- オートブラケティング時は露出インジケーターがオートブラケティングインジケーターとして表示されます。撮影されたコマを示す表示が、オートブラケティングインジケーター上から消えます。
- AEブラケティングと露出補正（→74ページ）を同時にセットすると、両方の補正値が加算されたAEブラケティング撮影が行えます。±4段を超えるAEブラケティング撮影を行う場合に便利です。

ブラケティングを解除するには

“BKT”ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルで表示パネルの撮影コマ数を0にセットし、BKTオートブラケティングマークを消灯させます。この場合、セットした補正ステップは次回のAE・フラッシュ、AE、フラッシュブラケティング時まで保持されます。
また、ツーボタンリセット（→119ページ）でも解除できます。この場合もセットした補正ステップは保持されます。

■ AEブラケティングの補正内容

露出モードによって補正される内容（シャッタースピード／絞り値は以下のとおりです。

P：シャッタースピードと絞り値*1
S：絞り値*1
A：シャッタースピード*1
M：シャッタースピード*2

*1 セットアップメニューの“露出”の“感度自動制御”の“感度自動制御設定”（→154ページ）が“ON”に設定されている場合、シャッタースピードや絞り値が制御範囲を超えると、自動的にISO感度が変化します。

*2 セットアップメニューの“フラッシュ・BKT”の“BKT変化要素(Mモード)”（→166ページ）で内容を変更できます。

メモ

- レリーズモードをCL（低速連続撮影）またはCH（高速連続撮影）にセットして撮影する場合、オートブラケティング設定時は、シャッターボタンを押し続けるとセットしたコマ数の撮影が終了した時点でいったん停止します。シャッターボタンを押しなおすと次の連続撮影が可能になります。
- オートブラケティング撮影中にメモリーカードの残量がなくなっても、メモリー残量のある他のメモリーカードに交換すれば残りを撮影できます。
- オートブラケティング撮影中に電源スイッチをOFFにしても、再びONにすれば残りを撮影できます。
- セルフタイマー撮影時（→99ページ）には、セットした撮影コマ数のオートブラケティング撮影が1コマずつ行われます。

次ページにつづく

■ 撮影コマ数と補正ステップの組み合わせ

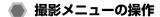
次の撮影コマ数と補正ステップがセットできます（セットアップメニューの“露出”の“露出設定ステップ幅”の設定内容により、セットできる補正ステップが異なります）。

“露出設定ステップ幅”を“1/3段”に設定した場合

表示パネル（撮影コマ数／補正ステップ／オートブラケティングインジケーター）	撮影コマ数	補正ステップ	撮影順序
+ 3F 0.3	3	+1/3段	+0.3/0/+0.7
+ 3F 0.7	3	+2/3段	+0.7/0/+1.3
+ 3F 1.0	3	+1段	1.0/0/2.0
− 3F 0.3	3	−1/3段	−0.3/−0.7/0
− 3F 0.7	3	−2/3段	−0.7/−1.3/0
− 3F 1.0	3	−1段	−1.0/−2.0/0
+ 2F 0.3	2	+1/3段	0/+0.3
+ 2F 0.7	2	+2/3段	0/+0.7
+ 2F 1.0	2	+1段	0/+1.0
− 2F 0.3	2	−1/3段	0/−0.3
− 2F 0.7	2	−2/3段	0/−0.7
− 2F 1.0	2	−1段	0/−1.0
3F 0.3	3	±1/3段	0/−0.3/+0.3
3F 0.7	3	±2/3段	0/−0.7/+0.7
3F 1.0	3	±1段	0/−1.0/+1.0
5F 0.3	5	±1/3段	0/−0.7/−0.3/+0.3/+0.7

表示パネル （撮影コマ数／補正ステップ／ オートブラケティングインジケーター）	撮影 コマ数	補正ステップ	撮影順序
5F 0.7	5	±2/3段	0/−1.3/−0.7/+0.7/+1.3
5F 1.0	5	±1段	0/−2.0/−1.0/+1.0/+2.0
7F 0.3	7	±1/3段	0/−1.0/−0.7/−0.3/+0.3/+0.7/+1.0
7F 0.7	7	±2/3段	0/−2.0/−1.3/−0.7/+0.7/+1.3/+2.0
7F 1.0	7	±1段	0/−3.0/−2.0/−1.0/+1.0/+2.0/+3.0
9F 0.3	9	±1/3段	0/−1.3/−1.0/−0.7/−0.3/+0.3/+0.7/+1.0/+1.3
9F 0.7	9	±2/3段	0/−2.7/−2.0/−1.3/−0.7/+0.7/+1.3/+2.0/+2.7
9F 1.0	9	±1段	0/−4.0/−3.0/−2.0/−1.0/+1.0/+2.0/+3.0/+4.0

“露出設定ステップ幅”を“1/2段”に設定した場合

表示パネル （撮影コマ数／補正ステップ／ オートブラケティングインジケーター）	撮影 コマ数	補正ステップ	撮影順序
+3F 0.5	3	+1/2段	+0.5/0/+1.0
+3F 1.0	3	+1段	1.0/0/2.0
−3F 0.5	3	−1/2段	−0.5/−1.0/0
−3F 1.0	3	−1段	−1.0/−2.0/0
+2F 0.5	2	+1/2段	0/+0.5
+2F 1.0	2	+1段	0/+1.0
−2F 0.5	2	−1/2段	0/−0.5
−2F 1.0	2	−1段	0/−1.0

次ページにつづく

表示パネル（撮影コマ数／補正ステップ／オートブラケティングインジケーター）	撮影コマ数	補正ステップ	撮影順序
3F 0.5	3	±1/2段	0/−0.5/+0.5
3F 1.0	3	±1段	0/−1.0/+1.0
5F 0.5	5	±1/2段	0/−1.0/−0.5/+0.5/+1.0
5F 1.0	5	±1段	0/−2.0/−1.0/+1.0/+2.0
7F 0.5	7	±1/2段	0/−1.5/−1.0/−0.5/+0.5/+1.0/+1.5
7F 1.0	7	±1段	0/−3.0/−2.0/−1.0/+1.0/+2.0/+3.0
9F 0.5	9	±1/2段	0/−2.0/−1.5/−1.0/−0.5/+0.5/+1.0/+1.5/+2.0
9F 1.0	9	±1段	0/−4.0/−3.0/−2.0/−1.0/+1.0/+2.0/+3.0/+4.0

“露出設定ステップ幅”を“1段”に設定した場合

表示パネル（撮影コマ数／補正ステップ／オートブラケティングインジケーター）	撮影コマ数	補正ステップ	撮影順序
+ 3F 1.0	3	+1段	+1.0/0/+2.0
− 3F 1.0	3	−1段	−1.0/−2.0/0
+ 2F 1.0	2	+1段	0/+1.0
− 2F 1.0	2	−1段	0/−1.0
3F 1.0	3	±1段	0/−1.0/+1.0
5F 1.0	5	±1段	0/−2.0/−1.0/+1.0/+2.0
7F 1.0	7	±1段	0/−3.0/−2.0/−1.0/+1.0/+2.0/+3.0
9F 1.0	9	±1段	0/−4.0/−3.0/−2.0/−1.0/+1.0/+2.0/+3.0/+4.0

撮影メニューを使う

画質調節やピント合わせの方法などを設定でき、撮影の幅が広がります。

撮影メニューの操作

❶ 撮影メニューを表示する

① カメラを撮影モードにします。再生モードになっているときは、シャッターボタンを半押しします。

② “MENU/OK” ボタンを押して、メニューを表示します。

❷ 項目を選択する

① 変更する項目を選びます。

❸ 設定を変更する

① 設定の変更に移ります。
一部の項目では専用の設定画面に切り換わります。

② 設定を変更します。

③ “MENU/OK” ボタンを押して決定します。

メニュー画面のヘルプ機能

メニュー画面で項目を選択しているときなどに、画面の右上に HELPマークが表示されている場合は、ヘルプ機能が使用できます。“ ” ボタンを押している間、その項目の説明が表示されます。

撮影メニュー一覧

メニュー	機能	設定
フィルムシミュレーション（➞110ページ）	撮影する画像の画作りを設定します。 スタンダード（STD）、スタジオポートレート（F1、F1a、F1b、F1c）、フジクローム調（F2）から選択できます。	STANDARD* / F1 / F1a / F1b / Fc/ F2
D-RANGE（➞111ページ）	撮影する画像のダイナミックレンジを設定します。	AUTO* / 100%(STD) / 130% / 170% / 230%(W1) / 300% / 400%(W2)
COLOR（➞112ページ）	画像を撮影するときの、色の濃さを設定します。	HIGH / MEDIUM HIGH / STD* / MEDIUM LOW / ORG / B/W
TONE（➞112ページ）	画像を撮影するときの、コントラストについて設定します。	HARD / MEDIUM HARD / STD* / MEDIUM SOFT / ORG
SHARPNESS（➞113ページ）	輪郭をソフトにしたり強調したり、撮影画質を調整するときに使用します。	HARD / MEDIUM HARD / STD* / MEDIUM SOFT / OFF
色空間（➞113ページ）	カラースペース（色空間）をsRGBにするか、Adobe RGB（1998）にするかを設定します。	sRGB* / Adobe RGB (1998)
感度（➞90ページ）	光に対する感度を変更できます。ISO感度の設定値が大きいほど高感度になり、暗い場面でも撮影できます。	100 / 125 / 160 / 200* / 250 / 320 / 400 / 500 / 640 / 800 / 1000 / 1250 / 1600 / 2000 / 2500 / 3200
ホワイトバランス（➞93ページ）	撮影時の光源によって色合いが変わるのを、適正な色にできます。	AUTO* / 電球 / 蛍光灯1～5 / 晴れ / フラッシュ / 日陰 / 色温度設定 / PRESET CUSTOM 1～5
ホワイトバランス微調整（➞96ページ）	ホワイトバランスで設定した色合いをさらに細かく調整します。 “撮影メニューリセット”を行っても、リセットされません。	−3 / −2 / −1 / 0* / +1 / +2 / +3

*工場出荷時の設定です。

メニュー	機能	設定
クオリティー (→91ページ)	撮影する画質を設定します。	RAW / FINE / NORMAL* / RAW+FINE / RAW+NORMAL
ピクセル (→92ページ)	記録される画像の大きさを変更できます。	S 2304x1536 / M 3024x2016* / L 4256x2848
多重露出 (→114ページ)	1つのフレームに複数コマを重ねて写し込み、1つの画像として記録します。	OFF* / 2 / 3 / 4 / 5 / 6 / 7 / 8 / 9 / 10
ライブ画像表示 (→116ページ)	液晶モニター上で画像を確認しながらピントを合わせることができます。	カラー * / 白黒
撮影メニューリセット (→118ページ)	撮影メニューを工場出荷設定にリセットできます。	—
ノイズリダクション (→118ページ)	ノイズリダクションを設定します。	STD* / ORG

*工場出荷時の設定です。

フィルムシミュレーションを設定する（フィルムシミュレーション）

撮影する画像の画作りを設定します。

STANDARD：
人物、風景など幅広い被写体に適した標準的な画作りのモードです。

F1：
ストロボ撮影時のハイライトのトビを抑え、さらに肌色再現の階調のつながりを重視し、プロネガ調をイメージしたスタジオでのポートレート撮影に適したモードです。

F1a：
F1に比べて彩度がわずかにアップします。

F1b：
肌色のつながりをよくしつつ、青空も鮮やかに写るようになります。屋外のポートレートに適しています。

F1c：
F1に比べて階調をやや硬めにします。ファッション系の撮影に適してます。

F2：
空の青さなどをリバーサルフィルムのように色鮮やかに再現する風景写真、自然写真に適したモードです。

■ フィルムシミュレーションの微調整

“STANDARD”以外のフィルムシミュレーションの設定を微調整できます。

① “フィルムシミュレーション”で微調整する設定を選びます。

② 微調整設定画面を表示します。

③ 変更する項目を選びます。

④ 設定の変更に移ります。

⑤ 微調整値を+2〜−2の範囲で選びます。

⑥ “MENU/OK”ボタンを押して決定します。

メモ

選択したモードによっては、微調整の設定値がグレーで表示されて選択できない場合があります。

ダイナミックレンジを設定する（D-Rng D-RANGE）

撮影する画像のダイナミックレンジを設定します。

AUTO：

カメラが撮影シーンに応じて自動的にダイナミックレンジを100%〜400%に可変させて撮影します。コントラストの強いシーンでは、白トビ、黒つぶれを抑え、広いダイナミックレンジを必要としない曇天や室内での撮影でもコントラストのある画像が得られます。

100%(STD)/130%/170%/230%(W1)/300%/400%(W2)：

どのような撮影シーンでも、指定したダイナミックレンジで撮影します。

注意

撮影メニューの“フィルムシミュレーション”が“STD”のときのみ設定できます。

メモ

100%（STD)に設定すると、連写間隔を短くすることができます。S画素のみを使用するため、RAWで撮影した場合でもアプリケーションソフト（ハイパーユーティリティー HS-V3、付属のFinePixViewer）で選択できるダイナミックレンジは100%のみになります。

色の濃さを設定する（COLOR）

画像を撮影するときの、色の濃さを設定します。

HIGH：色の濃さを標準よりも濃くするときに設定します。
MEDIUM HIGH：色の濃さを標準よりもやや濃くするときに設定します。
STD：色の濃さを標準に設定します。
MEDIUM LOW：色の濃さを標準よりもやや薄くするときに設定します。
ORG：色の濃さを標準よりも薄くするときに設定します。
商業印刷向けで画像加工を前提にしたときに適しています。
B/W：撮影した画像の色を黒白にするときに設定します。

注意

- 撮影メニューの“フィルムシミュレーション”が“STD”のときのみ設定できます。
- 画像データをそのまま観賞、またはプリントする場合は“ORG”は選択しないでください。

コントラストを設定する（TONE）

画像を撮影するときの、コントラストについて設定します。

HARD：画像のコントラストを標準より高くし、メリハリのある画像にするときに設定します。
MEDIUM HARD：画像のコントラストを標準よりもやや高くするときに設定します。
STD：撮影された画像のコントラストを標準に設定します。
MEDIUM SOFT：画像のコントラストを標準よりもやや低く設定します。
ORG：標準よりもコントラストを低く設定します。
商業印刷向けで画像加工を前提にしたときに適しています。

注意

- 撮影メニューの“フィルムシミュレーション”が“STD”のときのみ設定できます。
- 画像データをそのまま観賞、またはプリントする場合は“ORG”は選択しないでください。

画像の輪郭を強調／柔らかくする（SHARPNESS）

輪郭をソフトにしたり強調したり、撮影画質を調整するときに使用します。

HARD：輪郭を強調します。建物、文字などを鮮明にしたい撮影に最適です。
MEDIUM HARD：輪郭を標準よりもやや強調します。
STD：通常の撮影に最適なシャープネス処理をします。
MEDIUM SOFT：輪郭を標準よりもややソフトにします。人物などソフトにしたい撮影に最適です。
OFF：シャープネス処理をかけていません。
商業印刷向けで画像加工を前提にしたときに適しています。

注意

- 撮影メニューの“フィルムシミュレーション”が“STD”のときのみ設定できます。
- 画像データをそのまま観賞、またはプリントする場合は“OFF”は選択しないでください。

色空間を設定する（色空間）

カラースペース（色空間）をsRGBにするか、Adobe RGB（1998）にするかを設定します。

sRGB：通常の撮影ではsRGBに設定します。
Adobe RGB (1998)：商用印刷用途などに適しています。

もっと使いこなそう（撮影編）

感度を変更する（ISO感度）

詳しくは90ページをご参照ください。

色合いを調整する（WBホワイトバランス）

詳しくは93ページをご参照ください。

ホワイトバランスの微調整（ホワイトバランス微調整）

詳しくは96ページをご参照ください。

撮影する画質を設定する（クオリティー）

詳しくは91ページをご参照ください。

記録される画像の大きさを変える（ピクセル）

詳しくは92ページをご参照ください。

複数のコマを重ねて撮影する（多重露出）

1つのフレームに複数コマを重ねて写し込み、1つの画像として記録することができます。

① 撮影メニューから“多重露出”で重ねて撮影するコマ数を選びます。

② 構図を決め、ピントを合わせて1コマ目の撮影を行います。

- 多重露出による撮影が開始されると、表示パネルの多重露出マークが点滅します。
- レリーズモード（→62ページ）を**S**（1コマ撮影）にセットして撮影する場合、シャッターをきるたびに1コマずつ撮影されます。**CL**（低速連続撮影）または**CH**（高速連続撮影）にセットして撮影する場合は、シャッターボタンを押し続けると、多重露出で設定された撮影コマ数が終了した時点で画像が記録され、多重露出が解除されます。

③ 2コマ目以降の撮影を行います。

④ 設定されたコマ数の撮影が終了すると、一連のコマを重ね合わせた画像が表示されます。

⑤ “MENU/OK” ボタンを押すと画像が記録され、多重露出が解除されます。

- 表示パネルから多重露出マークが消灯します。

メモ

撮影が終わると、撮影画像が表示されます。“ ” を押すと撮影した画像を消去し、撮影をやり直すことができます。▲▼か “ ” ボタンを押すとズームまたはフェイスズームインができます。ズームまたはフェイスズームインを解除するには、“DISP/BACK” ボタンを押します。

次ページにつづく

注意

- 多重露出による撮影中は、メモリーカードの交換を行わないでください。
- 多重露出で記録された画像の撮影データ（撮影日時、測光モード、シャッタースピード、絞り値、露出モード、露出補正値、焦点距離、縦横位置情報など）は、1コマ目の内容になります。
- 多重露出による撮影中は、1コマ目を撮影してから多重露出が解除されるまで、撮影メニューの一部のメニュー操作が制限されます。
- 次の場合、その時点で撮影した画像を重ね合わせて記録し、多重露光撮影が解除されます。
  - 撮影途中で操作のないままオートパワーセーブで設定した時間が経過した場合
  - 撮影途中でカメラの電源スイッチをOFFにした場合
  - 撮影途中で、バッテリーの残量がなくなった場合
  - 撮影途中で“▶”ボタンを押した場合
  - 撮影途中“SET UP”ボタンを押した場合
- “D-Rng D-RANGE”を“AUTO”に設定していても、多重露出撮影中は400%で撮影されます。
- ISO AUTO（セットアップメニューで“±露出”から“感度自動制御”の“感度自動制御設定”を“ON”）に設定しているときや、オートブラケティングを設定しているときは、多重露出撮影ができません。

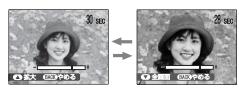
液晶モニターでピントを合わせる（ライブ画像表示）

マニュアルフォーカスでピントをより正確に合わせたいときや画角確認のために、液晶モニター上で画像を確認しながらピントを合わせることができます。

❶ フォーカスモードレバーをM（マニュアル）にセットします（→56ページ）。

❷ 撮影メニューから“ライブ画像表示”を選ぶか、ボタンを長押しします。

❸ 表示画像の色を選びます。

①“白黒”か“カラー”を選びます。

②“MENU/OK”ボタンを押して決定します。

メモ

操作を中止するときは、“DISP/BACK”ボタンを押します。

❹ 画像を拡大して、ピントを合わせます。

① 画像を拡大します。

② マニュアルでピントを合わせます。

メモ

- 画像が表示される時間は30秒です。
- ◀▶を押すと、明るさを変更できます。

③ “DISP/BACK” ボタンを押して、通常撮影に戻ります。

メモ

- ライブ画像表示中、表示パネルにPC接続中インジケーターが表示されますが、異常ではありません。
- ライブ画像表示終了直後にカメラの電源をOFFにすると、シャッタースピードがbulbに設定されることがあります。再度シャッタースピードを設定してください。
- ライブ画像表示する場合は別売のACアダプター AC-135VNのご使用をおすすめします。
  ライブ画像表示を連続的に使用するとCCDの発熱によりその後の撮影画像がザラついたり、白点などのノイズが生じる場合があります。その場合はしばらく電源を切って冷めるのをお待ちください。
- ライブ画像表示を連続して使用した場合、前回の明るさ設定を保持します。カメラの電源をOFFするか、オートパワーセーブが有効になり待機状態になると、リセットされます。再度設定し直してください。
- オートブラケティングを設定しているときは、ライブ画像表示にできません。オートブラケティングを解除してからライブ画像表示にしてください。

撮影メニューを初期設定に戻す（撮影メニューリセット）

撮影メニューを工場出荷設定にリセットできます。

① “実行” を選びます。

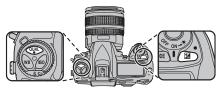
② “MENU/OK” ボタンを押すと、撮影メニューが工場出荷設定にリセットされます。

メモ

“ホワイトバランス微調整” 以外のすべての撮影メニューをリセットします。

画像のノイズを抑える（ノイズリダクション）

ノイズリダクションの効果を設定します。

STD：
通常はこちら選択します。ノイズの少ないクリアな画像になります。

ORG：
STDに比べてノイズリダクション効果を弱めた画像になります。天体撮影等に適しています。

機能や設定をリセットする（ツーボタンリセット）

簡単に各機能の働きやカメラ各部の設定を初期状態に戻すことができます。カメラ操作中にいったんカメラを初期状態に戻したい場合に便利です。

“”ボタンと“QUAL”ボタン（それぞれのボタンに緑色の●が表示されています）を2秒以上同時に押すと、一瞬表示パネルの表示が消え、カメラの各機能が初期設定に戻ります。

■ リセットされるカメラの機能

フォーカスエリア	中央*1
露出モード	P（プログラムオート）
プログラムシフト	解除
露出補正	解除（0.0）
AEロックのホールド状態	解除*2
オートブラケティング	解除*3
フラッシュシンクロモード	先幕シンクロ
調光補正	解除（0.0）
FV ロック	解除

*1 AFエリアモードがグループダイナミックAFの場合、中央のグループが選択されます。
*2 セットアップメニューの“ボタン操作”の“AE/AF-Lボタンの機能”はリセットされません。
*3 AE、フラッシュブラケティングの補正ステップは1段になります。

■ リセットされる撮影メニュー

プリセットカスタムホワイトバランス（PRESET CUSTOM1～5）の設定と“ ホワイトバランス微調整”以外のすべての撮影メニューがリセットされます。

 メモ

ツーボタンリセットではセットアップメニューのリセットはできません。

レンズ情報手動設定

非CPUレンズ装着時に、装着しているレンズの情報（焦点距離、開放絞り値）をカメラで設定することにより、以下の機能が使用できます。

焦点距離を設定して使用できる機能

- ニコン製スピードライトSB-800、SB-600の自動ズーミング
- 画像情報での焦点距離表示（焦点距離に M マークが付きます。）

開放絞り値を設定して使用できる機能

- レンズでセットした絞り値表示（表示パネル、ファインダー内表示）
- スピードライトの絞り連動外部自動調光
- 画像情報での絞り値表示（絞り値に M マークが付きます。）

焦点距離と開放絞り値の両方を設定して使用できる機能

- RGB マルチパターン測光*1

*1 レフレックスニッコールなど一部のレンズをご使用の場合、焦点距離と開放絞り値を設定してもRGB マルチパターン測光では充分な精度が得られない場合があります。中央部重点測光またはスポット測光を選択して撮影してください。

焦点距離と開放絞り値の両方を設定すると精度が向上する機能

- 中央部重点測光
- スポット測光
- i-TTL-BL調光*2

*2 測光モードはスポット測光以外にセットしてください。

メモ

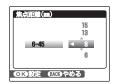
CPUレンズと非CPUレンズで画像の明るさ色合いが若干異なる場合があります。

焦点距離を設定する

設定できる焦点距離は6、8、13、15、16、18、20、24、25、28、35、43、45、50、55、58、70、80、85、86、100、105、135、180、200、300、360、400、500、600、800、1000、1200、1400、1600、2000、2400、2800、3200、4000mmです。

■ セットアップメニューから設定する

セットアップメニューの操作方法（→135ページ）

① セットアップメニューの“拡張”から“レンズ情報手動設定”を選び、“レンズ情報手動設定”画面を表示します。

② “焦点距離(mm)”を選びます。

③ 焦点距離設定画面を表示します。

④ 装着しているレンズの焦点距離が含まれる項目を選びます。

⑤ 焦点距離選択に移ります。

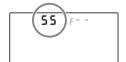
⑥ 装着しているレンズの焦点距離を選びます。

⑦ “MENU/OK”ボタンを押して決定します。

次ページにつづく

■ ファンクションボタンとメインコマンドダイヤルで設定する

① セットアップメニューから“ボタン操作”の“ファンクションボタンの機能”を“FVロック・レンズ情報設定”に設定します（→135、169ページ）。

② ファンクションボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回して装着レンズの焦点距離を表示パネルに表示させせます。

開放絞り値を設定する

設定できる開放絞り値はf/1.2、1.4、1.8、2、2.5、2.8、3.3、3.5、4、4.5、5、5.6、6.3、7.1、8、9.5、11、13、15、16、19、22 です。

■ セットアップメニューから設定する

セットアップメニューの操作方法（→135ページ）

① セットアップメニューの“拡張”から“レンズ情報手動設定”を選び、“レンズ情報手動設定”画面を表示します。

② “開放F値”を選びます。

③ 設定の変更に移ります。

④ 装着しているレンズの開放F値を選びます。

⑤ “MENU/OK”ボタンを押して決定します。

■ ファンクションボタンとサブコマンドダイヤルで設定する

① セットアップメニューから“⊜ボタン操作”の“ファンクションボタンの機能”を“FVロック・レンズ情報設定”に設定します（→135、169ページ）。

② ファンクションボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルを回して装着レンズの開放絞り値を表示パネルに表示させます。

メモ

- 内蔵フラッシュ、ニコン製スピードライトSB-800、SB-600使用時は、FVロックが機能するため、設定できません。内蔵フラッシュがポップアップしている場合は収納し、スピードライト装着時はスピードライトの電源をOFFにしてください。
- ズームレンズ使用時や、テレコンバーター使用時など、一致する焦点距離が選択項目にない場合は、装着レンズの焦点距離に最も近く、かつ大きい値を選択してください。
- 非CPUズームレンズを装着してズーミングを行った場合、変化するレンズの焦点距離や開放絞り値とカメラで設定されているレンズ情報は連動しません。ズーミングを行った場合は、再度レンズ情報を設定してください。
- 焦点距離と開放絞り値は一組の値として記憶されます。いったん焦点距離と開放絞り値を設定すると、次回からは焦点距離を設定するだけで記憶された開放絞り値が呼び出されます。
- 開放絞り値を設定してから焦点距離を設定しようとすると正しく設定できません。
  次の順序で設定してください。
  ①焦点距離の設定
  ②開放絞り値の設定
- 非CPUレンズでは、撮影した明るさやホワイトバランスがCPUレンズと同じにならない場合があります。

再生メニューを使う

撮影した画像を再生するときの機能です。

再生メニューの操作

① “▶” ボタンをを押して、カメラを再生モードにします。

② “MENU/OK” ボタンを押して、メニュー画面を表示します。

③ 変更する項目を選びます。

④ 設定の変更に移ります。
一部の項目では専用の設定画面に切り換わります。

⑤ 設定を変更します。

⑥ “MENU/OK” ボタンを押して決定します。

再生メニュー

メニューの設定方法
(→124ページ)

画像を消去する（消去）

失敗写真などの不要な画像を削除できます。
メモリーカードに空きを作りたいときや、整理したいときに使いましょう。

1コマ消去する（1コマ）

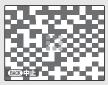
①消去するコマ（ファイル）を選びます。

②“MENU/OK”ボタンを押すと、表示中のコマ（ファイル）が消去されます。

メモ

続けて消去するには上の操作を繰り返します。
消去を終えるには“DISP/BACK”ボタンを押します。

注意

“MENU/OK”ボタンを繰り返し押すと連続して消去されます。誤って消去しないよう注意してください。

すべてのコマを消去する（全コマ）

“MENU/OK”ボタンを押すと、すべてのコマ（ファイル）が消去されます。

メモ

全コマ消去中に“DISP/BACK”ボタンを押すと中止でき、いくつかのコマ（ファイル）が消去されずに残ります。

次ページにつづく

メモ

・プロテクトされたコマ（ファイル）は消去できません。プロテクトを解除してから消去してください（→130ページ）。

注意

誤ってコマ（ファイル）を消去するともとに戻せません。消去したくないコマ（ファイル）は、パソコンなどにコピーしてください。

プリントする画像を指定する（プリント予約（DPOF））

DPOF対応のお店やプリンターでプリントするときに、画像や枚数、日付の有無を指定することができます。

日付あり設定 ：プリントしたときに日付が印字されます。

日付なし設定 ：プリントしたときに日付が印字されません。

全コマ解除 ：プリント予約したすべてのコマ（ファイル）の設定を解除します。

日付あり設定、日付なし設定

プリント予約を設定します。
"日付あり設定" のときは "" が表示され、日付を印字できます。

① プリント予約するコマ（ファイル）を選びます。

② プリント枚数を設定します。
- 最大99枚まで設定できます。
- プリントしないコマは0枚に設定してください。

続けて設定する場合は、①、②の操作を繰り返してください。

③ 設定が完了したら、必ず"MENU/OK"ボタンを押してください。
"DISP/BACK"ボタンを押すとプリント予約されません。

④ 合計枚数が表示されますので、もう一度、"MENU/OK"ボタンを押します。

メモ　プリント予約を解除するには

① 再生モードで"MENU/OK"ボタンを押して、再生メニューを表示し、▲▼で" プリント予約（DPOF）"を選びます。
② "▶"ボタンを押して、設定の変更に移ります。
③ ▲▼で"日付あり設定"か"日付なし設定"を選び、"MENU/OK"ボタンを押して予約設定画面を表示します。
④ ◀▶でプリント予約を解除したいコマ（ファイル）を選択します。
⑤ ▼でプリント枚数を0枚に設定します。

続けて解除するには④、⑤の操作を繰り返します。
設定が終了したら必ず"MENU/OK"ボタンを押してください。
- 全コマ解除（→128ページ）

もっと使いこなそう（再生編）

次ページにつづく

メモ

- 他の機種でプリント予約してあるとき

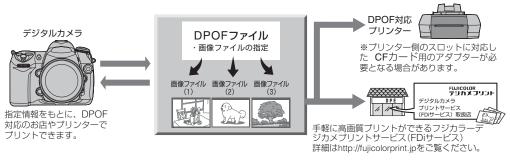
他の機種でプリント予約されたコマ（ファイル）がある場合は“プリント予約リセット OK？”と表示されます。
“MENU/OK”ボタンを押すと、既にプリント予約された設定はすべて消去されます。そのため、新たにプリント予約をやり直す必要があります。
- 同一メモリーカード内で最大999コマの画像にプリント予約できます。
- CCD-RAWファイルはプリント予約できません。

注意

- 設定中に“DISP/BACK”ボタンを押すと、新規設定がすべてキャンセルされます。既にプリント予約されていたときは修正のみキャンセルされます。
- プリンターの仕様によっては日付が入らないことがあります。
- 本機以外で撮影した画像はプリント予約できない場合があります。

全コマ解除

プリント予約をすべて解除できます。

再生メニューで“全コマ解除”を選び（→126ページ）、設定画面を表示します。

“MENU/OK”ボタンを押すと、プリント予約がすべて解除されます。

メモ

プリント予約が設定してあるコマには、再生時に“”が表示され、確認できます。

■ プリント予約（DPOF）について

DPOF（ディーポフ）とはDigital Print Order Format（デジタルプリントオーダーフォーマット）のことで、デジタルカメラで撮影した画像の中から、プリントしたいコマやその枚数、日付の有無などの指定情報をメモリーカードなどに記録するときの形式です。

指定情報をもとに、DPOF対応のお店やプリンターでプリントできます。

※プリンター側のスロットに対応した CFカード用のアダプターが必要となる場合があります。

手軽に高画質プリントができるフジカラーデジカメプリントサービス(FDiサービス)
詳細はhttp://fujicolorprint.jpをご覧ください。

デジカメプリントのご注文について

DPOF情報を記録したメモリーカードを、フジカラーデジカメプリントサービス（FDiサービス）取扱店にお持ちいただき、お店で「DPOF指定でプリント」とお伝えいただくだけで、指定情報どおりの高画質プリントサービスが受けられます。1回のDPOF指定でプリントできるサイズは1種類です。一部の店舗では、DPOF指定をお受けしていない場合がありますので、ご注文時にご確認ください。
また、DPOF指定をしなくてもフジカラーデジカメプリントサービスの取扱店でプリントしたいコマや、その枚数、日付の有無などの指定ができます（お店のプリント受付機をご利用いただくと画像を見ながら簡単にできます）。詳しくはお店にご確認ください。

※ 日付プリントをする場合には、撮影時にカメラの日時設定が正しく設定されている必要があります。撮影前にカメラの日時が正しく設定されていることをご確認ください。

※ セットアップメニューから“撮影”の“高速表示用データ付加”で“する”に設定していると正しくプリントできない場合があります。

画像を保護する（プロテクト）

画像を誤って消去しないように、大切な画像にプロテクトを設定して保護できます。

設定／解除

選んだコマ（ファイル）をプロテクトしたり、プロテクトを解除したりします。

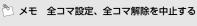
プロテクトされていない場合

プロテクトされている場合（“”表示）

①設定/解除するコマ（ファイル）を選びます。

②“MENU/OK”ボタンを押すと設定/解除されます。
プロテクトされていない場合：
プロテクト設定
プロテクトされている場合：
解除

続けて設定するには①、②の操作を繰り返します。
終了する場合は“DISP/BACK”ボタンを押してください。

全コマ設定

“MENU/OK”ボタンを押すと、すべてのコマ（ファイル）をプロテクトします。

全コマ解除

“MENU/OK”ボタンを押すと、すべてのコマ（ファイル）のプロテクトを解除します。

メモ　全コマ設定、全コマ解除を中止する

撮影した画像が大量にあると、全コマ設定、全コマ解除に時間がかかる場合があります。
操作の途中で静止画や動画の撮影をしたい場合は“DISP/BACK”ボタンを押してください。

注意

フォーマット（→37、181ページ）をすると、プロテクトしてあるコマ（ファイル）も消去されてしまいます。

連続して再生する（スライドショー）

撮影した画像を順番に再生します。画像の切り換えかたなどを設定できます。

メモ

- 途中でやめる場合は“MENU/OK”ボタンを押してください。
- “ノーマル”、“フェード”のときは◀▶でコマ送りできます。
- スライドショー中はオートパワーセーブ（→183ページ）は働きません。
- “DISP/BACK”ボタンを1回押すと、画面にガイダンスが表示されます。
- “ノーマル ”、“フェード ”のとき、このカメラで撮影した画像は、顔を拡大しながら再生します。

液晶モニターの明るさを調節する（モニター明るさ）

画面表示の明るさを調節します。

① 明るさを調節します。
＋側にすると明るくなり、－側にすると暗くなります。

② “MENU/OK”ボタンを押して決定します。

メモ

撮影画像表示中や再生中にマルチセレクターの中央を押すと、一時的に液晶モニターのバックライトを明るくすることができます。

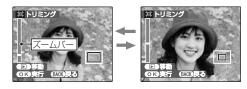
画像を切り抜く（トリミング）

撮影した画像の必要な部分を切り抜くことができます。

❶メニューを設定する

① トリミングするコマ（ファイル）を選びます。

② “MENU/OK”ボタンを押して、再生メニュー画面を表示します。

③ “トリミング” を選びます。

④ 設定画面を表示します。

❷切り抜く部分を選ぶ

▼ボタン（縮小）　▲ボタン（拡大）

① 拡大、縮小します。

メモ

トリミングを解除するには、“DISP/BACK”ボタンを押します。

ナビゲーション画面
（現在の表示位置）

② 表示を切り換えます。

もっと使いこなそう（再生編）

次ページにつづく

③切り抜きたい部分に移動します。

メモ

ズーム画面に戻るには、“▶”ボタンを押します。

④“MENU/OK”ボタンを押します。

❸記録する

トリミング後の記録画素数を確認して“MENU/OK”ボタンを押します。
トリミングした画像は別ファイルで最後のコマに追加されます。

メモ

トリミング後のサイズはM 3024x2016またはS 2304x1536になります。

注意

- 次の場合はトリミングできません。
  - “ピクセル”の設定が“S 2304x1536”で記録された画像
  - “クオリティー”の設定が“RAW”で記録された画像
  - メモリーカードの残り容量が3M以下のとき
- 本機以外のカメラで撮影した静止画はトリミングできない場合があります。

カメラの設定を変える―SET セットアップ

セットアップメニューの操作

❶ セットアップメニューを表示する

① "SET UP" ボタンを押して、メニューを表示します。

❷ メニューの区分を選択する

① 変更するメニューの区分を選びます。

② 項目の選択に移ります。

❸ 設定を変更する

① 変更する項目を選びます。

② 設定の変更に移ります。
一部の項目では専用の設定画面に切り換わります。

③ 設定を変更します。

④ "MENU/OK" ボタンを押して決定します。

メニュー画面のヘルプ機能

メニュー画面で項目を選択しているときなどに、画面の右上に HELPマークが表示されている場合は、ヘルプ機能が使用できます。" " ボタンを押している間、その項目の説明が表示されます。

セットアップメニュー一覧

項目		設定（表示）	内容	ページ
撮影				
	画像コメント入力	手入力/バーコード / OFF/バーコード* / OFF/BCD マルチリード	手入力/バーコードに設定すると画像のExif情報に記録するコメント（45文字まで）を設定できます。	143
	バーコードリーダー / GPS入力	BCR 1SHOT/BCR CONTINUOUS/GPS/ OFF*	10ピンターミナルに接続したバーコードリーダーまたはGPSの情報をＥxif情報として記録します。	144
	低速連続撮影速度	2fps(2コマ/秒) */ 1fps(1コマ/秒)	低速連続撮影（CL）時の連続撮影速度を、2コマ/秒または1コマ/秒に変更できます。	146
	露出ディレーモード	ON/OFF*	シャッターボタンを押すとミラー動作後約0.4秒でシャッターがきれるように設定します。ミラーの振動によるブレの防止に効果的です。	147
	セルフタイマー	20秒/ 10秒*/ 5秒/ 2秒	撮影者を含めた集合写真などで使用します。	99
	高速表示用データ付加	する*/しない	“する”を選択すると、液晶モニターでの画像表示が速くなります。画像が表示できないなどの問題がある場合のみ“しない”を選択します。	147
表示				
	撮影画像表示	連続/4秒/2秒/OFF*	撮影後の画像確認画面（撮影結果）の表示方法を設定できます。	147
	イルミネーター点灯	ON/OFF*	オートパワーセーブが働くまで、常にイルミネーターを点灯することができます。	147
	格子線表示	ON/OFF*	アオリ撮影や水平、垂直位置出しに便利な格子線をファインダーに表示します。	148

＊ 工場出荷時の設定です。

項目		設定（表示）	内容	ページ
	ファインダー内警告表示	ON*/OFF	バッテリーチェック表示や、メモリーカード未装填表示などのスクリーン上の警告表示を非表示にすることができます。	148
画像回転				
	縦横自動回転再生	ON*/OFF	セットアップメニューの“縦横自動検出”を“ON”に設定して縦位置で撮影した画像を、再生時に縦位置で表示するかどうかを設定できます。	148
	縦横自動検出	ON*/OFF	“ON”を選択すると、画像を縦位置、横位置のどちらで撮影したかの情報を記録できます。	148
AF				
	AF-Cモード時の優先	R:レリーズ* / R/F:レリーズ/フォーカス / F:フォーカス	AF-Cモード時のシャッターボタンを押したときの動作を選択します。	149
	AF-Sモード時の優先	R:レリーズ/ F:フォーカス*	AF-Sモード時のシャッターボタンを押したときの動作を選択します。	150
	フォーカスエリアフレーム切替	NORMAL 11点*/ WIDE 7点	フォーカスエリアをノーマル（11点）、ワイド（7点）に切り換えます。	53
	グループダイナミックAF	パターン1:中央優先*/ パターン1:至近優先/ パターン2:中央優先/ パターン2:至近優先	フォーカスエリアのグループ分けと優先するフォーカスエリアを選択します。	150
	AFロックオン	強い/標準*/弱い/OFF	被写体との距離が瞬時に大きく変化した場合のピント合わせの動作設定をします。	151
	AFレンズ駆動	S/A:半押し/AF-ON*/ A:AF-ONのみ	半押ししたときにピント合わせを行うかどうかを設定します。	152
	フォーカスエリア照明	AUTO*/ON/OFF	ファインダー内のフォーカスエリアの照明方法を、撮影条件に合わせて設定します。	152

＊ 工場出荷時の設定です。

次ページにつづく

項目		設定（表示）	内容	ページ
	フォーカスエリア循環選択	ON/OFF*	マルチセレクターによるフォーカスエリアの設定を、端のエリアから反対側に循環させることができます。	153
	内蔵AF補助光	ON*/OFF	暗い所でオートフォーカスが合いやすいように自動点灯する内蔵AF補助光を、点灯しないように設定できます。	153
露出				
	AEロック	S/A:半押し/AE-L / A:AE-Lのみ*	シャッターボタンを半押ししたときにAEロックが行えます。露出を決めてからそれを保持したまま構図を変更したい場合に便利です。	154
	感度自動制御	感度自動制御設定/制御上限感度/低速限界設定	設定したISO感度では適正露出を得られない場合、カメラが自動的に感度を制御して適正露出に近づけます。自動的に制御する高感度側上限感度値を選べます。フラッシュ使用時も感度自動制御が働きます。	154
	露出設定ステップ幅	1/3段* / 1/2段 / 1 段	シャッタースピード、絞り、AEブラケティング補正ステップの設定·表示のステップ幅を設定します。	156
	露出·調光補正ステップ幅	1/3段* / 1/2段 / 1 段	露出補正値、及び調光補正値の設定のステップ幅を設定します。	156
	露出補正簡易設定	一時ON/ON/OFF*	“ON”に設定すると、“”ボタンを使用せずにコマンドダイヤルだけで露出補正量を設定できます。	156
	中央部重点測光範囲	AVG:画面全体の平均/ φ13mm/φ10mm/ φ8 mm*/φ6 mm	中央重点測光時の重点測光範囲を変更できます。画面全体の平均測光にも変更できます。	157
	基準露出レベル調節	マルチパターン測光（−1～+1）/ 中央部重点測光（−1～+1） /スポット測光（−1～+1）	基準とする露出レベルを、測光モードごとに調節します。ツーボタンリセット操作を行っても設定値は解除されません。	157

* 工場出荷時の設定です。

項目		設定（表示）	内容	ページ
フラッシュ･BKT				
	フラッシュ撮影同調速度	1/250*～1/60、 1/250(AUTO FP)	フラッシュ撮影時の同調シャッタースピードを1/250～1/60秒の範囲で設定できます。	158
	フラッシュ時Tv制限	1/60秒*～30秒	フラッシュ撮影時、露出モードPまたはAでのシャッタースピード低速側制限値を1/60秒～30秒の範囲で設定できます。	159
	内蔵フラッシュ発光	TTL*/M:マニュアル発光/R:リピーティング発光/C:コマンダー	内蔵フラッシュの発光制御方法を設定します。	159
	モデリング発光	ON*/OFF	クリエイティブライティングシステム(CLS)対応スピードライト装着時にプレビューボタン操作でモデリング発光を行うかどうかを設定します。	166
	オートBKTのセット	AE:AE･フラッシュ BKT*/ AE:AE BKT/ :フラッシュ BKT	オートブラケティングセット時の内容を設定します。	166
	BKT変化要素(Mモード)	Tv*/Tv・Av/ Av/フラッシュ	露出モードがマニュアル(M)でオートブラケティグを行った場合、何を変化させるのかを設定します。 オートBKTの設定内容により動作が変化します。	166
	BKT補正順序	N：初期設定の順*/ :－側から＋側へ	オートブラケティングの補正撮影順序を初期設定の順から、－側から+側の順序に変更できます。	167
	BKT設定方法	補正値/コマ数 単独* / 組み合わせでの設定	オートブラケティングは初期設定では補正ステップと撮影コマ数を別々にセットしますが、予め組み合わされた設定の中から選択することもできます。	167

＊ 工場出荷時の設定です。

次ページにつづく

項目	設定（表示）	内容	ページ
ボタン操作			
AE-L/AF-Lボタンの機能	AE-L/AF-L* / AE-L / AE-L(レリーズでリセット) / AE-L(ホールド) / AF-L	“AE-L/AF-L”ボタンに、標準のAE（露出）/AF（オートフォーカス）ロック以外の機能を設定できます。	167
撮影時の中央ボタン	AFエリア中央リセット*/選択AFエリア表示/使用しない	撮影モードでの中央ボタンの機能を設定します。	168
マルチセレクターでの起動	ウェイクアップしない*/ウェイクアップする/AF起動する	マルチセレクターの操作によってオートパワーセーブから復帰、またはオートフォーカスを起動させることができます。	168
ファンクションボタンの機能	FL：FVロック* / FVロック・レンズ情報 / Tv・Av1段選択 / AE-L/AF-Lボタンと同じ / フラッシュ発光禁止 / BKT自動連写 / マルチパターン測光簡易 / 中央部重点簡易 / スポット測光簡易 / フォーカスエリアフレーム切換え	ファンクションボタンに割り付ける機能を設定します。	169
ファンクションロック機能	ロック指定/機能別ロック設定/暗証番号変更	誤操作防止のために、コマンドダイヤルや撮影メニュー、セットアップメニューの設定を変更できないようロックできます。	170
コマンドダイヤル設定	回転方向 / メインとサブの入れ替え / サブコマンドダイヤルでの絞り値設定 / 再生/メニューモードでの使用	コマンドダイヤルの機能を変更できます。	173
ボタンによる設定方法	デフォルト*/ホールド	ボタンとコマンドダイヤルを組み合わせて使用するときのボタンの動作を設定します。	176
テストレリーズ	する*/しない	メモリーカードがカメラに入っていないときはシャッターを切れないように設定できます。	176

＊ 工場出荷時の設定です。

項目		設定（表示）	内容	ページ
拡張				
	レンズ情報手動設定	焦点距離(mm)/開放F値	非CPUレンズを装着する場合に非CPUレンズの情報（焦点距離、開放絞り値）をカメラに登録します。	120
	MB-D200電池設定	—	ニコン製バッテリーパックMB-D200使用時の単3形電池の種類を選びます。	177
	MB-D200のAF-ONボタン	—	ニコン製マルチパワーバッテリーパックMB-D200の縦位置AF 作動ボタンで行う機能を設定します。	177
	保存画像の情報設定	マスキング/DPI設定	画像を切り抜いて（マスキング）保存するときの、画像の縦横比と解像度（dpi）を指定できます。	177
メンテナンス				
	電池チェック	—	装填されている充電式バッテリー NP-150の情報を表示します。	178
	ファームウェアバージョン	—	カメラの現在のファームウェアバージョンを表示したりします。	179
	シャッター動作回数/交換回数	—	シャッターの動作回数とシャッターユニットの交換回数を表示します。	179
	クリーニングミラーアップ	—	撮像素子前面のローパスフィルターをクリーニングするために、ミラーを上げた状態に固定します。	217
時間·言語/LANG.				
	日時設定	—	日付、時刻を修正できます。	38
	世界時計	ホーム/現地	時差の設定ができます。	179
	言語/LANG.	日本語*/ENGLISH	画面に表示する言語を設定できます。	38

* 工場出荷時の設定です。

次ページにつづく

項目	設定（表示）	内容	ページ
システム			
フォーマット	―	メモリーカードを初期化します。すべてのファイルが消去されます。	181
USB設定	MTP MTP（PTP）*/ ⇋PC SHOOT 自動/ ⇋PC SHOOT 固定	USBの使い方を設定します。	181
コマNo.設定	連番*/新規	コマNO.の付けかたを設定します。	182
オートパワーセーブ	OFF/10分/5分/2分/1分/30秒/15秒*	オートパワーセーブになるまでの時間を設定します。	183
ビープ音量	LOW*/HIGH/OFF	セルフタイマー使用時やピントがあったときのビープ音を高音にしたり、鳴らないように変更できます。	183
ビデオ出力	NTSC*/PAL	ビデオ出力をNTSCにするかPALにするかを選択します。日本国内で使用する場合はNTSCを選択してください。	183
セットアップリセット	―	セットアップメニュー内の日時設定、ビデオ出力以外のすべての設定を工場出荷設定にリセットします。	183

* 工場出荷時の設定です。

撮影

画像コメント入力

手入力/バーコードに設定すると画像のExif情報に記録するコメント（45文字まで）を設定できます。

手入力/バーコード：
画像のExif情報に記録するコメント（45文字まで）を“画像コメント入力”（→144ページ）画面の操作で手入力により設定、編集ができます。OFF/BCDマルチリードで読み込んだデータは消去されます。
“バーコードリーダー /GPS入力”で“BCR 1SHOT”または“BCR CONTINUOUS”を選択してバーコードを読み取る時は45文字までの制限があり、バーコード読み取りごとに上書きします。

OFF/バーコード：
“画像コメント入力”（→144ページ）画面で入力したコメントは記録されません。
“バーコードリーダー /GPS入力”で“BCR 1SHOT”または“BCR CONTINUOUS”を選択してバーコードを読み取る際は45文字までの制限があり、バーコード読み取りごとに上書きします。

OFF/BCDマルチリード：
“画像コメント入力”（→144ページ）画面で入力したコメントは消去されます。
バーコード読み取り時の文字数制限は248文字になります。また、バーコードを読み取る時は区切り記号（ ， ； & のいづれかを選択）を付けて複数のバーコードを続けて読み取り追記します。

■ コメントを手入力する

❶ コメント入力を有効にする。

① “手入力/バーコード”を選びます。

② コメント入力画面に移ります。

メモ

- “手入力/バーコード”でコメントを設定すると、それ以降撮影された画像にはすべてコメントが添付されます。
- 画像へのコメントの添付を中止する場合は、“OFF/バーコード”または“OFF/BCDマルチリード”を選択してください。

次ページにつづく

❷コメント入力する。

① 1文字目に入力する文字を選びます。

② 2文字目の入力に移ります。

メモ

- 3文字目以降入力するには①～②を繰り返します。
- 文字を削除する場合は◀▶で削除したい文字を選んで、▲を押します。
- 文字を挿入する場合は◀▶で挿入したい箇所のすぐ後ろの文字を選択して▼を押します。

❸コメント入力を終了する。

① “MENU/OK”ボタンを押して決定します。

バーコードリーダー/GPS入力

10ピンターミナルに接続したバーコードリーダーまたはGPSの情報をExif情報として記録します。

BCR 1SHOT：
撮影毎に異なるバーコード情報をコメント情報として記録します。新しいバーコードを登録しないと撮影できません。

BCR CONTINUOUS：
登録したバーコード情報を全てのファイルのコメント情報として記録します。登録したバーコード情報を消去するには、このページの消去用バーコードを読み取るか、“画像コメント入力”で登録された文字を消去してください。

GPS：
GPS機器と通信し、画像データに撮影時の緯度、経度、標高、UTC（協定世界時）を記録します。

OFF：
バーコード情報の入力、GPS通信を行いません。

メモ

- バーコードデータが読み込まれると、表示パネルに**BCD**と表示されます。
- バーコード情報に使用できる文字は次のASCII文字です。
(スペース)、0～9、_(アンダーバー)、A～Z（小文字のバーコードリーダー入力も可能ですがコメント入力画面で確認、編集はできません)、!”#＄%＆’( )*
+ , - . / : ; < = > ? @ [ ] { }
使用できるバーコードの種別は、バーコードリーダーの仕様によります。
- “BCR 1SHOT”または“BCR CONTINUOUS”では“画像コメント入力”の設定により文字数制限や記録モード（上書き/追記）が変わります。

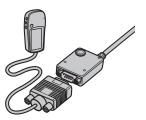
■ バーコードリーダーとの接続について

バーコードリーダーは市販のD-sub9ピンタイプのコネクタを持つものが使用できます。カメラとの接続はMC-35を介してバーコードリーダーを接続します。
詳しくはバーコードリーダーの使用説明書をご覧ください。

バーコードリーダの設定

- 通信速度：4800 bps
- データ長：8ビット
- パリティチェック：なし
- ストップビット：１ビット
- 終端コード：CR+LF

■ 消去用バーコード

下記のバーコードを読み込むと、登録したバーコード情報を消去できます。

■ GPSを使用した撮影

このカメラは、10ピンターミナルに接続したニコン製GPS変換コードMC-35を介してGPS機器と通信し、画像データに撮影時の緯度、経度、標高、UTC（協定世界時）を記録することができます。

GPS 機器との接続について

- データ形式がNMEA（National Marine Electronics Association）0183 ver.2.01を満たすGPS機器*と接続が可能です。

* GARMIN「eTrex」シリーズ（PC-Interface Cableが接続可能な機種）、MAGELLAN「SporTrak」シリーズ（PC Data Cableが接続可能な機種）など

- GPS変換コードMC-35は、GPS機器メーカーのPCケーブル(D-sub9ピンタイプ)に接続します。詳しくはMC-35の使用説明書をご覧ください。

カメラの設定を変える

次ページにつづく

注意

- GPS機器との接続の際は、必ずGPS機器の電源をOFFにして接続してください。
- GPS機器との接続の際、"バーコードリーダー /GPS入力"の設定が"BCR 1SHOT"または"BCR CONTINUOUS"になっているとエラー表示となります。カメラの電源をいったんOFFにして、再度設定し直してください。

GPS機器との通信について

- GPS機器の通信形式を、NMEAに設定してください（Baud rateは4800です）。
- GPS機器の使用方法については、GPS機器の使用説明書をご覧ください。
- GPS 機器との通信が開始されると、表示パネルにGPS 通信マーク GPS が表示されます。この状態で撮影を行うと、画像データに撮影時の緯度、経度、標高、UTC が記録されます。

- GPS機器との通信中は、オートパワーセーブが働かなくなります。
- GPS機器との通信が2秒以上途絶えると、表示パネルからGPS通信マーク GPS が消灯します。この状態で撮影された画像データには撮影時の緯度、経度、標高、UTCは記録されません。
- GPS機器と通信を行って撮影された画像は、再生時の画像情報にGPSデータのページが追加され、記録された撮影時の緯度、経度、標高、UTCが表示されます。

メモ

- UTC（Coordinated Universal Time＝協定世界時）は、GPS機器と接続して取得された世界標準時で、カメラで設定されている時刻はとは別に記録され、連動しません。
- GPS 機器と接続していても、GPS通信マーク GPS が点灯するまで緯度、経度、標高、UTCは記録されません。撮影時に表示パネルのGPS通信マーク GPS が点灯していることを確認してください。
- GPS機器のスイッチをオンにした直後など、GPS通信マーク GPS が点滅する場合は、GPS機器が取得している情報が確定していません。この場合、撮影を行っても、緯度、経度、標高、UTCは記録されません。GPS通信マーク GPS が点灯するまでお待ちください。

低速連続撮影速度

低速連続撮影（CL）時の連続撮影速度を、2コマ/秒または1コマ/秒に変更できます。

メモ

シャッタースピードが低速の場合、ダイナミックレンジ100%以外の設定では連続撮影速度で撮影できない場合があります。

露出ディレーモード

初期設定ではシャッターボタンを押すと同時にシャッターがきれますが、顕微鏡撮影時などのカメラブレを最小限に押さえるため、シャッターボタンを押すと最初にミラーが作動し、約0.4秒後にシャッターがきれるように変更できます。

ON ：
ミラーの作動後、約0.4 秒後にシャッターがきれます。

OFF：
シャッターボタンを押すと同時にシャッターがきれます。

セルフタイマー

詳細については99ページをご覧ください。

高速表示用データ付加

“する”を選択すると、液晶モニターでの画像表示が速くなります。画像が表示できないなどの問題がある場合のみ“しない”を選択します。

表示

撮影画像表示

撮影後の撮影結果の表示方法を設定できます。

連続： 撮影結果が表示されたあとに、自動的に記録されます。
次の撮影をするには、シャッターボタンまたは“MENU/OK”ボタンを押します。

4秒、2秒：撮影結果が約4秒間、または約2秒間表示され、自動的に記録されます。

OFF： 撮影後に撮影結果を表示しません。

イルミネーター点灯

初期設定では電源スイッチを イルミネーターまで回すと、表示パネルのイルミネーターが点灯しますが、常にイルミネーターが点灯するように変更することができます。

OFF：
電源スイッチを イルミネーターに合わせると、イルミネーターが点灯します。

ON：
イルミネーターが点灯します（バッテリーの消耗は早くなります）。

格子線表示

アオリ撮影や水平、垂直位置出しなどに便利な構図用格子線（→23ページ）をファインダーに表示させることができます。

ON：
　ファインダースクリーン上に格子線を表示します。
OFF：
　ファインダースクリーン上に格子線を表示しません。

ファインダー内警告表示

初期設定では、ファインダースクリーン上に次の警告表示を行いますが、表示されないように変更できます。

ON：
　ファインダースクリーン上に警告を表示します。
OFF：
　ファインダースクリーン上に警告を表示しません。

	バッテリーの残量が少ない場合に表示されます。
	カメラにメモリーカードが挿入されていない場合に表示されます。

画像回転

縦横自動回転再生

このカメラは、撮影時に構図の縦位置・横位置を感知する縦横位置センサーを内蔵しており、セットアップメニューから“画像回転”の“縦横自動検出”が“ON”に設定されている場合、撮影画像に縦横位置の情報が記録されます。通常は画像再生時に、撮影時の縦横位置を反映し、画像を自動的に回転して液晶モニターに表示しますが、“OFF”に設定すると、すべての画像を横位置として表示します。

ON：
　画像再生時に、撮影時の縦横自動検出を反映し、画像を自動的に回転して液晶モニターに表示します。
OFF：
　画像再生時に、すべての画像を横位置として表示します。

縦横自動検出

撮影時のカメラの縦横位置情報を画像に記録するかどうかを選択します。本機に内蔵された縦横位置センサーから得られる縦横位置情報を画像に記録しておくと、縦位置で撮影された画像を液晶モニターに表示したり、付属ソフトウェアで開いた場合に、自動的に縦方向に回転して表示されます。

ON：

撮影時のカメラの縦横位置情報として、「横位置」、「縦位置（時計回りに90°回転）」、「縦位置（反時計回りに90°回転）」のいずれかを画像に記録します。

横位置

縦位置時計回りに90°回転

縦位置反時計回りに90°回転

OFF：

撮影時のカメラの縦横位置にかかわらず、縦横位置情報を画像に記録しません。この設定で撮影された画像を液晶モニターで表示したり、付属ソフトウェアで開く場合は、横位置で表示されます。

- カメラを上向き、下向きで撮影する場合、誤った縦横位置情報が記録されることがあります。その際は“OFF”を選択してください。
- 連続撮影時（→62ページ）の構図の縦位置・横位置に関する情報は、連続撮影開始時の情報が記録されます。連続撮影中に構図を変えても、反映されませんのでご注意ください。

[ ] AF

AF-Cモード時の優先

初期設定ではフォーカスモードレバーを**C**（コンティニュアスAFサーボ）にセットした場合、ファインダー内の“●”ピント表示の点灯／消灯にかかわらずいつでもシャッターをきることができますが、“●”ピント表示が点灯するまでシャッターボタンを押してもシャッターがきれないように変更できます。

この場合でも、“●”ピント表示がいったん点灯してもフォーカスロックは行われず、シャッターをきるまでピント合わせの動作を続けます。

R:レリーズ：

ファインダー内の“●”ピント表示の点灯／消灯にかかわらず、シャッターボタンを押すとシャッターがきれます。

R/F:レリーズ/フォーカス：

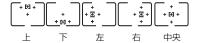
ファインダー内の“●”ピント表示の点灯／消灯にかかわらず、シャッターボタンを押すとシャッターがきれますが、低コントラスト・低輝度の被写体の場合、連続撮影時にできるだけピントが合うよう、連続撮影速度を落としてフォーカス動作を行います。連続撮影時に撮影速度よりもピント合わせを優先したい場合に有効です。

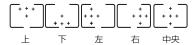
F:フォーカス：

ファインダー内の“●”ピント表示が点灯するまで、シャッターボタンを押してもシャッターがきれません。

AF-Sモード時の優先

初期設定ではフォーカスモードレバーを**S**（シングルAF サーボ）にセットした場合、ファインダー内に“●”ピント表示が点灯するまでシャッターボタンを押してもシャッターをきることができませんが、“●”ピント表示の点灯／消灯にかかわらずシャッターボタンを押すとシャッターがきれるように変更できます。
この場合でも、“●”ピント表示が点灯した状態でシャッターボタンの半押しを続けると、フォーカスロックが行われます

F:フォーカス：
　ファインダー内の“●”ピント表示が点灯するまで、シャッターボタンを押してもシャッターがきれません。
R:レリーズ：
　ファインダー内の“●”ピント表示の点灯／消灯にかかわらず、シャッターボタンを押すとシャッターがきれます。

フォーカスエリアフレーム切替

詳細については53ページをご覧ください。

グループダイナミックAF

AFエリアモードセレクトダイヤルを[◇]グループダイナミックAF（→52ページ）にセットした場合の、各フォーカスエリアグループに含まれるフォーカスエリアの組み合わせを変更したり、各フォーカスエリアグループのうち一番近い主要被写体に重なるフォーカスエリアでピントを合わせるように変更することができます。

パターン1:中央優先：

上　下　左　右　中央

パターン1:至近優先：

上　下　左　右　中央

パターン2:中央優先：

上　下　左　右　中央1*　中央2*

パターン2:至近優先：

* パターン2設定時は、中央のグループを選択すると、中央1と中央2のうち前回選択されたグループが選択され、以後マルチセレクターの中央部を押すごとに中央1と中央2が切り替わります。ただし、セットアップメニューから“ボタン操作”の“撮影時の中央ボタン”が“AFエリア中央リセット”以外に設定されている場合、中央2は選択できません。

■ 中央優先

選択されたフォーカスエリアグループに含まれるフォーカスエリアのうち、中央にあるフォーカスエリアでピントを合わせます。グループの中央にあるフォーカスエリアから被写体が一時的にはずれた場合でも、同じグループに含まれる他のフォーカスエリアからのピント情報を利用してピントを合わせることができます。「至近優先」のように一番手前にある主要被写体に重なっているフォーカスエリアをカメラが決定する必要がないため、迅速にフォーカス動作を開始することができます。「中央優先」設定時は、各グループの中央にあるフォーカスエリアが、表示パネルで [+] で表示されます。

■ 至近優先

選択されたフォーカスエリアグループに含まれるフォーカスエリアのうち、一番手前にある主要被写体に重なっているフォーカスエリアを使用して、自動的にピントを合わせます。そのフォーカスエリアから被写体が一時的にはずれた場合でも、同じグループに含まれる他のフォーカスエリアからのピント情報を利用してピントを合わせることができます。

AFロックオン

オートフォーカス撮影時に、被写体との距離が瞬時に大きく変わった場合のフォーカス動作について設定を行います。

強い／標準／弱い：

被写体との距離が瞬時に大きく変わった場合、一定時間経過してからこれに追従するようフォーカス動作を行います。被写体とカメラの間を障害物が横切るような撮影の場合など、意図に反して障害物にフォーカス動作を行うことを防止します。

- 被写体との距離が瞬時に大きく変わってから、追従するようフォーカス動作を開始するまでの時間が長い順に、「強い」、「標準」、「弱い」になります。

OFF：

被写体との距離が瞬時に大きく変わった場合でも、ただちにこれに追従するようフォーカス動作を行います。距離の異なる複数の被写体を次々と撮影するような場合に有効です。

AFレンズ駆動

初期設定ではシャッターボタンを半押しするか、AF-ONボタンを押すとAFレンズを駆動させてピント合わせを行いますが、“AF-ONボタン”のみでAFレンズを駆動させるように変更できます。

S/A:半押し/AF-ON：
シャッターボタンの半押し、または“AF-ON”ボタンによりAFレンズを駆動させてピント合わせを行います。

A:AF-ONのみ：
シャッターボタンではAFは駆動せず、“AF-ON”ボタンのみでAFレンズを駆動させてピント合わせを行います。

フォーカスエリア照明

初期設定ではファインダー内のフォーカスエリア（フレーム）は、マルチセレクターで選択されたフォーカスエリアを被写体の明るさに応じて見やすいように、瞬間的に赤色に自動照明しますが、照明しない、もしくは被写体の明るさによらず照明するように変更できます。

AUTO：
マルチセレクターで選択されたフォーカスエリアを被写体の明るさに応じて赤色に自動照明します。

ON：
被写体の明るさに関係なく常にフォーカスエリアを赤く照明します。背景の明るさによっては、赤色の照明が見えない場合があります。

OFF：
フォーカスエリアを照明しません。

フォーカスエリア循環選択

初期設定では上下、または左右反対側にあるフォーカスエリアを選択する場合、マルチセレクターの反対方向を押さなければなりません。循環方式に変更すると、マルチセレクターの▲を押すと上方向に、▼を押すと下方向に、▶を押すと右方向に、◀を押すと左方向に、それぞれ循環させることができます。これによりマルチセレクターの押す位置を変えることなく反対側のフォーカスエリアの選択が可能になります。

ON：
　フォーカスエリア選択の際、循環方式を使用できます。

OFF：
　フォーカスエリア選択の際、循環方式は使用できません。

内蔵AF補助光

内蔵AF補助光の発光条件が満たされた場合（→60ページ）、シャッターボタンを半押しすると自動的に内蔵AF補助光が照射されますが、内蔵AF補助光を発光しないように変更できます（ただし、オートフォーカスでのピント合わせができなくなる場合があります）

ON：
　内蔵AF 補助光の発光条件が満たされた場合に内蔵AF 補助光を照射します。

OFF：
　内蔵AF 補助光は発光しません。

露出

AEロック

初期設定では“AE-L/AF-L”ボタンを押しているときにAE ロックが行われますが、シャッターボタンを半押ししたときにAEロックが行われるように変更できます。

S/A:半押し/AE-L：
“AE-L/AF-L”ボタンまたはシャッターボタンの半押しでAEロックします。

A:AE-Lのみ：
“AE-L/AF-L”ボタン でAEロックします。シャッターボタンの半押しではAE ロックしません。

感度自動制御

撮影時の設定条件では適正露出を得られない場合にカメラが自動的に撮影者が選択したISO感度を制御して適正露出にします（または適正露出に近づけます）。

感度自動制御設定：
項目選択してマルチセレクターの▶を押し、▲▼で設定を変更します。

OFF:
感度自動制御を行いません。
ON:
設定したISO感度で適正露出が得られない場合、感度自動制御を行います。

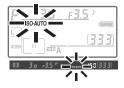
制御上限感度：
項目選択してマルチセレクターの▶を押し、▲▼で設定を変更します。

200/400/800/1600：
感度自動制御を行う場合の、上限を上記の中から選択できます。

低速限界設定：

項目選択してマルチセレクターの▶を押し、▲▼で設定を変更します。

1/250～1秒：
感度自動制御を行う場合の、シャッタースピードの低速側の限界を選択できます。

注意

“感度自動制御設定”を“ON”にすると、ISO感度の上限は“制限上限感度”で設定した感度に制限されます。

メモ

- 露出モードがP（プログラムオート）、A（絞り優先オート）の場合、「低速限界設定」で選択したシャッタースピードでは露出不足になる場合や、シャッタースピードが1/8000秒でも露出オーバーになる場合に感度が自動制御されます。
- 露出モードがS（シャッター優先オート）の場合、セットしたシャッタースピードで適正露出が得られない場合に感度が自動制御されます。
- 露出モードがM（マニュアル）の場合、セットしたシャッタースピード、絞り値で適正露出が得られない場合に感度が自動制御されます。
- 撮影時に適正露出を得るためのISO感度が、“制御上限感度”で選択された上限を超えている場合、選択された上限で撮影されます。
- フラッシュ使用時も、使用するフラッシュの光量が適正となるように感度自動制御が機能します。

■ 感度自動制御設定時の表示について

“ON”に設定した場合、表示パネル、ファインダー内に**ISO-AUTO**、**ISO AUTO**が表示されます。感度が自動制御されると**ISO-AUTO**が点滅し、ファインダー内に制御されたISO感度が表示されます。ただし、フラッシュ使用時は感度が自動制御される場合でも**ISO-AUTO**は点滅せず、制御されたISO感度も表示されません。

- “感度自動制御設定”を“ON”に設定すると、フラッシュの光量が適正となるように感度自動制御が機能します。ただし“感度自動制御設定”を“ON”に設定されていても、次のような場合は手前の被写体が露出アンダーになることがあります。
  - 低速シャッタースピードでフラッシュ撮影（スローシンクロ）を行う場合
  - 日中の明るい場所でフラッシュ撮影（日中シンクロ）を行う場合
  - 背景が明るい場合
  - このような場合には、次の操作を行うことでフラッシュの照射光が届きやすくなります。
  - 露出モードをA（絞り優先オート）などにして絞りを開く
  - スローシンクロを解除する

次ページにつづく

- 露出モードがP（プログラムオート）で感度が自動制御されているとき（**ISO-AUTO**、**ISO AUTO**点滅中）は、被写体の輝度がシャッタースピードと絞りの組み合わせによる露出制御範囲を超えているため、プログラムシフトしたり、プログラムシフトを解除しても、シャッタースピードと絞りの組み合わせは変化しません。
- ISO感度が高くなると、低く設定したときに比べて、多少ざらついた画像になることがあります。
- 感度が自動制御された画像は、再生時の画像情報表示で、ISO感度が赤色で表示されます。

露出設定ステップ幅

初期設定では露出値（シャッタースピード、絞り、オートブラケティング補正ステップ）を1/3段（EV）で表示または設定できますが、1/2段または1段に変更できます。

露出・調光補正ステップ幅

初期設定では露出補正値、調光補正値を1/3段（EV）で設定できますが、1/2段または1段に変更できます。

露出補正簡易設定

“☒”ボタンを使用せずに、コマンドダイヤルのみで露出補正できるように変更することができます。露出補正は±5段の間でセットできます（→74ページ）。

- 露出補正簡易設定を“ON”に設定すると、露出補正値にかかわらず露出インジケーターの「0」が点滅します。

一時ON：

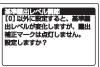
“ON”の場合と同様に、コマンドダイヤルのみで露出補正を設定します。電源スイッチをOFFにするか、オートパワーセーブが有効になり待機状態になると、設定されている露出補正量のうち、コマンドダイヤルのみで設定した露出補正量がキャンセルされます。

ON：

コマンドダイヤルのみで露出補正を設定します。セットアップメニューから“ボタン操作”の“コマンドダイヤル設定”の“メインとサブの入れ換え”設定により、次の表で記載しているダイヤルで露出補正が可能です。

		メインとサブの入れ替え	
		OFF	ON
露出モード	P	サブコマンドダイヤル	サブコマンドダイヤル
	S	サブコマンドダイヤル	メインコマンドダイヤル
	A	メインコマンドダイヤル	サブコマンドダイヤル
	M	機能しません。	

OFF：

“ ”ボタンとメインコマンドダイヤルで露出補正を設定します。

中央部重点測光範囲

中央部重点測光は、ファインダー中央部を重点的に測光して、露出値を決定します。中央部重点測光範囲の初期設定はφ8mmですが、φ6mm、φ10mm、φ13mm、画面全体の平均のいずれかに変更できます。ただし、非CPUレンズを装着している場合は、セットアップメニューの“ 拡張”の“レンズ情報手動設定”（→120ページ）の設定にかかわらず、測光範囲は常にφ8mmとなります。

基準露出レベル調節

適正露出の基準を撮影者の好みに合わせ、測光モードごとに明るめまたは暗めに調節することができます。1/6段ステップで、±1段の範囲で設定できます。初期設定は0で、－側に設定すると適正露出が暗めに、＋側に設定すると明るめに調節されます。

❶確認画面を表示します。

① “基準露出レベル調節” を選を選びます。

②確認画面に移ります。

③“MENU/OK”ボタンを押して実行します。

❷設定を変更します。

①変更する測光モードを選択します。

②設定の変更に移ります。

③設定を変更します。

④“MENU/OK”ボタンを押して決定します。

フラッシュ・BKT

フラッシュ撮影同調速度

フラッシュ撮影時のシャッタースピードの同調速度を、1/250～1/60秒の範囲で設定することができます。

1/250、**1/200**、**1/160**、**1/125**、**1/100**、**1/80**、**1/60**：
フラッシュ撮影時のシャッタースピードの同調速度をそれぞれの秒数に設定します。

1/250（AUTO FP）：
フラッシュ撮影時のシャッタースピードの同調速度を1/250秒に設定します。ニコン製スピードライトSB-800、SB-600、SB-R200使用時は1/250秒より速いシャッタースピードでは自動的にFP発光に切り換わります。*内蔵フラッシュ本発光時は、FP発光は行われません。

* 露出モードがP、Aで、表示パネル、ファインダー内のシャッタースピード表示部が1/250秒を示す場合、実際に制御されるシャッタースピードが1/250秒よりわずかでも高速側ならFP発光に切り換わり、低速側ならFP発光に切り換わりません。

■ 現在の同調速度を確認するには

露出モードがS、Mの場合にシャッタースピードの同調速度を上記で設定した値に固定する場合は、最も低速側（30秒またはbulb）の次の位置を選択してください。この場合、表示パネルとファインダー内にフラッシュシンクロマーク**X**と上記で設定した値が表示されます。

フラッシュ時Tv制限

初期設定では、フラッシュ撮影時の露出モードがP（プログラムオート）またはA（絞り優先オート）の場合、シャッタースピードの低速側が1/60秒に制限されますが、1/60秒〜30秒の範囲で1段ステップで設定することができます。ただし、スローシンクロモード、後幕シンクロモード、赤目軽減スローシンクロモード時や、露出モードがS（シャッター優先オート）、M（マニュアル）の場合は、自動的にシャッタースピードの低速側の制限が30秒まで延長されます。

内蔵フラッシュ発光

初期設定では内蔵フラッシュはi-TTL調光を行いますが、"マニュアル発光モード"や、繰り返し発光する"リピーティング発光モード"、カメラから離れたニコン製スピードライトSB-800、SB-600、SB-R200を制御する"コマンダーモード"に変更することができます。

TTL⚡：
内蔵フラッシュの光量は、撮影状況に応じて自動的に調節されます。

M⚡:マニュアル発光：
内蔵フラッシュが指定した発光量で発光します。モニター発光を行わないので、内蔵フラッシュをニコン製フラッシュコントローラー SU-4 などを使用した多灯撮影（リモート発光）のマスターフラッシュとして使用することができます。

R⚡:リピーティング発光：
シャッターが開いている間、内蔵フラッシュが指定した発光量、発光回数、発光間隔で、繰り返し連続発光します。1コマの画像内に被写体の連続的な動きを分解写真のように写し込むことができます。

C⚡:コマンダー：
内蔵フラッシュがプリ発光しながら、カメラから離れたニコン製スピードライトSB-800、SB-600、SB-R200をワイヤレス（アドバンストワイヤレスライティング）で制御します。内蔵フラッシュ、スピードライトのそれぞれに、調光方式、調光補正量を設定できます（→162ページ）。

次ページにつづく

■ マニュアル発光モードの設定方法

①“M⚡:マニュアル発光”を選びます。

② 設定の変更に移ります。

③発光量を選びます。

④“MENU/OK”ボタンを押して決定します。

メモ

“FULL”（フル発光）に設定した場合、内蔵フラッシュのガイドナンバーは約13（ISO100・m、20℃）となります。

■ リピーティング発光モードの設定方法

①“R⚡:リピーティング発光”を選びます。

② 設定の変更に移ります。

③“発光量”設定を変更します。

④ 次の設定の変更に移ります。

⑤手順③〜④を繰り返し、“回数”と“間隔”の設定を変更します。

⑥“MENU/OK”ボタンを押して決定します。

発光量：
発光1回あたりの発光量を設定します。設定できる発光量は、1/4、1/8、1/16、1/32、1/64、1/128 のいずれかです。

回数：
1コマで連続発光する回数を設定します。設定できる発光回数は2、3、4、5、6、7、8、9、10、15、20、25、30、35 回のいずれかです。

間隔：
発光間隔を、1 秒あたりの発光回数で指定します。設定できる1秒あたりの発光回数は1、2、3、4、5、6、7、8、9、10、20、30、40、50回のいずれかです。

回数について

- “回数”で設定した数値は、最大の発光回数です。内蔵フラッシュは露光中にのみ発光するため、シャッタースピードを長くしたり、“間隔”を長く（1秒あたりの発光回数を小さく）設定すると、実際の発光回数は設定した回数以下になります。
- “発光量”の設定により、以下のように連続発光回数が制限されています。表を参考にして、各数値を設定してください。

	発光量					
連続発光回数	1/4	1/8	1/16	1/32	1/64	1/128
2	○	○	○	○	○	○
3		○	○	○	○	○
4		○	○	○	○	○
5		○	○	○	○	○
6			○	○	○	○
7			○	○	○	○
8			○	○	○	○
9			○	○	○	○
10			○	○	○	○
15				○	○	○
20					○	○
25					○	○
30						○
35						○

次ページにつづく

■ コマンダーモードの設定方法

内蔵フラッシュを主灯（マスターフラッシュ）として、Aグループおよび B グループの2 つのグループに含まれる1個または複数の補助灯（ニコン製のスピードライト）をワイヤレス（アドバンストワイヤレスライティング）で制御します。

内蔵⚡：

主灯となる内蔵フラッシュの調光方式を設定します。

TTL	内蔵フラッシュは、i-TTL調光を行います。調光補正量の設定画面が表示されますので、内蔵フラッシュの調光補正量を、1/3段ステップで＋3.0〜－3.0段の範囲の中から選択します。
M	内蔵フラッシュはマニュアル調光を行います。発光量の選択画面が表示されますので、1/1（フル発光）、1/2、1/4、1/8、1/16、1/32、1/64、1/128から選択します。
—	撮影時に補助灯のみ発光します。内蔵フラッシュは本発光しませんが、撮影時はプリ発光を行えるよう、フラッシュロック解除ボタンを押して内蔵フラッシュをポップアップしてください。

A GRP.（Aグループ）：

Aグループの補助灯の調光方式を設定します。Aグループに設定された、すべての補助灯に設定が適用されます。

TTL	Aグループの補助灯は、i-TTL調光を行います。調光補正量の設定画面が表示されますので、Aグループの補助灯の調光補正量を、1/3段ステップで＋3.0〜－3.0段の範囲の中から選択します。
AA*	Aグループの補助灯は、絞り連動外部自動調光を行います。調光補正量の設定画面が表示されますので、Aグループの補助灯の調光補正量を、1/3段ステップで＋3.0〜－3.0段の範囲の中から選択します。
M	Aグループの補助灯は、マニュアル調光を行います。発光量の選択画面が表示されますので、1/1（フル発光）、1/2、1/4、1/8、1/16、1/32、1/64、1/128から選択します。
—	Aグループの補助灯は発光しません。

B GRP.（Bグループ）:
B グループの調光方式を設定します。Bグループに設定された、すべての補助灯に設定が適用されます。

TTL	Bグループの補助灯は、i-TTL調光を行います。調光補正量の設定画面が表示されますので、B グループの補助灯の調光補正量を、1/3段ステップで＋3.0～－3.0段の範囲の中から選択します。
AA*	Bグループの補助灯は、絞り連動外部自動調光を行います。調光補正量の設定画面が表示されますので、Bグループの補助灯の調光補正量を、1/3段ステップで＋3.0～－3.0段の範囲の中から選択します。
M	Bグループの補助灯は、マニュアル調光を行います。発光量の選択画面が表示されますので、1/1（フル発光）、1/2、1/4、1/8、1/16、1/32、1/64、1/128から選択します。
–	Bグループの補助灯は発光しません。

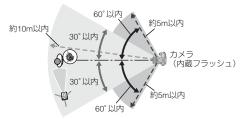
CH（チャンネル）:
補助灯と通信を行うためのチャンネルを、1、2、3、4から選択します。ここで設定されたチャンネルと同じチャンネルを、使用するすべての補助灯でも設定する必要があります。

* “AA”に設定して補助灯にSB-600、SB-R200を使用した場合は、発光しません。

❶ メニューの設定をする

① “C⚡:コマンダー”を選びます。

② 設定の変更に移ります。

③ 設定を変更します。

④ 次の設定の変更に移ります。

⑤ 手順③～④を繰り返し、各項目の設定を変更します。

⑥ “MENU/OK”ボタンを押して決定します。

カメラの設定を変える

次ページにつづく

❷ 撮影する

① 構図を決め、カメラと補助灯（ニコン製のスピードライト）を配置します。
- 補助灯は次の範囲内に配置してください。

補助灯のワイヤレスリモートセンサー窓をカメラ側に向けて設定してください。
- カメラの内蔵フラッシュと補助灯の距離は、カメラの対向正面（左右各30°以内）で約10m まで、両サイド（左右各60°以内）で約5mまでが目安です。ただし、周辺環境により、この距離は多少変化します。

② 使用するすべての補助灯の電源をON にし、グループ（AまたはB）とチャンネルを設定します。
- 補助灯の設定方法については、スピードライトの使用説明書をご覧ください。
- 補助灯のチャンネルは、必ずカメラで設定したものと同じチャンネル（1～4）に設定してください。

③ フラッシュポップアップボタンを押して、内蔵フラッシュをポップアップさせます。
- “内蔵⚡”の“発光モード”を「－」に設定した場合も、プリ発光を行うために内蔵フラッシュをポップアップさせます。

④ カメラのファインダー内表示とすべての補助灯でレディーライトが点灯していることを確認し、ピントを合わせて撮影します。
- 撮影前にプレビューボタンを押すと、使用するすべてのフラッシュのモデリング発光が行われるので、照射光の効果を簡単に確認することができます（セットアップの“⚡フラッシュ・BKT”の“モデリング発光”（→166ページ）が“ON”に設定されている場合のみ）。
- コマンダーモードはFVロック（→82ページ）と組み合わせて撮影することも可能です。

メモ

- 内蔵⚡を“TTL”にして調光補正量を0以外に設定すると、表示パネルとファインダー内表示に ⚡± 調光補正マークが点灯します。
- 内蔵⚡を“M”に設定すると、表示パネルとファインダー内表示に ⚡± 調光補正マークが点滅します。
- 内蔵⚡の“発光モード”を“−”に設定した場合で、内蔵フラッシュがポップアップした状態では、表示パネルのフラッシュシンクロモード表示から⚡が消灯します。

コマンダーモード時のご注意

- 補助灯は、内蔵フラッシュのプリ発光の光がセンサー窓に入る位置（通常はカメラより被写体に近い位置）に置きます。特に、手持ちで撮影する場合、プリ発光の光が確実にセンサー窓に入るように、補助灯はカメラより前に構えてください。
- 補助灯の直接光または強い反射光が、カメラの撮影レンズ（“TTL”設定時）や他の補助灯の外部自動調光用受光窓（“AA”設定時）に入らないようにしてください。光が入ると、適正露出が得られません。
- 同時に使用できる補助灯の台数に制限はありません。しかし、センサーに他の補助灯の強い光が入ると、正常動作できない場合があるため、実用上は3台程度が限度です。
- “内蔵⚡”の“発光モード”を“−”に設定した場合でも、補助灯の発光タイミングを合わせるため、プリ発光とは別に、撮影中に内蔵フラッシュが少量発光を行います。近距離撮影を行う場合、この少量発光が画像に写り込む場合があります。画像への影響を防ぐには、低いISO感度、または小さい絞り（大きい絞り値）に設定して撮影するか、ニコン製内蔵フラッシュ用赤外パネルSG-3IRを使用してください。少量発光の光量が大きくなる後幕シンクロ撮影では、内蔵フラッシュ用赤外パネルSG-3IRを使用してください。
- 撮影準備と配置が終わったら、必ずテスト撮影を行って、画像を確認してください。

モデリング発光

初期設定では、内蔵フラッシュ、ニコン製スピードライトSB-800、SB-600、SB-R200使用時にカメラのプレビューボタンを押すと、影の状況を把握するためのモデリング発光が行われますが、行われないように変更することができます

ON：
モデリング発光を行います。

OFF：
モデリング発光を行いません。

オートBKTのセット

オートブラケティングセット時の内容を下記の中から選択できます。

AE⚡:AE･フラッシュ BKT：
AEブラケティングとフラッシュブラケティングを同時に行います。

AE:AE BKT：
AEブラケティングを行います。

⚡:フラッシュ BKT：
フラッシュブラケティングを行います。

BKT変化要素(Mモード)

露出モードをM（マニュアル）にセットしてAE・フラッシュブラケティング、AEブラケティング、フラッシュブラケティングを行った場合に、変化させる内容を下の表のように設定することができます。

- オートブラケティング時に変化する内容は、セットアップメニューの“⚡フラッシュ･BKT”の“オートBKTのセット”の設定との組み合わせによって次のようになります。

BKT変化要素(Mモード)	オートBKTのセット		
	AE･フラッシュ BKT	AE BKT*1	フラッシュBKT*1
⚡Tv	⚡（調光レベル）*2/TV	Tv	⚡（調光レベル）*2
⚡Tv・Av	⚡（調光レベル）*2 /Tv/Av	Tv/Av	⚡（調光レベル）*2
⚡Av	⚡（調光レベル）*2 /Av	Av	⚡（調光レベル）*2
⚡フラッシュ	⚡（調光レベル）*2	—	⚡（調光レベル）*2

*1 セットアップメニューから“⊠露出”の“感度自動制御”の“感度自動制御設定”が“ON”に設定され、かつフラッシュが使用されていない場合、“BKT変化要素(Mモード)”の設定にかかわらずISO感度のみが変化します。

*2 フラッシュ調光レベルは、i-TTL調光時または絞り連動外部自動調光時のみ変化します。

BKT補正順序

オートブラケティングの補正順序を変更できます。

N:初期設定の順：
オートブラケティングの補正順序は、初期設定の順（→P.104）になります。

:ー側から＋側へ：
オートブラケティングの補正順序は、マイナス側からプラス側になります。

BKT設定方法

初期設定では、オートブラケティングは補正ステップと撮影コマ数を別々にセットしますが、所定の組み合わせの中から選択することで、まとめてセットできるように変更できます。

補正値/コマ数 単独：
“BKT”ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回して撮影コマ数を、サブコマンドダイヤルを回して補正ステップをセットします。

組み合わせでの設定：
“BKT”ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回してオートブラケティングのON／OFFを設定し、サブコマンドダイヤルを回して撮影コマ数と補正ステップの組み合わせを選択できます。

ボタン操作

AE-L/AF-Lボタンの機能

初期設定では、“AE-L/AF-L”ボタンを押すとAEロックとフォーカスロックが同時に行われますが、下記のように変更できます。

AE-L/AF-L：
“AE-L/AF-L”ボタンを押すとAEロックとフォーカスロックが同時に行われます。

AE-L：
“AE-L/AF-L”ボタンを押すとAE ロックのみが行われます。

AE-L（レリーズでリセット）：
“AE-L/AF-L”ボタンを押すとAEロック状態が維持され、シャッターをきるとAEロックは解除されます。また、再度“AE-L/AF-L”ボタンを押しても、AEロックは解除されます。

AE-L(ホールド)：
“AE-L/AF-L”ボタンを押すとAEロック状態が維持され、シャッターをきってもAEロックは解除されません。再度“AE-L/AF-L”ボタンを押すと、AEロックは解除されます。

AF-L：
“AE-L/AF-L”ボタンを押すとフォーカスロックのみが行われます。

撮影時の中央ボタン

初期設定では撮影時にマルチセレクターの中央部を押すと、中央のフォーカスエリアを選択しますが、下の表のように変更することができます。

AFエリア中央リセット：
撮影時にマルチセレクターの中央部を押すと、中央のAFエリア（グループダイナミックAFの場合は中央のフォーカスエリアのグループ*）を選択します。

選択AFエリア表示：
撮影時にマルチセレクターの中央部を押すと、ファインダー内で選択されているフォーカスエリア（グループダイナミックAFの場合はフォーカスエリアのグループ）のフレームが点灯します。

使用しない：
マルチセレクターの中央部は、撮影時には機能しません。

* セットアップメニューから“[▣]AF”の“グループダイナミックAF”で“パターン２:中央優先”または“パターン２:至近優先”を選択している場合（→150ページ）、中央のフォーカスエリアのグループが選択されている状態でマルチセレクターの中央部を押すと中央1から中央2に切り換わります。

メモ

フォーカスエリアロックレバーでフォーカスエリアをロックしているときは、動作しません。

マルチセレクターでの起動

オートパワーセーブ機能が有効となり、待機状態になったときにマルチセレクターを操作して、待機状態から復帰（ウェイクアップ）する、またはオートフォーカスを起動するように変更することができます。

ウェイクアップしない：
待機状態のときにマルチセレクターを操作しても、待機状態から復帰しません。

ウェイクアップする：
待機状態のときにマルチセレクターを操作すると、待機状態から復帰します。

AF起動する：
マルチセレクターを押すと待機状態から復帰して、押し続けている間オートフォーカスが作動します（マニュアルフォーカス時を除きます）。

ファンクションボタンの機能

初期設定ではファンクションボタンを押すと、FVロック（→82ページ）を行いますが、下記のように機能を変更することができます。

FVL：FVロック：
内蔵フラッシュ、ニコン製スピードライトSB-800、SB-600、SB-R200使用時は、ファンクションボタンを押すとFVロックを行い、再度押すと解除します。

FVロック・レンズ情報：
内蔵フラッシュ、ニコン製スピードライトSB-800、SB-600、SB-R200使用時は、ファンクションボタンを押すとFVロックを行い、再度押すと解除します。また、非CPUレンズ装着時は、内蔵フラッシュが収納され、ニコン製スピードライトSB-800、SB-600、ワイヤレススピードライトコマンダー SU-800が非装着またはオフの場合に、ファンクションボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと焦点距離を、サブコマンドダイヤルを回すと開放絞り値をそれぞれ設定できます（→122、123ページ）。

Tv・Av 1段選択：
露出値のステップ幅の設定にかかわらず、ファンクションボタンを押しながらメインコマンドダイヤル、サブコマンドダイヤルを回すことにより、S（シャッター優先オート）、M（マニュアル）時はシャッタースピードを、A（絞り優先オート）、M（マニュアル）時は絞り値を1段ステップで設定することができます。

AE-L/AF-Lボタンと同じ：
ファンクションボタンに“AE-L/AF-L”ボタンと同じ機能を設定します。

フラッシュ発光禁止：
ファンクションボタンを押しながらシャッターボタンを押すと、フラッシュを発光禁止にします。

BKT自動連写：
オートブラケティング撮影時にファンクションボタンを押しながらシャッターボタンを押すと、レリーズモードが1コマ撮影に設定されていても、設定したコマ数まで自動的に撮影を行います。
低速連続撮影／高速連続撮影の場合はファンクションボタンを押しながらシャッターボタンを押し続けている間、同じオートブラケティングの設定で繰り返し撮影を行います。

マルチパターン測光簡易：
ファンクションボタンを押している間、測光モードがマルチパターン測光に切り換わります。

中央部重点簡易：
ファンクションボタンを押している間、測光モードが中央部重点測光に切り換わります。

スポット測光簡易：
ファンクションボタンを押している間、測光モードがスポット測光に切り換わります。

フォーカスエリアフレーム切換え：
ファンクションボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、フォーカスエリアをノーマルフレーム（11点）とワイドフレーム（7点）に切り換えます（→53ページ）。

ファンクションロック機能

誤操作防止のために、コマンドダイヤルや撮影メニュー、セットアップメニューの設定を変更できないようロックできます。

ロック指定：
ロック指定の内容を“全てロック”、“機能別ロック”、“基本機能ロック”の中から選択できます。

解除	機能のロックを解除します。
全てロック	“基本機能ロック”と“機能別ロック”でロックできる機能をすべて変更できないようにロックします。
機能別ロック	指定した機能の設定を変更できないようにロックします。ロックする機能の指定は“機能別ロック設定”で行います。機能別ロックを設定すると、基本機能もロックされます。
基本機能ロック	機能別ロックで指定できる機能以外の全ての機能を変更できないようにロックします。

機能別ロック設定：
“ロック指定”で“機能別ロック”を選択したときの、ロックする機能を指定します。

暗証番号変更：
“ロック指定”で機能をロックするときの、暗証番号を設定、変更します。

■ 機能別ロックの内容

- フォーマット
- 消去
- 絞り
- シャッター速度
- 露出補正
- TONE/COLOR/SHARP
- D-RANGE
- 色空間
- フィルムシミュレーション
- 画質モード画素数
- ホワイトバランス
- ISO感度
- ノイズリダクション
- 露出モード
- フラッシュ補正
- メンテナンス
- 日時設定・時差設定
- 保存画像の情報設定

■ 基本機能ロックの内容

- すべてのセットアップメニュー（ファンクションロック、フォーマットを除く）
- オートブラケティング
- ツーボタンリセット

メモ

- ファンクションロックを設定しても、以下の機能は使用できます。
  - 再生（“▶”ボタン、“ ”ボタン）
  - レリーズ（“AF-ON”ボタン、“AE-L/AF-L”ボタン）
- “ロック指定”の“機能別ロック”を設定するときは、“機能別ロック設定”でロックする機能を指定してから設定してください（→171ページ）。

■ ロック指定の設定方法

①“ロック指定”を選びます。

②設定の変更に移ります。

③ロック指定の内容を変更します。

④設定の確認画面に移ります。
“暗証番号入力”画面が表示されたときは、暗証番号を入力して“MENU/OK”ボタンを押してください。

⑤“MENU/OK”ボタンを押して決定します。

メモ

ファンクションロック中は、ロックされたメニューは選択できなくなります。

■ 機能別ロック設定方法

①“機能別ロック設定”を選びます。

②“機能別ロック設定”画面を表示します。

③ロック指定する機能を選びます。

④設定の変更に移ります。

次ページにつづく

⑤設定を変更します。

⑥機能選択に戻ります。

⑦手順③〜⑥を繰り返し、各項目の設定を変更します。

⑧"MENU/OK"ボタンを押して決定します。

■ 暗証番号の設定方法

①"暗証番号変更"を選びます。

②"暗証番号変更"画面を表示します。

③設定する新しい暗証番号を入力します。

④"MENU/OK"ボタンを押して決定します。

⑤確認画面が表示されたら、"MENU/OK"ボタンを押して終了します。
◀を押して、"ファンクションロック"設定画面に戻ることもできます。

メモ

暗証番号を変更するには
手順③で既に暗証番号が設定されているときは、下の画面が表示されます。

既に設定している暗証番号と新しく設定する暗証番号をそれぞれ入力して、暗証番号を変更してください。“新しい暗証番号”を“0000”に設定すると、暗証番号設定が解除されます。

コマンドダイヤル設定

メインコマンドダイヤル、サブコマンドダイヤルに関する設定を行います。

回転方向：

シャッタースピード、絞り値、プログラムシフト量、簡易露出補正、露出モード、露出補正量、オートブラケティングの補正ステップおよびフラッシュシンクロモードを操作するときの、メインコマンドダイヤル、サブコマンドダイヤルの回転方向を逆方向に変更できます。

項目選択してマルチセレクターの▶を押し、▲▼で設定を変更します。

ノーマル：
メインコマンドダイヤル、サブコマンドダイヤルは通常どおりの回転操作となります。

逆方向：
メインコマンドダイヤル、サブコマンドダイヤルとも逆回転操作となります。

次ページにつづく

メインとサブの入れ替え：

初期設定では、メインコマンドダイヤルでシャッタースピードを、サブコマンドダイヤルで絞りをセットしますが、“メインとサブの入れ替え”をONに設定すると、この機能を入れ換えることができます。

項目選択してマルチセレクターの▶を押し、▲▼で設定を変更します。

ON：
メインコマンドダイヤルで絞りを、サブコマンドダイヤルでシャッタースピードを設定します。

OFF：
メインコマンドダイヤルでシャッタースピード、サブコマンドダイヤルで絞りを設定します。

サブコマンドダイヤルでの絞り値設定：

初期設定では、CPU レンズを装着時に露出モードがA（絞り優先オート）、M（マニュアル）の場合は、サブコマンドダイヤルで絞りをセットしますが、レンズの絞りリングで絞りをセットするように変更できます。

項目選択してマルチセレクターの▶を押し、▲▼で設定を変更します。

する：
サブコマンドダイヤルで絞りをセットします（“メインとサブの入れ換え”を“ON”に設定した場合は、メインコマンドダイヤルでセットします）。

しない（絞りリングでの設定）：
レンズの絞りリングで絞りをセットします。絞りリングによる中間絞りの設定は可能ですが、絞りの表示は1段ステップになります。

メモ

- 絞りリングのないレンズ（Gタイプレンズ）装着時は、この設定にかかわらず、絞りのセットはサブコマンドダイヤルで行います。
- 非CPUレンズを装着時は、この設定にかかわらず、絞りのセットはレンズの絞りリングで行います。

再生/メニューモードでの使用：

再生時の表示画像の切り換えおよび画像の選択、またメニュー画面での項目の選択をメインコマンドダイヤル、サブコマンドダイヤルを操作しても行えるように変更できます。

項目選択してマルチセレクターの▶を押し、▲▼で設定を変更します。

ON：
再生モード、メニュー選択でも、コマンドダイヤルで操作できるようにします。

OFF：
再生モード、メニュー選択では、コマンドダイヤルで操作できないようにします。

“ON”に設定したときに、コマンドダイヤルで行える操作は以下の通りです。

• 再生時

1コマ再生時	
メインコマンドダイヤル	再生ズームへの切り換えや画像情報の表示ページの切り換えを行います。
サブコマンドダイヤル	撮影画像のコマ送りを行います。
マルチ再生時	
メインコマンドダイヤル	表示画面でカーソル（青色の枠）が上下に移動します。
サブコマンドダイヤル	表示画面でカーソル（青色の枠）が左右に移動します。

• メニュー画面表示時
メインコマンドダイヤルで選択項目を切り換え、サブコマンドダイヤルを時計方向に回してサブメニューに移動し、サブコマンドダイヤルを反時計方向に回して前の画面に戻ります。

ボタンによる設定方法

初期設定では、ボタンとメインコマンドダイヤル／サブコマンドダイヤルを組み合わせて設定を行う場合、ボタンを押し続けている間のみ設定可能状態になりますが、ボタンを押してから戻しても設定可能状態が維持され、同じボタンを押すか、シャッターボタンの半押しで設定可能状態が終了するように変更できます。対象となるのは以下のボタンです。

MODE	MODE（露出モード）ボタン
☒	☒露出補正ボタン
BKT	BKT（オートブラケティング）ボタン
⚡	⚡フラッシュシンクロモードボタン
ISO	ISO（感度）ボタン
QUAL	QUAL（クオリティー）ボタン
WB	WB（ホワイトバランス）ボタン

デフォルト：
　ボタンを押し続けている間のみ設定可能状態になり、メインコマンドダイヤル／サブコマンドダイヤルにより設定が行えます。

ホールド：
　ボタンを押すと設定可能状態がホールド（維持）され、メインコマンドダイヤル／サブコマンドダイヤルにより設定が行えます。再度ボタンを押すか、シャッターボタンを半押しすると、設定可能状態が解除されます。また、初期設定では約20秒経過すると設定可能状態が自動的に解除されます。オートパワーセーブがOFF設定では自動解除されません。

テストレリーズ

初期設定ではカメラにメモリーカードを入れていない場合でもレリーズできますが、レリーズできないように変更できます。

しない：
　カメラにメモリーカードを入れていない場合、レリーズはできません。

する：
　カメラにメモリーカードを入れていない場合でも、レリーズ可能となります。ただし、メモリーカードが入っていないときに撮影した画像は液晶モニターには表示されますが、保存はできませんのでご注意ください。

拡張

レンズ情報手動設定

詳しくは120ページをご参照ください。

MB-D200電池設定

ニコン製マルチパワーバッテリーパックMB-D200を装着し、電源に単3形電池（6本）を使用する場合の電池の種類を指定します。ただし、NP-150 を使用している場合は設定する必要がありません。

注意

MB-D200に付属の単3電池アダプタMS-D200を使って単3電池でFinePixS5Proを使用した場合、電池残量管理ができなくなり、撮影に失敗する可能性があります。このため単3電池での使用は動作保証外となります。
また、次の電池は使用できません。
- 単3形マンガン電池
- 単3形ニッカド電池
- 単3形リチウム電池

充電式バッテリー NP-150でのご使用をおすすめいたします。

MB-D200のAF-ONボタン

ニコン製マルチパワーバッテリーパックMB-D200の縦位置AF-ONボタンで行う機能を設定します。

保存画像の情報設定

保存する画像をアプリケーションソフトで利用する際に有効になる諸元（タグ情報など）を設定します。

マスキング：
別売のハイパーユーティリティー HS-V3で表示する際に、表示する画像の一部をマスクする事ができます。
印刷範囲を想定した適切なアスペクト比を選択して、想定範囲外をマスク表示します。プレゼンテーションで印刷範囲だけを表示したいときに有効です。

項目を選択してマルチセレクターの▶を押し、▲▼で設定を変更します。

OFF：　画像を切り抜きません。
8×10：8:10のアスペクト比で切り抜きます。六切サイズの比率と同じです。
5×7：　5:7のアスペクト比で切り抜きます。2L判サイズの比率と同じです。
1:1：　1:1のアスペクト比で切り抜きます。

カメラの設定を変える

次ページにつづく

DPI設定：

画像データを長さで定義する為に1インチ（inch）あたりのピクセル数を設定します。設定した情報はタグ情報に記録されます。36～3000dpiの範囲で設定可能です。

項目を選択してマルチセレクターの▶を押して、設定画面を表示します。
▲▼で設定を変更します。

メモ

- 短辺を8inch（20.3cm）で定義する場合は次の値を設定して下さい。
  L（4256×2848）：356dpi
  M（3024×2016）：252dpi
  S（2304×1536）：192dpi
- 短辺を5inch（12.7cm）で定義する場合は次の値を設定して下さい。
  L（4256×2848）：570dpi
  M（3024×2016）：403dpi
  S（2304×1536）：307dpi

メンテナンス

電池チェック

カメラに装着中の、充電式バッテリー NP-150 についての情報を表示します。

撮影回数：

バッテリーが充電されてから、そのバッテリーを使用してシャッターをきった回数を表示します。

残容量：

現在のバッテリーの残容量を１%単位で表示します。

劣化度：

バッテリーの劣化度合いを5 段階のバーグラフで表示します。

- バーグラフが「0」を示している場合は、バッテリーは劣化していません。
- バーグラフが「4」を示している場合は、バッテリーの寿命です。新しいバッテリーと交換してください。

メモ

- “撮影回数”に表示される回数は、シャッターをきった回数です。プリセットホワイトバランスのデータ取得など、実際に画像がメモリーカードに記録されない場合でも、シャッターをきるごとに1ずつ加算されます。
- 充電直後のバッテリーでも充電時や使用時の周囲温度の影響等により残容量100%にならない場合があります。

ファームウェアバージョン

カメラのファームウェアバージョンを表示します。

シャッター動作回数／交換回数

シャッターの動作回数とシャッターユニットの交換回数を表示します。“シャッター動作回数”は100回単位で繰り上がり表示されます。

クリーニングミラーアップ

CCDの汚れを調べたり、クリーニングするために、ミラーをアップした状態に固定します。詳しくは「CCDのクリーニングについて」（→217ページ）をご覧ください。

時間・言語／LANG.

日時設定

詳しくは38ページをご参照ください。

世界時計

旅行先で時差がある場合に、時差の設定ができます。撮影時間が設定した時間で記録されます。

❶ 時差設定を有効にする。

“ホーム”と“現地”を切り換えます。時差を設定するときは“現地”にします。

ホーム：お住まいの地域

現地：旅行先

カメラの設定を変える

❷時差設定に移る。

時差設定画面に移ります。

❸時差を設定する。

①変更する項目（+か−、時、分）を選びます。

②設定を変更します。

③設定が終了したら、“MENU/OK”ボタンを押して決定します。

チェック！

設定可能時間
–23:45～+23:45（15分単位）

メモ

世界時計を設定すると、撮影モードにしたとき画面に、“✈”と日付が3秒間表示されます。そのとき日付表示は黄色に変わります。

チェック！

旅行先から戻ったら、世界時計の設定を必ず“ホーム”に設定し直して、日時を再確認してください。

言語/LANG.

詳しくは38ページをご参照ください。

システム

フォーマット

メモリーカードをカメラ用に初期化（フォーマット）します。

① "実行" を選びます。

② "MENU/OK" ボタンを押すと、メモリーカードが初期化されます。

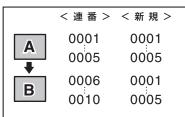
注意

- フォーマット時に、プロテクトされているものを含むすべてのコマ（ファイル）が消去されます。
  消去したくない重要なコマ（ファイル）は、パソコンなどにコピーしてください。
- フォーマット時は、バッテリーカバーやスロットカバーを開けないでください。フォーマットが中断されます。

USB設定

USBケーブル（mini-B）を使用してカメラとパソコンを接続する前に、USB通信方式を選択します。

MTP MTP（PTP）：
通常はこちらを選択します。PCへの画像の取り込みやピクトブリッジで使う場合はこちらを選択します。
PCから取り外す際に取り外し操作を行わずに安全に取り外せます。

PC SHOOT 自動：
USBケーブルでカメラをPCに接続すると、自動的にカメラ制御モードとなり、撮影した画像はPCのハードディスクに保存されます。PCに接続していない場合は通常のカメラとして機能し、撮影した画像はカメラのメモリーカードに記録されます。
* 撮影中にUSBケーブルが抜けてしまった場合、PCに未転送の画像は失われてしまいます。

PC SHOOT 固定：
USBケーブルでカメラをPCに接続すると、自動的にカメラ制御モードとなり、撮影した画像はPCのハードディスクに保存されます。いったんPCに接続すると、撮影中にUSBケーブルが抜けてしまった場合でも、撮影した画像はカメラの本体メモリに保持され、カメラの電源をOFFにしない限り、あとからハードディスクに転送することができます。ただし、その状態で撮影した画像は、カメラのメモリーカードには記録されません。

コマNO.設定

コマNO.の付けかたを設定します。

連番：最後に使用したメモリーカードの最終ファイルNO.から続けて記録します。

新規：メモリーカードごとにファイルNO.は0001から記録が開始されます。
メモリーカード内の画像を消去したときは、最後に記録されたファイルNO.から続けて記録します。全コマ消去してもファイルNO.は0001にはなりません。

チェック！

再生時、画面の右上の7ケタの数字のうち下4ケタがファイルNO.で上3ケタはフォルダNO.です。

メモ

- “連番”はパソコンなどに画像を取り込んだときにファイル名が重複しないので、ファイルの管理に便利です。
- “システム”の“セットアップリセット”（→183ページ）を実行した場合、コマNO.設定は“連番”になりますが、コマNO.自体は“0001”に戻りません。
- “連番”でメモリーカードを交換したとき、最後に記憶したファイルNO.よりも大きいファイルNO.の画像があった場合、大きいファイルNO.に続けられます。
- 他のカメラで撮影した画像は、コマNO.表示が異なる場合があります。
- 1フォルダのファイル数が1000ファイルを超えると、新フォルダが作成されます。

オートパワーセーブ

設定した時間（15秒／30秒／1分／2分／5分／10分）操作しないと自動的に待機状態になります。待機状態になると、表示パネルのシャッタースピード／絞り値表示とファインダー内表示が消灯します。バッテリーを長持ちさせたいときに使用します。

注意

スライドショー（→132ページ）、プリンターやパソコンとの接続（→185、204ページ）、ACパワーアダプター接続時はオートパワーセーブになりません。

メモ

待機状態から復帰するには、シャッターボタンを半押しするか、“▶”ボタンを押します。

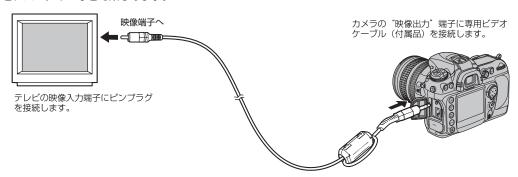
ビープ音量

セルフタイマー使用時やピントがあったときのビープ音を高音にしたり、鳴らないように変更できます。

LOW：
　低音のビープ音が鳴ります。
HIGH：
　高音のビープ音が鳴ります。
OFF：
　ビープ音は鳴りません。

メモ

“LOW”または“HIGH”に設定した場合、表示パネルに電子音マーク♪が表示されます。

ビデオ出力

ビデオ出力をNTSCにするかPALにするかを選択します。
日本国内で使用する場合はNTSCを選択してください。

セットアップリセット

プリセットカスタムWB設定、日時設定、言語/LANG、ビデオ出力以外のすべての設定を工場出荷設定にリセットします。

テレビに接続する

テレビに接続すると大画面で写真を見ることができます。「スライドショー（→132ページ）」を使用すると、パーティーなどで楽しめます。

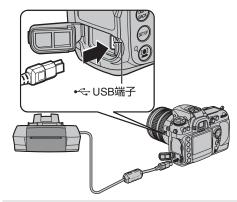
注意

- 専用ビデオケーブル、ACパワーアダプターは、接続端子に奥までしっかりと差し込んでください。
- ACパワーアダプターについてのご注意は、223ページをご参照ください。

メモ

- 専用ビデオケーブルをテレビに接続するとカメラの画面表示が消えます。
- 長時間、テレビに接続する場合はACパワーアダプター AC-135VN（別売）のご使用をおすすめします。

プリンターに接続してプリントする―PictBridge機能

PictBridge（ピクトブリッジ）対応のプリンターがあれば、パソコンを使わないでカメラとプリンターを直接つないでプリントできます。

プリンターに接続する前に

① セットアップメニューから“ システム”の“USB設定”で“MTP（PTP）”に設定する。
セットアップメニューの操作方法（→135ページ）
② 電源スイッチを“OFF”に合わせて電源を切ります。

プリンターに接続する

❶ 付属のUSBケーブル（mini-B）でカメラとプリンターを接続します。

メモ

プリンターに接続する場合はACパワーアダプター AC-135VN（別売）のご使用をおすすめします。

次ページにつづく

❷ 接続したら、プリンターの電源を入れ、そのあと電源スイッチを“ON”に合わせてカメラの電源を入れます。

電源を入れると接続確認の画面が表示されます。

❸ しばらくすると次の画面が表示されます。

コマを指定してプリントする
→186ページへ
プリント予約(DPOF)した画像をプリントする
→188ページへ

メモ

プリンターによっては使えない機能があります。

コマを指定してプリントする（日付ありプリント、日付なしプリント）

① プリントするコマ（ファイル）を選びます。

② プリント枚数を設定します。
最大99枚まで設定できます。

続けて設定するには①、②の操作を繰り返します。

③ “MENU/OK”ボタンを押して、確認画面を表示します。

④もう一度“MENU/OK”ボタンを押すとデータが転送され、指定された枚数がプリントされます。

メモ

合計（トータル）枚数が0枚のときに“MENU/OK”ボタンを押すと、表示画面を1枚プリントする確認画面が表示されます。もう一度、“MENU/OK”ボタンを押すと、プリントされます。

メモ　日付を入れてプリントする

①“DISP/BACK”ボタンを押して設定画面を表示します。
②“日付ありプリント”を選びます。
③“MENU/OK”ボタンを押して決定します。

注意

日付プリントに対応していないプリンターに接続した場合は、“日付ありプリント”が選べません。

プリント予約(DPOF)設定でプリントする(🖨予約プリント)

① “DISP/BACK”ボタンを押して、メニューを表示します。

② “🖨予約プリント”を選びます。

③ “MENU/OK”ボタンを押して、確認画面を表示します。

④ もう一度“MENU/OK”ボタンを押すとデータが転送され、プリント予約したコマが連続してプリントされます。

チェック！

“🖨予約プリント”をする場合は、あらかじめ126ページを参照してプリント予約をしてください。

注意

プリント予約（→126ページ）で“日付あり設定”にしても、日付プリントに対応していないプリンターの場合、日付が印字されません。

メモ

プリント中に“DISP/BACK”ボタンを押すとプリントを中止できます。プリンターによってはすぐにプリントを中止できない場合や、プリントの途中で停止する場合があります。
動作の途中で動かなくなった場合は、カメラの電源をいったん切って、もう一度入れ直してください。

プリンターと接続を切るには

① カメラの画面に“プリント中”と表示されていないことを確認します。
② カメラの電源を切り、USBケーブル（mini-B）を取り外します。

注意

- PictBridge機能は、カメラで撮影した画像以外ではプリントできない場合があります。
- 本機では用紙サイズ設定や印字品質などプリンターの設定はできません。
- カメラにACパワーアダプター AC-135VN（別売）を接続することをおすすめします。
- 本機でフォーマットしたメモリーカードをご使用ください。
- CCD-RAWはプリントできません。
- 本機以外で撮影した画像はプリントできない場合があります。
- セットアップメニューから“撮影”の“高速表示用データ付加”で“する”に設定していると正しくプリントできない場合があります。

パソコンと接続する

パソコンと接続することで、画像データを保存したり、専用ソフト“FinePixViewer”を使って閲覧や管理など様々なことができます。

パソコンと接続する前に

カメラをパソコンに初めて接続する際は、接続前に、必ず付属のCD-ROMを使ってすべてのソフトウェアをパソコンにインストールしてください。
インストール前にカメラをパソコンに接続すると、正常に接続できなくなる場合があります。

✔ チェック

■ CD-ROMのバージョンについて

CD-ROMのバージョンはCD-ROMの盤面に下記のように書かれています。
「○○ Version □.□ x」　例) CX Version 5.3g

○○ ：大文字アルファベット二文字
□.□：数字
x：小文字アルファベット

注意

- 本機はMTP/PTP対応カメラです。
  MTP/PTP対応カメラとはパソコンやプリンターを自動認識し、簡単に接続できるカメラです。
- ACパワーアダプター AC-135VN（別売）を使った接続をおすすめします。通信中に電源が切れるとメモリーカード内のファイルを破壊する可能性があります。
- 通信中はUSBケーブル（mini-B）を取り外さないでください。通信中に接続が切れると、メモリーカード内のファイルを破壊する可能性があります。
- Mac OS Xでは、初回接続時に自動起動の設定が必要です。
- USBケーブル（mini-B）は向きに気をつけて、接続端子に奥までしっかりと差し込んでください。
- カメラを取り外すとき、電源を切るときは必ず所定の手順で行ってください（→208ページ）。
- パソコンとの接続時はオートパワーセーブになりません。
- メモリーカードの交換は、必ず208ページの手順でカメラとパソコンの接続を切ったあとに行ってください。
- パソコンで“コピー中”の表示が消えても、カメラと通信中の場合があります。必ずカメラのアクセスランプが消灯していることを確認してください。
- 撮影メニューの“ クオリティー”(→91ページ)でRAWに設定して撮影した画像は、必ずFinePixViewerを使ってパソコンに転送してください。

FinePixViewerでできること

FinePixViewerは、デジタルカメラで記録した静止画/動画/音声ファイルをパソコンに保存し、整理、加工、印刷などを行うためのソフトウェアです。ここでは簡単にその機能をご紹介します。

■ カメラのデータをパソコンに保存する―カメラをパソコンに接続すると自動的にFinePixViewerが起動して、簡単な操作でパソコンにデータを保存できます。接続方法は204ページをご覧ください。

■ ファイル／フォルダを閲覧・整理する―静止画／動画／音声などの各ファイルおよびフォルダを、サムネイル表示でわかりやすく確認できます。ファイルは名前の変更、移動やコピーなどができます。フォルダは新規に作成したり名前の変更、移動やコピーなどができます。

■ 画像ファイルを加工する―画像の切り抜き、文字入れ、セピア／白黒画像への変換、自動画質調整、赤目修正、画像サイズの変更、回転など、画像処理機能を利用できます。

■ 動画を加工する（Windowsのみ）―不要な部分の削除、セピア／白黒画像への変換、自動画質調整、サイズの変換、縦横回転などが行えます。

■ 一括で処理を行う―画像の回転／画像のサイズ変更／ファイル名の変更／保存形式の変換といった処理を、複数のファイルに対して一括で行えます。

■ スライドショーを行う― BGMを付けて撮影日などを字幕のように表示しながらスライドショーを再生できます。

■ 画像を印刷する―プリントウィザードを使って印刷する画像を選択したり、レイアウトのプレビューを見ながら、画像の印刷が簡単に行えます。また動画から連続写真を作成し、印刷することができます。連続写真は複数の静止画像ファイルとして一括して保存することもできます。

■ Eメールに画像を添付する―メール送信に適した画像サイズに変換してEメールへ画像を添付できます。

■ 他にも充実した機能がいろいろ― FinePix CDアルバムの作成、動画編集などのほか、CCD-RAWファイルに対応したカメラのデータを現像したり、またインターネット接続環境では、ネットプリント注文を行ったり（Windowsのみ）、サポート情報の取得など、たいへん便利な画像ネットサービスPictureTheFutureを利用できます（一部有料）。

次ページにつづく

注意

インターネットを利用する際のご注意
インターネットに接続する際に発生する通話料金、プロバイダ接続料金などはお客様のご負担となります。

ネットワークサーバ上の画像ファイルのご利用について
FinePixViewerでネットワークサーバ上に画像ファイルを保存してご利用いただく場合、スタンドアローン（単独）のパソコンのようにご利用になれないことがあります。

Windowsにインストールする

この章では、Windowsパソコンでのインストール方法・設定を説明しています。

❶ インストール前にお確かめください

■ 動作環境

本ソフトウェアをお使いいただくには、以下の条件が揃っていることが必要です。
お使いのパソコン、ご使用環境が動作条件に合うか、インストールを始める前にお確かめください。

OS*[1]	Windows 98 SE 日本語版 Windows Millennium Edition（Windows Me）日本語版 Windows 2000 Professional 日本語版*[2]*[3] Windows XP Home Edition 日本語版*[2] Windows XP Professional 日本語版*[2]
CPU*[4]	Pentium 200MHz以上 （Windows XPの場合は、PentiumⅢ 800MHz以上）
メモリ	64MB以上（Windows XPの場合は128MB以上） （CCD-RAWファイル変換機能使用時 .... 768MB以上）
ハードディスク空き容量	インストールに必要な容量 .... 450MB以上 動作に必要な容量 .... 600MB以上 （ImageMixer VCD2 LE for FinePix使用時 .... 2GB以上） （CCD-RAWファイル変換機能使用時 .... 2GB以上） （OSの仮想メモリ・ページングファイルに設定必要）
ディスプレイ	800×600ドット以上、16ビットカラー以上 （ImageMixer VCD2 LE for FinePix使用時 .... 1024×768ドット以上）
インターネット接続*[5]	●画像ネットサービス、メール添付機能使用時 　インターネットに接続し、メールの送受信ができる環境 ●通信速度　56kbps以上推奨
外部接続端子	本体標準のUSBポート

*[1] 上記のOSがプリインストールされたモデル。
*[2] インストールするときには、コンピュータの管理者アカウント（例えば、“Administrator”）でログインしてください。
*[3] CCD-RAWファイル変換機能を使用する場合、Service Pack4が必要です。

次ページにつづく

*4 パソコンで動画を再生する場合はパソコンの性能によっては滑らかに再生されない場合があります。動画をパソコン上で再生する場合のご注意は「トラブルシューティング（Windows編）」（→210ページ）をご覧ください。
*5 画像ネットサービスの使用時に必要です。インターネット接続できない場合でも、ソフトウェアのインストールは可能です。

■ 推奨環境

OS	Windows XP
CPU	Pentium4 2GHz以上
メモリ	512MB以上
ハードディスク空き容量	2GB以上
ディスプレイ	1024×768ドット以上　フルカラー
インターネット接続	通信速度　ブロードバンド（ADSL、FTTH、CATVなど）

注意

- パソコンとカメラは、USBケーブル（mini-B）で直接、接続してください。延長ケーブルを接続したり、USBハブを経由すると、正常に動作しない場合があります。
- パソコンにUSBポートが2つ以上ある場合は、どのポートに接続してもかまいません。
- 増設USBインターフェースボードを使用した場合の動作保証はいたしません。
- Windows 95、Windows 98、Windows NTでは使用できません。
- 自作パソコンや、OSをアップデートしたパソコンは、動作保証外です。
- FinePixViewerを再インストールまたは削除すると、画像ネットサービスのユーザー ID・パスワード・インターネットメニューがパソコンから消去されます。「今すぐ登録」ボタンをクリックして、登録済みのユーザー ID・パスワードを入力して、メニューを再ダウンロードしてください。

❷ CD-ROMをパソコンにセットする

① パソコンの電源を入れて、Windowsを起動します。既に電源を入れて作業をしていた場合は、再起動してください。

> **注意**
>
> - ソフトウェアのインストールが完了するまで、カメラを接続しないでください。
> - Windows 2000 ProfessionalまたはWindows XPをお使いの場合は、コンピュータの管理者アカウント（例えば、“Administrator”）でログオンしてください。

② タスクバー上からアプリケーションの表示がなくなるまで、他のアプリケーションを終了させてください。

<タスクバー>

スタート　無題 - メモ帳

終了すべきアプリケーション(表示は実行されているアプリケーションによって異なります)

i. タスクバー上のアプリケーションの表示の上でマウスの右ボタンをクリックします。
ii. 開いたメニューの「閉じる」をクリックします。
詳しくは、パソコンの使用説明書、アプリケーションの使用説明書をご参照ください。

③ 同梱のCD-ROMをCD-ROMドライブにセットすると、インストーラーが自動的に起動します。

> **メモ　インストーラーを手動で起動するには**
>
> ①「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックして開きます。
> Windows XPをお使いの場合は、「スタート」メニュー→「マイコンピュータ」をクリックします。
> ②「マイコンピュータ」ウィンドウの「FINEPIX」のCD-ROMアイコン上で右クリックして「開く」を選択します。
> ③ CD-ROMの中の「SETUP」または「SETUP.exe」をダブルクリックします。

ソフトウェアを使う

次ページにつづく

❸ FinePixViewerをインストールする

① セットアップ画面が表示されます。
「FinePixViewerのインストール」をクリックしてください。

 メモ

インストール内容について詳しく知りたいときは、「はじめにお読みください」をクリックします。

② インストール前のチェックが開始されます。「注意」画面が表示された場合は、その指示に従ってください。

メモ

「新しいハードウェアの追加ウィザード」が表示された場合は、カメラが接続されています。「キャンセル」ボタンをクリックして、カメラを取り外してください。

③インストールの続行を確認する画面が表示されます。「OK」ボタンをクリックします。

④「ソフトウェア使用許諾契約」が表示されます。内容をよくお読みの上、
同意される場合　→「同意します」ボタン
同意しない場合　→「同意しません」ボタン
をクリックしてください。
「同意しません」ボタンをクリックすると、インストールされません。

⑤ソフトウェアのバージョンチェックが行われます。下の画面が表示された場合は、「OK」ボタンをクリックし、以前のバージョンのソフトウェアをアンインストールしてください。

⑥「国/地域の選択」画面が表示されます。お住まいの地域を選択して、「OK」ボタンをクリックしてください。

⑦USBドライバをインストールします。

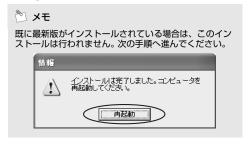
⑧FinePixViewerをインストールします。

i. 下の画面が表示される場合があります。設定を引き継ぐときは「はい」ボタンをクリックしてください。

次ページにつづく

ii. FinePixViewerのインストールが始まり、注意・警告画面が表示されます。確認したら、「次へ」ボタンをクリックしてください。
iii. インストール先のフォルダを確認して、「次へ」ボタンをクリックしてください。

⑨ 画面の指示に従って、ImageMixer VCD2 LE for FinePixをインストールします。

i. 「使用許諾契約」画面では、「はい」をクリックします。

ii. 「Readme」画面では、右上にある ✕ をクリックして閉じます。

⑩ 画面の指示に従って、Windows Media Playerをインストールし、再起動します。

i. この画面では、「プライバシについての説明を読み終わりました」にチェックマークを入れ、「次へ」ボタンをクリックします。

ii. 「完了」ボタンをクリックすると、パソコンが再起動します。

メモ

既に最新版がインストールされている場合は、このインストールは行われません。次の手順へ進んでください。

⑪ 画面の指示に従って、DirectXをインストールし、再起動します。

> **注意**
>
> 既に最新のバージョンがインストールされている場合、この画面は表示されません。

⑫ 再起動後、「FinePixViewerのインストールが完了しました」という画面が表示されます。

⑬「今すぐ起動」ボタンをクリックしてFinePixViewerを起動します。

⑭ インターネットに接続できる環境でお使いの方は「今すぐ登録」ボタンをクリックしてユーザー登録することをおすすめします。

> これでインストールはすべて終了しました。
>
> 続いて、204ページの「カメラとパソコンを接続する」に進んでください。
> CD-ROMは再インストール時に必要となりますので、パソコンから取り出したあと、湿気がなく、光が当たらないところに大切に保管してください。

次ページにつづく

Mac OS Xにインストールする

この章では、Mac OS Xでのインストール方法・設定を説明しています。

❶インストール前にお確かめください

■ 動作環境

本ソフトウェアをお使いいただくには、以下の条件が揃っていることが必要です。
お使いのパソコン、ご使用環境が動作条件に合うか、インストールを始める前にお確かめください。

対応機種*[1]	Power Mac G3*[2]、PowerBook G3*[2]、 Power Mac G4、iMac、iBook、 Power Mac G4 Cube、PowerBook G4、 Power Mac G5 MacBook、MacBook Pro、Mac mini
OS	Mac OS X*[3]（バージョン10.3.9～10.4.8対応　2007年1月現在*[4]）
メモリ	192MB以上 (CCD-RAWファイル変換機能使用時......768MB以上)
ハードディスク空き容量	インストールに必要な容量 ...... 200MB以上 動作に必要な容量 ...... 400MB以上 (ImageMixer VCD2 LE for FinePix使用時 ...... 2GB以上) (CCD-RAWファイル変換機能使用時......2GB以上 (システムディスク上に必要)
ディスプレイ	800×600ドット以上、約32,000色以上 (ImageMixer VCD2 LE for FinePix使用時 ...... 1024×768ドット以上)
インターネット接続*[5]	●画像ネットサービス、メール添付機能使用時 　インターネットに接続し、メールの送受信ができる環境 ●通信速度 　56kbps以上推奨

*[1] Power PC、Intel Processor搭載機
*[2] USBポートが標準装備されている機種
*[3] インストールするときには、コンピュータの管理者アカウントでログインしてください。
*[4] 対応OSについては下記のホームページをご覧ください。
http://fujifilm.jp/
*[5] 画像ネットサービスの使用時に必要です。インターネット接続できない場合でも、ソフトウェアのインストールは可能です。

注意

- Macintoshとカメラは、USBケーブル（mini-B）で直接、接続してください。延長ケーブルを接続したり、USBハブを経由すると、正常に動作しない場合があります。
- USBコネクターは奥まで差し込んで、確実に接続してください。正しく接続されていない場合は正常に動作しません。
- 増設USBインターフェースボードを使用した場合の動作保証はいたしません。

❷ FinePixViewerをインストールする

① Macintoshの電源を入れて、Mac OS Xを起動します。他のアプリケーションは起動しないでください。

② 同梱のCD-ROMをCD-ROMドライブにセットすると「FinePix」アイコンが表示されます。「FinePix」アイコンをダブルクリックすると、「FinePix」ボリュームが開きます。

③「Installer for MacOSX」をダブルクリックして起動します。

④ インストーラーのセットアップ画面が表示されます。「FinePixViewerのインストール」をクリックしてください。

メモ

インストール内容について詳しく知りたいときは、「はじめにお読みください」をクリックします。

⑤「認証」画面が表示されます。管理者のアカウントの名前とパスワードを入力し、「OK」ボタンをクリックします。

次ページにつづく

注意

管理者のアカウントはMac OS Xをインストールしたアカウント、もしくはシステム環境設定のアカウントを開いたとき、タイプが管理者となっているアカウントです。

⑥「ライセンス」画面が表示されます。
内容をよくお読みの上、同意される場合は「同意」ボタンをクリックしてください。
「同意しない」ボタンをクリックするとインストールはされません。

⑦「お読みください」画面が表示されます。
「続ける」ボタンをクリックします。

⑧「FinePixInstallOSX」画面が表示されます。
「インストール」ボタンをクリックすると、FinePixViewerがインストールされます。

⑨ImageMixer VCD2 LE for FinePixのインストーラが起動され、進行状況を示す画面が表示されます（数分かかる場合があります）。

⑩再起動後、「FinePixViewerのインストールが完了しました。」という画面が表示されます。

注意

WebブラウザにSafariをご使用の場合、CD-ROMを取り出す際に、「ディスク“FinePix”は使用中のため取り出せませんでした。」のメッセージが表示されることがあります。
その場合は、Dock内にあるSafariのアイコンをクリックして起動し、「Safari」−「Safariを終了」メニューを選択して終了させてください。

メモ

カメラを接続したとき、FinePixViewerを自動起動させるには

①「アプリケーション」フォルダから「イメージキャプチャ (Image Capture)」を起動します。

②「イメージキャプチャ」メニューより「環境設定」を選択します。

③「カメラを接続したときに起動する項目」から「その他」を選択します。

④「アプリケーション」フォルダの「FinePixViewer」フォルダから「FPVBridge」を選択し、「開く」ボタンをクリックします。

⑤イメージキャプチャを終了します。

これでインストールはすべて終了しました。

続いて、204ページの「カメラとパソコンを接続する」に進んでください。
CD-ROMは再インストール時に必要となりますので、パソコンから取り出したあと、湿気がなく、光が当たらないところに大切に保管してください。

カメラとパソコンを接続する

❶ 初回接続時に行ってください

実際にカメラをパソコンと接続し、正常に動作することを確認します。

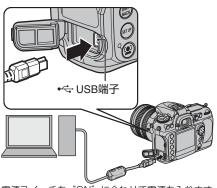
チェック！

Windowsパソコンをお使いの方は、WindowsのCD-ROMが必要となる場合がありますので、あらかじめご用意ください。パソコンにWindowsのCD-ROMが付属していない場合は、パソコンの使用説明書を見るか、パソコンのメーカーへお問い合わせください。

メモ

ACパワーアダプター AC-135VN（別売）のご使用を強くおすすめします。データ通信中に電源が切れると、正常なデータの転送ができません。使用可能なACパワーアダプターについては、http://fujifilm.jp/ をご参照ください。

① 画像撮影済みのメモリーカードをカメラにセットします(→35ページ)。

注意

- カメラ内のメモリーカードをパソコンでフォーマットしないでください。
  撮影できなくなることがあります。
- メモリーカードは弊社デジタルカメラで撮影したものをお使いください。
- カメラとパソコンを接続するとき、メモリーカード内に大量の静止画がある場合は、接続や転送に時間がかかったり、画像が保存できないことがあります。

② 電源スイッチを“ON”に合わせて電源を入れます。

③ セットアップメニューから“システム”の“USB設定”で“MTP（PTP)”に設定する。
セットアップメニューの操作方法（→135ページ）

④ 電源スイッチを“OFF”に合わせて電源を切ります。

⑤ USBケーブル（mini-B）で接続します。

⑥ 電源スイッチを“ON”に合わせて電源を入れます。

- パソコンとの通信が正常に行われると、表示パネルの絞り値表示部、ファインダー内の記録可能コマ数表示部分に「PC」という文字が表示されます。この状態では、付属ソフトウェアを使用してメモリーカード内にある撮影済み画像の転送が可能になります。

メモ

- Windowsパソコンをお使いの場合、インストールが完了していると、ドライバの設定が自動的に行われますので、そのままお待ちください。
  付属ソフトウェアの詳しい説明については、ソフトウェアの使用説明書をご覧ください。

注意

- USBコネクターは奥まで差し込んで、確実に接続してください。
  正しく接続されていない場合は正常に動作しません。
- カメラとパソコンを接続しているときは、以下の操作は行わないでください。
  メモリーカード内のデータが破壊されることがあります。
  USBケーブル（mini-B）を抜く／カメラ（電源スイッチ、操作ボタンなど）に触れる。

次ページにつづく

■ 以降の手順は、パソコンのOSによって違います。

Windows 98 SE/Me/2000

FinePixViewerが自動的に起動し、画像の保存ウィザード画面が表示されます。ここで画像を保存する場合は画面の指示に従って画像を保存します。保存しない場合は「キャンセル」ボタンをクリックします。

メモ

- FinePixViewerでは保存した画像だけしか見ることができません。必ずパソコンに画像を保存することをおすすめします。
- 「キャンセル」ボタンをクリックして保存を止めた場合は、必ず電源スイッチを“OFF”に合わせて電源を切ってからカメラを取り外してください。

208ページの「カメラの取り外しかた」へ進んでください。

Windows XP

①「新しいハードウェアが見つかりました」というヒントが、画面右下に表示されます。設定が終わると消えますので、そのままお待ちください。
次回以降の接続では、この手順は必要ありません。

②FinePixViewerが自動的に起動し、「画像の保存ウィザード」画面が表示されます。
ここで画像を保存する場合は画面の指示に従って画像を保存します。保存しない場合は「キャンセル」ボタンをクリックします。

メモ

- FinePixViewerでは保存した画像だけしか見ることができません。必ずパソコンに画像を保存することをおすすめします。
- 「キャンセル」ボタンをクリックして保存を止めた場合は、必ず電源スイッチを“OFF”に合わせて電源を切ってからカメラを取り外してください。
- FinePixViewerとともにインストールされるExif Launcherの機能により、カメラ接続時にFinePixViewerが自動起動します。

208ページの「カメラの取り外しかた」へ進んでください。

Mac OS X

FinePixViewerが自動的に起動し、画像の保存ダイアログが表示されます。
ここで画像を保存する場合は「OK」ボタンをクリックします。保存しない場合は「キャンセル」ボタンをクリックします。

メモ

- FinePixViewerでは保存した画像だけしか見ることができません。必ずパソコンに画像を保存することをおすすめします。
- 「キャンセル」ボタンをクリックして保存を止めた場合は、必ず電源スイッチを“OFF”に合わせて電源を切ってからカメラを取り外してください。

208ページの「カメラの取り外しかた」へ進んでください。

注意

FinePixViewerが自動起動しない場合は、ソフトウェアが正しくインストールされていません。カメラを取り外してからパソコンを再起動し、再インストールしたあと、203ページの「カメラを接続したとき、FinePixViewerを自動起動させるには」を参照して再設定してください。

次ページにつづく

❷ カメラの取り外しかた

Windows

① 画像の保存が終了すると、カメラ/メディアの取り外し画面が表示されます。
カメラを取り外す場合は、「取り外す」ボタンをクリックしてください。

② 「安全に取り外すことができます」と表示されたら、「OK」ボタンをクリックしてカメラを取り外してください。

③ カメラの電源を切ります。

Mac OS X

① 画像の保存が終了すると、カメラ/メディアの取り外し画面が表示されます。
カメラを取り外す場合は、「OK」ボタンをクリックしてください。

② 「OK」ボタンをクリックしてカメラを取り外してください。

③ カメラの電源を切ります。

注意

- 必ずカメラ内のファイルをすべて閉じて、「カメラとパソコンが通信中でないこと」を確認してください。
- パソコンの“コピーしています”という表示が消えてすぐ、カメラを取り外したり、USBケーブル（mini-B）を抜いたりしないでください。大きなサイズのデータをコピーした場合、パソコンの表示が消えても、カメラのアクセスがしばらく行われている場合があります。

ソフトウェアを削除する

インストールしたソフトウェアが不要になったときのみ行ってください。

Windows

① カメラが接続中でないことを確認します。

② すべてのアプリケーションを終了します。

③「マイコンピュータ」を開き、コントロールパネルの「アプリケーションの追加と削除」(Windows XPをお使いの場合は、「プログラムの追加と削除」)をダブルクリックします。

④「アプリケーションの追加と削除」のプロパティ(Windows XPをお使いの場合は、「プログラムの追加と削除」のプロパティ)が表示されますので、削除したいソフトウェア(FinePixViewerまたはドライバ)を選択して、「追加と削除」ボタンをクリックします。

⑤ 確認画面が表示されますので、「OK」ボタンをクリックします。実行すると取り消すことはできないので、慎重に行ってください。

⑥ 自動的にアンインストール作業が開始されます。アンインストール作業が終了したら、「OK」ボタンをクリックします。

Mac OS X

FinePixViewerを終了したあと、インストールしたFinePixViewerのフォルダを「ゴミ箱」に入れ、「Finder」メニューの「ゴミ箱を空にする…」を選択してください。

トラブルシューティング（Windows編）

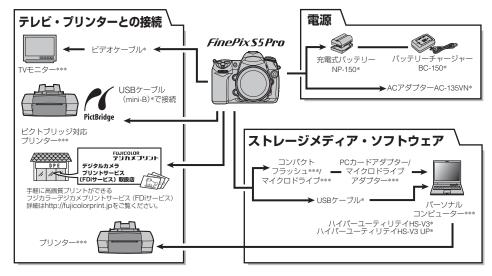
正常に動作せず、トラブルが発生したときにはまず、お使いのパソコンが動作環境にあてはまるか確認してください（➝193ページ）。動作環境にあてはまるにもかかわらず動作しない場合は、「トラブルシューティング」をご覧になり対処してください。「トラブルシューティング」をご覧になるには、下記の手順をご参照ください。

Windows

■「ヘルプ」メニューの「トラブルシューティング」を選択します。

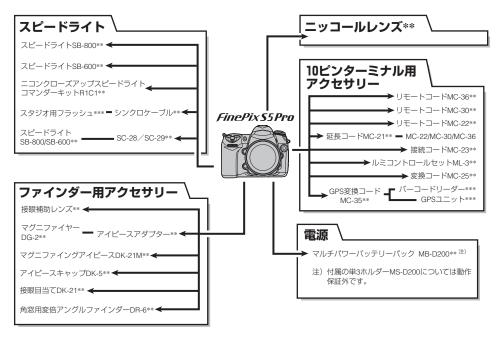
分類	症　状
接続・画像閲覧	自動起動の設定を変更したい。
	初回接続時に“WINDOWS”のラベルの付いたディスクを要求されました。
	カメラをパソコンに接続したとき、「新しいハードウェアの追加ウィザード」が表示されました。
	パソコンがカメラを認識しません（パソコンでカメラを利用できません）。
	FinePixViewerが自動起動するまで時間が掛かります。
	メディアのアクセスの際、パソコンがハングアップします。
その他	「画像ネットサービス」にログインできません。
	「画像ネットサービス」にユーザー登録できません。
	パソコンが正常終了しません。
	カメラが画像ファイルを再生できなくなりました。
	Windows Media PlayerでAVIファイルを再生できません。
	AVI形式の動画ファイルをパソコン上で再生する場合のご注意。

トラブルシューティング（Macintosh編）

正常に動作せず、トラブルが発生したときにはまず、お使いのパソコンが動作環境にあてはまるか確認してください（➞200ページ）。
動作環境にあてはまるにもかかわらず動作しない場合は、「トラブルシューティング」をご覧になり対処してください。
「トラブルシューティング」をご覧になるには、下記の手順をご参照ください。

Mac OS X

■「ヘルプ」メニューの「FinePixViewerの使い方」を選択します。

分類	症　状
接続・画像閲覧	USB接続したときに、Mac OSの「ディスクの初期化」が表示されました。
インターネット	「画像ネットサービス」にログインできません。
	「画像ネットサービス」にユーザー登録できません。
	インターネットメニューが正しく更新できません（ボタンがきれいに並びません）。
	ネットサービス注文サイトへの画像アップロード中に通信エラーが出ます。 注文する画像の確認画面で画像が正しく表示されません。
その他	カメラが画像ファイルを再生できなくなりました。
	FinePixViewerが自動的に起動するのを止めたいのですが。
	AVI形式の動画ファイルをパソコン上で再生する場合のご注意。

システムアップ機器　（平成19年1月現在）

別売のアクセサリー製品と組み合わせることにより、様々な用途向けにシステムアップすることができます。

*はFinePix S5 Pro付属品または当社製別売品です。　　***は他社製品です。

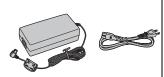
■ 使用可能なニコン製アクセサリー

**はニコン製品です。　　***は他社製品です。

別売アクセサリーの紹介　（平成19年1月現在）

使いかたについては、お使いになるアクセサリーの「使用説明書」をご覧ください。
※ 最新情報は富士フイルムホームページをご覧ください。
http://fujifilm.jp/
※ 価格はメーカー希望小売価格です。

● 充電式バッテリー NP-150（1500mAh）
リチウムイオンタイプの大容量充電式電池です。

※8,500円（税込み 8,925円）

● バッテリーチャージャー BC-150
充電式バッテリーを充電します。充電時間は約2時間15分です（NP-150充電時）。
（AC100V〜240V、50/60Hz対応）

※5,500円（税込み 5,775円）

● ACパワーアダプター AC-135VN
長時間の撮影、再生時、パソコンとの接続時にお使いください。
（AC100V〜240V、50/60Hz対応）

※12,000円（税込み 12,600円）

● ハイパーユーティリティー HS-V3

- デジタルカメラで撮影した画像をパソコン上で「閲覧(フェースズーム機能*[1]含む)」、「2 画面比較」、「マーカー機能による分類・整理」、「ヒストグラム/ハイライト警告表示による画像の解析」をすることができます。(*[1] FinePix S5 Pro撮影画像のみ)
- CCD-RAW ファイルを展開条件指定（トーンカーブ、ホワイトバランス、シャープネス、カラー、ダイナミックレンジ*[2])、出力画像サイズ指定し、汎用画像ファイル（16bit/8bit TIFF、Exif-JPEG）に変換できます。
(*[2] FinePix S5 Pro/S3 Pro/S20 Pro/F710/F700に対応）
- カメラとパソコンを接続してパソコンからカメラを制御したり、カメラで撮影した画像を自動的にパソコンへ転送することができます(PC接続撮影機能)。対応カメラ：FinePix S5 Pro/S3 Pro/S2 Pro/S20 Pro
- その他プリント機能、コンタクトシートファイル作成機能、スライドショー機能など撮影データの利用に必要な機能を用途に応じて使用できます。
- 詳細仕様および動作環境については、製品のパッケージでご確認ください。

※18,500円（税込み 19,425円）

● ハイパーユーティリティー HS-V3UP

本製品はアップグレード専用パッケージです。
インストールするためには、HS-V2またはHS-S2のCD-ROMが必要です。

※6,800円（税込み 7,140円）

使用上のご注意

ご使用の前に、必ず別冊の「安全上のご注意」をお読みの上、正しくご使用ください。

■ 避けて欲しい場所

次のような場所での本機の使用および保管は避けてください。

- 雨天下、湿気やゴミ、ほこりの多いところ
- 直射日光の当たるところや夏場の密閉した自動車内など、高温になるところ
- 極端に寒いところ
- 振動の激しいところ
- 油煙や湯気の当たるところ
- 強い磁場の発生するところ（放送塔、送電線、レーダー、モーター、トランス、磁石のそばなど）
- 防虫剤などの薬品やゴム、ビニール製品に長時間接触するところ

■ 冠水、浸水、砂かぶりにご注意

水や砂は本機の大敵です。海辺、水辺などでは、水や砂がかからないようにしてください。また、水でぬれた場所の上に、本機を置かないでください。水や砂が本機の内部に入りますと、故障の原因になるばかりか、修理できなくなることもあります。

■ 結露（つゆつき）にご注意

本機を寒いところから急に暖かいところに持ち込んだときなどに、本機内外部やレンズなどに水滴がつくこと（結露）があります。このようなときは電源を切り、水滴がなくなってからお使いください。また、メモリーカードに水滴がつくことがあります。このようなときはメモリーカードを取り出し、しばらくたってからお使いください。

■ 長時間お使いにならないときは

本機を長時間お使いにならないときは、バッテリーパック、メモリーカードを取り外して保管してください。

■ カメラのお手入れ

- レンズ、液晶モニター表面やファインダーなどの汚れはブロアーブラシなどでほこりを払い、乾いた柔らかい布などで軽くふいてください。それでも取れないときは、フジフイルムのレンズクリーニングペーパーにレンズクリーニングリキッドを少量つけて軽くふいてください。
- レンズ、液晶モニター表面やファインダーなどは傷つきやすいので、固いものでこすったりしないでください。
- カメラ本体は、乾いた柔らかい布などでふいてください。シンナー、ベンジンおよび殺虫剤など揮発性のものをかけないでください。変質、変形したり、塗料がはげるなどの原因になります。

■ 海外で使うとき

- このカメラは国内仕様です。付属している保証書は、国内に限られています。旅行先で万一、故障、不具合が生じた場合は、持ち帰ったあと国内の弊社サービスステーションにご相談ください。
- 海外旅行などでチェックインする旅行カバンにカメラを入れないでください。空港での荷扱いによっては、大きな衝撃を受けて、外観には変化がなくても内部の部品の故障の原因になることがあります。

CCDのクリーニングについて

本機には撮像素子としてCCDが搭載されています。このCCDはシャッター幕の奥にあります。
このCCDの表面にゴミなどが付着することがあり、そのまま撮影を行うと撮影条件や被写体によってはこのゴミが画像に写り込むことがあります。この場合、CCDのクリーニングが必要となります。CCDの表面はとても傷つきやすいので、クリーニングが必要なときはできるだけ弊社サービスステーションにお申し付けください（有償）。万一、クリーニング作業中にCCDに傷を付けたり、破損した場合、弊社サービスステーションでの（交換）修理は有償（高額）となりますので、十分ご注意ください。

CCDにゴミやほこりを付着させないために

- レンズ交換は、ゴミやほこりの少ない場所で行ってください。
- レンズを外したときは、必ず付属のボディキャップを装着してください。このときレンズやボディキャップにゴミやほこりが付着していないことを確認してください。

CCD表面の状態をチェックする

① セットアップメニューから“メンテナンス”の“クリーニングミラーアップ”を選びます。
セットアップメニューの操作方法（→135ページ）

② “実行”を選びます。

③ “MENU/OK”ボタンを押して決定します。
クリーニングミラーアップ待機状態になります。表示パネルに“－－－－ －－”が表示されます。

- - - - - -

取扱上の注意など

④ シャッターボタンを下まで押し込みます。ミラーがアップし、表示パネルの“ーー ーー ーー”が点滅します。

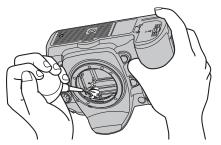
⑤ CCDに光が当たるようにカメラを持って、表面をチェックします。

⑥ **ゴミが付着していない場合**は、カメラの電源スイッチを“OFF”に合わせて電源を切ります。

ゴミが付着している場合は、弊社サービスステーションにCCDクリーニングを依頼するか、ご自分でクリーニングする手順（→219ページ）に進んでください。

注意

- バッテリー残量表示が 以下の場合や多重露出による撮影中はこのメニュー項目は操作できません。
- 作業中のバッテリー切れを防ぐために、フル充電したバッテリー、または別売のACアダプター 135VNをご使用ください。
- ミラーアップ中にバッテリーの残量が少なくなった場合、電子音が鳴り、AF補助光が点滅してお知らせします。約2分経過するとシャッター幕が閉じてミラーがダウンしますので、ただちに作業を終了してください。

メモ

クリーニングミラーアップの待機状態をキャンセルするには、カメラの電源スイッチを“OFF”にしてください。

CCDクリーニングを開始する

クリーニング作業中にCCDに傷を付けたり、破損した場合、弊社サービスステーションでの（交換）修理は有償（高額）となりますので、十分ご注意ください。

①CCDの表面にあるゴミをブロアー（ブラシの付いていないもの）で取り除きます。

> **注意**
>
> ブロアーはブラシの付いていないものを使用してください。ブロアーのブラシでCCDのゴミを取り除くと、表面にキズをつけることがあります。

②CCD表面のゴミが取り除けたか確認します。

- ゴミを取り除くことができた（油脂や指紋などの汚れもない）
  ➡電源を切り、カメラにレンズまたはボディキャップを装着します。
- 油脂や指紋などのブロアーでは取り除けない汚れが残っている
  ➡手順③へ

> **注意**
>
> 電源を切ると同時にミラーダウンします。シャッター幕が閉じますので、指などが挟まれないように注意してください。

クリーニング用具をご用意ください

- クリーニングスティック
  センサースワブ（フォトグラフィックソリューション製
  ＊日本販売代理店：銀一株式会社　海外商品課
  TEL：03-5550-5036
  http://www.ginichi.com/）
- クリーナー液
  無水エタノールまたは、エクリプス（フォトグラフィックソリューション製）
  ＊エクリプスは劇薬扱いのため購入には、身分証明書の提示と押印が必要となります。

次ページにつづく

③ センサースワブの下辺から5mm程度の範囲にまんべんなくクリーナーをしみ込ませます。

クリーナー液をしみ込ませない状態での乾拭きは行わないでください。

④ センサースワブの片面で、1回だけ、CCDの左端から右端へゆっくりと拭きます。

⑤ センサースワブの反対側の面で、1回だけCCDの左端から右端へゆっくりともう一度拭きます。使用済みのセンサースワブは、再使用しないでください。

注意

汚れが落ちない場合には、必ず新しいセンサースワブを使って、③～⑤の手順を行うか、弊社サービスステーションにお問い合わせください。

⑥ 電源を切り、カメラにレンズまたはボディキャップを装着します。

注意

- 電源を切ると同時にミラーダウンします。シャッター幕が閉じますので、指などが挟まれないように注意してください。
- CCDのクリーニングは必ずこの操作手順で行い、絶対にバルブ撮影モードでクリーニングを行わないでください。
  バルブ撮影モードはCCDに通電されており、故障の原因になります。

電源についてのご注意

バッテリー NP-150についてのご注意

本機は、充電式リチウムイオンバッテリー NP-150を使用しています。ご使用に際しては、以下の点にご注意ください。特に別冊の「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくご使用ください。

＊NP-150は出荷時にはフル充電されていません。お使いになる前に必ず充電してください。

- NP-150を持ち運ぶときは、カメラに取り付けるか、付属のバッテリーのキャップを装着してください。

■ バッテリーの特性

- NP-150は使わなくても、少しずつ放電しています。撮影の直前（1～2日前）に充電したNP-150を用意してください。
- NP-150を長く持たせるには、できるだけこまめに電源を切ることをおすすめします。
- 寒冷地や低温時では撮影できる枚数が少なくなります。充電済みの予備NP-150をご用意ください。また、使用時間を長くするために、NP-150をポケットなどに入れて温かくしておき、撮影の直前にカメラに取り付けてください。カイロをお使いになる場合は、直接NP-150に触れないようにご注意ください。低温時に消耗したNP-150を使用すると、カメラが作動しない場合があります。

■ 充電について

- 付属のバッテリーチャージャー BC-150を使用して充電ができます。
  - 充電は周囲の温度が0℃～＋40℃の範囲で可能です。使い切ったNP-150の＋23℃での充電時間は約2時間15分です。
  - 充電は＋10℃～＋35℃の温度範囲で行ってください。＋10℃～＋35℃の温度範囲外で充電する場合、NP-150の性能を劣化させないために充電時間が長くなることがあります。
- NP-150は充電の前に放電したり、使い切ったりする必要はありません。
- 充電が終わったあとや使用直後に、NP-150が熱を持つことがありますが、異常ではありません。
- 充電が完了したNP-150を再充電しないでください。

■ バッテリーの寿命について

常温で使用した場合、約300回繰り返して使えます。使用できる時間が著しく短くなったときは、NP-150の寿命です。新しいNP-150をお買い求めください。

保存上のご注意

充電式リチウムイオンバッテリー NP-150は小形で高容量のバッテリーですが、充電された状態で長期間保存すると特性が劣化することがあります。
- しばらく使わない場合は、使い切った状態で保存してください。
- 使用しないときは必ずバッテリーをカメラや、バッテリーチャージャーから取り外してください。
- 涼しいところで保存してください。
  - 周囲の温度が＋15℃～＋25℃くらいの乾燥したところをおすすめします。
  - 暑いところや極端に寒いところは避けてください。

危険ですので、次のことにご注意ください

バッテリーの金属部分に、他の金属が触れないようにしてください。

火気に近づけたり、火の中に投げ込んだりしないでください。

分解したり、改造したりしないでください。

壊れたり、寿命が短くなったりしますので、次のことにご注意ください
- 強い衝撃を与えたり、落としたりしないでください。
- 水にぬらさないようご注意ください。
  バッテリーの特性に合わせて上手にお使いいただくために、次のことにご注意ください
- 端子は常にきれいにしておいてください。
- 温度が上がらない、乾燥した場所に保管してください。長期間高温の場所に置いておくと寿命が短くなります。
- 外装ラベルを破ったり、はがしたりしないでください。

長時間、バッテリーで使用していると、カメラ本体やバッテリーが熱を帯びますが、故障ではありません。長時間の撮影、再生にはACパワーアダプターをお使いください。

■ 小形充電式電池のリサイクルについて

小形充電式電池（リチウムイオンバッテリーなど）はリサイクル可能な貴重な資源です。ご使用済みの電池は、端子を絶縁するためにセロハンテープなどをはるか、個別にポリ袋に入れて最寄りのリサイクル協力店にある充電式電池回収BOXに入れてください。

詳細は、「有限責任中間法人JBRC」のホームページをご参照ください。
[ホームページ]
http://www.jbrc.net/hp/

付属のNP-150の主な仕様

公称電圧	7.2V
公称容量	1500mAh
使用温度	0℃～＋40℃
本体外形寸法	39.5mm×55.8mm×20.9mm（幅×高さ×厚み）
質量	約80g

ACパワーアダプターについてのご注意

必ず専用のACパワーアダプターAC-135VN（別売、JEITA規格、極性統一形プラグ付き）をお使いください。
弊社専用品以外のACパワーアダプターをお使いになるとカメラが故障する原因となることがあります。

- 室内専用です。
- カメラのDC入力端子へ、接続コードのプラグをしっかり差し込んでください。
- カメラのDC入力端子から接続コードを抜くときは、カメラの電源を切って、プラグを持って抜いてください（コードを引っ張らないでください）。
- ACパワーアダプターは、指定の機器以外には使用しないでください。
- 使用中、ACパワーアダプターが熱くなるときがありますが故障ではありません。
- 分解したりしないでください。危険です。
- 高温多湿のところでは使用しないでください。
- 落としたり、強いショックを与えないでください。
- 内部で発信音がすることがありますが、異常ではありません。
- ラジオの近くで使用すると、雑音が入る場合がありますので、離してお使いください。

 メモ

使用可能なACパワーアダプターについては、http://fujifilm.jp/ をご参照ください。

メモリーカードについてのご注意

■ ファイル保持について

以下の場合、記録したファイルが消滅（破壊）することがあります。記録したファイルの消滅（破壊）については、弊社は一切その責任を負いませんのであらかじめご了承ください。

＊ お客様または第三者がメモリーカードの使いかたを誤ったとき
＊ カメラやパソコンなどからメモリーカードへアクセス中（データ通信中など）にカードを取り出したり、機器の電源を切ったとき
＊ その他、誤った使いかたをしたとき

注意

・大切なファイルは別のメディア（MO ディスク、CD-R、CD-RW、ハードディスクなど）にコピーして、バックアップ保存されることをおすすめします。

■ メモリーカードに共通の取扱上のご注意

・メモリーカードをカメラに入れるときは、まっすぐに挿入してください。
・メモリーカードの記録中、消去（フォーマット）中は、絶対にメモリーカードを取り出したり、機器の電源を切ったりしないでください。メモリーカードが破壊されることがあります。
・メモリーカードは精密電子機器です。曲げたり、強い力やショックを加えたり、落としたりしないでください。
・強い静電気、電気的ノイズの発生しやすい環境でのご使用、保管は避けてください。
・高温多湿の場所、または腐食性のある環境下でのご使用、保管は避けてください。

■ メモリーカードをパソコンで使用する場合のご注意

・パソコンで使用したあとのメモリーカードを使って撮影する場合、メモリーカードのフォーマットはカメラで行ってください。
・メモリーカードをカメラでフォーマットして撮影、記録すると、自動的にフォルダが作成されます。画像ファイルは、このフォルダ内に記録されます。
・パソコンでメモリーカードのフォルダ名、ファイル名の変更、消去などの操作を行わないでください。メモリーカードがカメラで使用できなくなることがあります。
・メモリーカード上の画像ファイルの消去はカメラで行ってください。
・画像ファイルを編集する場合は、画像ファイルをハードディスクなどにコピーし、コピーした画像ファイルを編集してください。

■ コンパクトフラッシュの取扱上のご注意

コンパクトフラッシュの機能、動作の詳細、動作環境などについては、コンパクトフラッシュメーカーにご確認ください。
FinePix S5 Proの動作確認済みのメモリーカードについては35ページをご覧ください。またはサポートセンター（→裏表紙）にお問い合わせください。

・カメラの使用直後はコンパクトフラッシュが熱くなっていることがありますので、取り扱いには十分注意してください。
・端子部に手や金属を触れないでください。
・未使用のコンパクトフラッシュは、フォーマットしてから使用してください。

警告表示

表示パネル、ファインダーに表示される警告表示

表示パネル	ファインダー	警告内容	処置
FEE（点滅）	FEE（点滅）	レンズの絞りリングが最小絞りになっていない。	レンズの絞りリングを最小絞りにしてください。
（バッテリー残量表示）	（バッテリー残量表示）	バッテリー残量が残りわずかしかない。	バッテリー交換の準備をしてください。
（バッテリー残量表示）（点滅）	（バッテリー残量表示）（点滅）	• バッテリーが消耗している。 • バッテリーとの情報通信ができない。	• バッテリーを交換してください。 • このバッテリーは使用できません。
ΔF	ΔF	開放絞りからの絞り段数が表示されている。非CPUレンズが装着されているか、またはレンズが装着されていない状態で、レンズの開放絞り値が設定されていない。	レンズの開放絞り値を設定すると、レンズの絞り値が表示されます。
—	●（点滅）	オートフォーカスでピント合わせができない。	マニュアル（手動）でピント合わせを行ってください。
HI	HI	被写体が明るすぎてカメラの制御範囲を超えている。	• ISO100よりも高感度の場合、ISO感度を低感度に設定してください。 • Pモード時はND（光量調節用フィルター）を使用してください（S、Aモード時に下記の操作を行っても警告表示が消えない場合も同様に対応してください）。 • Sモード時はシャッタースピードをより高速側にセットしてください。 • Aモード時はより大きい数値の絞りにしてください。

次ページにつづく

表示パネル	ファインダー	警告内容	処置
Lo	Lo	被写体が暗すぎて、カメラの制御範囲を超えている。	• ISO1600未満であれば、ISO感度を高感度に設定し直してください。 • Pモード時はフラッシュを使用してください（S、Aモード時に下記の操作を行っても警告表示が消えない場合も同様に対応してください）。 • Sモード時はシャッタースピードをより低速側にセットしてください。 • Aモード時はより小さい数値の絞りにしてください。
bulb （点滅）	bulb （点滅）	Sモード時にシャッタースピードがbulbにセットされている。	bulb以外のシャッタースピードにセットするか、Mモードにセットしてください。
（点滅）	（点滅）	i-TTL調光に対応していないニコン製スピードライトをTTLモードにセットしている。	TTLモード以外のモードにセットしてください。
FuLL 0 （点滅）	FuL （点滅）	• 画像を記録する空き容量がない。 • カメラが扱えるファイル数をオーバーしている。	• カードに記録されている画像を削除して、カードに画像ファイルが保存可能な状態にしてください。必要な画像はパソコンなどに転送してバックアップしてください。 • 新しいカードに交換してください。
[-E-]	（点滅） [-E-]	メモリーカードが入っていないか、正しくセットされていない。	メモリーカードを正しくセットしてください。
Err （点滅）	Err （点滅）	撮影中に何らかの異常を検出しました。	再度シャッターボタンを押してください。この操作で警告表示が解除されなかったり、頻繁に警告が表示される場合は、弊社サービスステーションに修理をご依頼ください。

液晶モニターに表示される警告表示

警告表示	警告内容	処　置
カードがありません	メモリーカードが入っていない。	メモリーカードをセットしてください。
フォーマットされていません	• メモリーカードがフォーマット（初期化）されていない。 • カメラが故障している。	• メモリーカードをカメラでフォーマットしてください（→37、181ページ）。 • 弊社サービスステーションに修理をご依頼ください。
カードエラー	• メモリーカードのフォーマットが異常。 • メモリーカードへのアクセス異常です。	• フォーマットが必要な場合があります（→37、181ページ）。それでも警告表示が消えない場合はメモリーカードを交換してください。 • 弊社サービスステーションにご連絡ください。
空き容量がありません	メモリーカードに空き容量がなく、これ以上記録、またはコピーできない。	画像を消去する（→49、125ページ）か、空き容量のあるメモリーカードを使用してください。
記録できませんでした	• メモリーカードと本体の接触異常またはメモリーカードの異常のため記録できない。 • 撮影した画像がメモリーカードの空き容量を超えて記録できない。 • メモリーカードがフォーマット（初期化）されていない。	• メモリーカードを入れ直すか電源のON/OFFを繰り返してください。それでも復帰できないときは、弊社サービスステーションに修理をご依頼ください。 • 新しいメモリーカードを使用してください。 • メモリーカードをカメラでフォーマットしてください（→37、181ページ）。
コマNO.の上限です	コマNO.が999-9999に達している。	① フォーマットしたメモリーカードをカメラにセットします。 ② セットアップメニューで“⚙システム”の“コマNO.設定”を「新規」にします（→182ページ）。 ③ 撮影します（コマNO.が「100-0001」より開始されます）。 ④ セットアップメニュー“⚙システム”の“コマNO.設定”を「連番」にします。

次ページにつづく

警告表示（つづき）

警告表示	警告内容	処　置
再生できません	• 正常に記録されていないファイルを再生しようとした。 • カメラが故障している。 • 本機以外で記録した静止画を再生しようとした。	• 再生することはできません。 • 弊社サービスステーションに修理をご依頼ください。 • 再生することはできません。
プロテクトされています	• プロテクトされているファイルを消去しようとした。	• プロテクトしたファイルは消去できません。プロテクトを解除してください（→130ページ）。
画像がありません	メモリーカードに画像がないときに、メモリーカードの画像を再生しようとした。	再生する画像がないため、画像を再生することはできません。
S トリミングできません RAW トリミングできません	2304×1536ピクセルの画像、RAW設定で撮影した画像をトリミングしようとした。	トリミングはできません。
トリミングできません	• 本機以外で撮影した画像をトリミングしようとした。 • 画像が壊れている。	トリミングはできません。
これ以上予約 できません	DPOFのコマ設定で1000コマ以上のプリント指定をした。	同一メモリーカード内でプリント指定できるコマ数は999コマまでです。別のメモリーカードにプリント予約したい画像をコピーして、プリント予約してください。
設定できません RAW設定できません	プリント予約できない画像にプリント予約しようとした。	画像の形式上プリント予約できません。
接続できませんでした	パソコンまたはプリンターとの通信ができなかった。	• USBケーブル（mini-B）の接続を確認してください。 • プリンターの電源が入っているか確認してください。
プリンターエラー	PictBridgeに関する表示。	• プリンターの用紙切れやインク切れがないか確認してください。 • プリンターの電源をいったん切ってから、再び入れてください。 • お使いのプリンターの使用説明書をお読みください。

警告表示	警告内容	処　置
プリンターエラー 再開しますか？	PictBridgeに関する表示。	プリンターの用紙切れやインク切れがないか確認してください。プリンターエラーを解消すると自動的にプリントが再開されます。確認後もエラーメッセージが消えない場合は“MENU/OK”ボタンを押して、プリントを再開してください。
プリントできません	PictBridgeに関する表示。	• お使いのプリンターの使用説明書をご覧になり、プリンターがJFIF-JPEG、Exif-JPEG形式の画像フォーマットに対応しているかご確認ください。対応していない場合はプリントできません。 • 本機で撮影したデータですか？ 本機で撮影したデータ以外はプリントできないことがあります。
プリントできない コマです	PictBridgeに関する表示。	• RAW画像はプリントできません。 • 本機で撮影したデータですか？ 本機で撮影したデータ以外はプリントできないことがあります。
現在の設定では 使用できません	• **ISO-AUTO**に設定しているときに多重露出を設定しようとした。 • オートブラケティング設定をしているときに多重露出を設定しようとした。 • オートブラケティングを設定しているときにライブ画像表示にしようとした。	• セットアップメニューから“露出”の“感度自動制御”の“感度自動制御設定”を“OFF”にしてください（→154ページ）。 • オートブラケティングを解除してから、多重露出を設定してください（→102ページ）。 • オートブラケティングを解除してから、ライブ画像表示にしてください（→102ページ）。
エラー	セットアップメニューの“撮影”の“バーコードリーダー /GPS入力”の設定が“BCR 1SHOT”または“BCR CONTINUOUS”になっているときに、GPS機器を接続しようとした。	いったん電源をOFFにして、セットアップメニューの“撮影”の“バーコードリーダー / GPS入力”を“GPS”に設定してから接続してください。

困ったときは

故障とお考えになる前に、もう一度お調べください。処置を行っても改善されない場合は弊社サービスステーションに修理をご依頼ください。

■ 準備中

どこがおかしい	症状・状況（相談内容）	ココをチェック	こうしてみてください	参照ページ
バッテリー、電源について	電源スイッチを“ON”に合わせても電源が入りません。	バッテリーが消耗していませんか？	充電するか充電済みのバッテリーと交換してください。	31、33、221
		バッテリーを正しい向きで入れていますか？	バッテリーを正しい方向で入れ直してください。	33
		バッテリーカバーはきちんと閉まっていますか？	バッテリーカバーをしっかり閉めてください。	33
		ACパワーアダプターは正しく接続されていますか？	ACパワーアダプターの接続部分をよく確認して、正しく接続してください。	223
	バッテリーの減りが早いです。	非常に寒いところでカメラを使っていませんか？	バッテリーをポケットなどで温めておいて、撮影の直前に取り付けてください。	31、34、221
		バッテリーの端子が汚れていませんか？	バッテリーの端子部分を乾いたきれいな布でふいてください。	31、221
		同じバッテリーを長期間使っていませんか？	バッテリーの寿命の可能性があります。新品のバッテリーと交換してください。	33、34、221
	使用中に電源が切れてしまいました。	バッテリー残量が少なくなっていませんか？	充電するか充電済みのバッテリーと交換してください。	31、33、221
		ACパワーアダプターの接続が切れていませんか？	ACパワーアダプターをつなぎ直してください。	223
		使用できないバッテリーを入れていませんか？	本機専用のバッテリーをいれてください。	31、33

■ メニューなどの設定時

どこがおかしい	症状・状況（相談内容）	ココをチェック	こうしてみてください	参照ページ
液晶モニター表示について	メニューが英語で表示されています。	セットアップメニューの“時間・言語/LANG.”の“言語/LANG.”が“ENGLISH”になっていませんか？	設定を“日本語”にしてください。	38

■ 撮影時

どこがおかしい	症状・状況（相談内容）	✔ ココをチェック	こうしてみてください	参照ページ
基本撮影について	シャッターボタンを押しても撮影できません。	撮影可能枚数が0になっていませんか？	新しいメモリーカードを入れるか、不要なコマを消去してください。	35、49、125
		メモリーカードはフォーマットされていますか？	カメラでフォーマットしてください。	37、142、181
		AF-Sでピントが合っていない（“●ピント表示”なし）。	AFロックでピントを合わせ“●ピント表示”を確認してから撮影してください。	50、57
		メモリーカードが入っていない。	メモリーカードを入れてください。	35
		ピントを合わせられない。	フォーカスモードを“M”マニュアルにしてピントを合わせて撮影してください。	56
		エラーが発生している。	225～229ページの警告表示を参照して処置してください。	225～229
		バッテリー残量が少なくなっていませんか？	充電するか充電済みのバッテリーと交換してください。	31、33、221
		メモリーカードが壊れている可能性があります。	新しいメモリーカードを入れてください。	35
		電源が切れていませんか？	電源を入れ直してください。	38
ピントについて	ピントが合いにくいです。	オートフォーカスの苦手な被写体（→59ページ）を撮影しようとしていませんか？	フォーカスロックをしてください。	57

次ページにつづく

■ 撮影時

どこがおかしい	症状・状況（相談内容）	ココをチェック	こうしてみてください	参照ページ
フラッシュについて	フラッシュが発光しません。	フラッシュ充電中に撮影しませんでしたか？	フラッシュの充電が完了してからシャッターボタンを押してください。	76
		フラッシュ発光禁止になっている（フラッシュが閉じている）。	フラッシュをポップアップしてください。	76
		バッテリー残量が少なくなっていませんか？	充電するか充電済みのバッテリーと交換してください。	31、33、221
	フラッシュが発光したのに撮影した画像が暗いです。	被写体から離れすぎていませんか？	フラッシュ撮影可能距離内で撮影してください。	78
		フラッシュを指などでふさいでいませんか？	カメラを正しく構えてください。	44
撮影した画像の異常について	画像がぼやけています。	レンズに汚れなどついていませんか？	レンズを清掃してください。	216
		絞りすぎている。	絞りを少し開いて撮影してください。	70
		撮影時にフォーカスモードを“M”（マニュアルフォーカス）に設定していませんでしたか？	フォーカスモードを“S”（AF-S)か“C”（AF-C)に設定するか、しっかりとピントを合わせてから撮影してください。	50、56
		撮影時にシャッタースピードが遅くなっていませんでしたか？	手ブレの可能性があります。しっかりとカメラを固定してください。	–
画像の記録について	撮影した画像が記録されません。	カメラの電源が入っているときにACパワーアダプターの接続および取り外しをしませんでしたか？	ACパワーアダプターの接続および取り外しはカメラの電源が切れているときに行ってください。メモリーカードの破損、パソコン接続時誤作動の原因になります。	223

■ 再生時

どこがおかしい	症状・状況（相談内容）	✔ ココをチェック	こうしてみてください	参照ページ
消去について	1コマ消去でコマが消せません。	プロテクトされていませんか？	プロテクトを解除してください。	130
	全コマ消去したのに画像が残っています。			
コマNO.について	コマNO.の「連番」が機能しません。	バッテリーやメモリーカードを交換するときに電源を切らずにバッテリーカバーを開けませんでしたか？	バッテリーやメモリーカードを交換するときは、必ず電源を切ってください。電源を切らずにバッテリーカバーを開けると、コマNO.の連番が機能しないことがあります。	38

■ 接続時

どこがおかしい	症状・状況（相談内容）	✔ ココをチェック	こうしてみてください	参照ページ
テレビとの接続について	テレビに画像が表示されません。	カメラとテレビが正しく接続できていますか？	確認して正しく接続し直してください。	184
		テレビの入力が「テレビ」になっていませんか？	テレビの入力を「ビデオ」にしてください。	–
		セットアップメニューの“⚙システム”の“ビデオ出力”が“PAL”になっていませんか？	日本国内で使用する場合は“NTSC”にしてください。	135、142
	テレビの画像が黒白になってしまいました。	セットアップメニューの“⚙システム”の“ビデオ出力”が“PAL”になっていませんか？	日本国内で使用する場合は“NTSC”にしてください。	135、142
パソコンとの接続について	パソコンがカメラを認識しません。	USBケーブル（mini-B）が正しく接続されていますか？	確認して正しく接続し直してください。	204
プリンターとの接続について	接続したのにプリントできません。	USBケーブル（mini-B）が正しく接続されていますか？	確認して正しく接続し直してください。	185
		プリンターの電源は入っていますか？	プリンターの電源を入れてください。	–

次ページにつづく

■ その他

どこがおかしい	症状・状況（相談内容）	ココをチェック	こうしてみてください	参照ページ
カメラの動作などについて	カメラのボタンなどを操作しても動きません。	一時的に誤作動を起こしている可能性があります。	バッテリー、ACパワーアダプターをいったん取り外して、再び取り付け直してから操作してください。	33、223
		バッテリーの消耗が原因として考えられます。	充電するか充電済みのバッテリーと交換してください。	31、33、221
		ファンクションロックされていませんか？	ファンクションロックを解除してください。	170
	カメラが正常に作動しなくなってしまいました。	一時的に誤作動を起こしている可能性があります。	バッテリー、ACパワーアダプターをいったん取り外して、再び取り付け直してから操作してください。それでも復帰できないときは、弊社サービスステーションに修理をご依頼ください。	33、223

主な仕様

システム	
型番	FinePix S5 Pro
有効画素数	1234 万画素（S 画素：617 万画素、R 画素：617 万画素）
撮像素子	大型（23.0mm × 15.5mm）スーパー CCD ハニカムSR Pro　原色フィルター採用 総画素数1290 万画素（S 画素：645 万画素、R 画素645 万画素）
記録メディア	コンパクトフラッシュ ™カード（Type I/II対応）、マイクロドライブ™ 対応
記録方式	画像：DCF準拠 圧　縮：Exif Ver.2.2　JPEG準拠/DPOF対応 非圧縮：CCD-RAW（RAF）
記録画素数（ピクセル）	4256×2848/3024×2016/2304×1536
ファイルサイズ	別表に記載（→238ページ）
レンズマウント	ニコンFマウント（AF カップリング、AF接点付）
撮影感度	AUTO、ISO 100/125/160/200/250/320/400/500/640/800/ 1000/1250/1600/2000/2500/3200*2（標準出力感度）
測光方式	TTL 開放測光方式、3D-1005分割RGBマルチパターン測光/中央部重点測光/スポット測光
露出制御	プログラムAE（“P”モード時：プログラムシフト可能）/シャッター優先AE/絞り優先AE/マニュアル露出
露出補正	−5EV～+5EV　1/3、1/2、1EVステップ
シャッター	電子制御上下走行式フォーカルプレーンシャッター
シャッタースピード	30 秒～ 1/8000 秒 (バルブ撮影可能) *3
オートブラケティング	撮影コマ数：2 ～ 9コマ、補正ステップ：1/3、1/2、2/3、1 EVステップ
フォーカス	モード：シングルAF サーボ/ コンティニュアスAF サーボ/ マニュアルフォーカス AF 方式：TTL 位相差検出方式、AF 補助光付き AF フレーム選択：シングルエリアAF/ ダイナミックAF/ グループダイナミックAF/ 至近優先ダイナミックAF
ホワイトバランス	シーン自動認識オート/晴れ/日陰/蛍光灯（1～5）/電球/フラッシュ /色温度設定/プリセットカスタム（1～5） *微調整あり
セルフタイマー	約20秒/約10秒/約5秒/約2秒

次ページにつづく

システム	
フラッシュ	手動ポップアップ式　i-TTL-BL 調光/スタンダードi-TTL調光/ ガイドナンバー 12（ISO100 ·m） 同調シャッタースピード：1/250 秒以下
フラッシュ発光モード	先幕シンクロ/ スローシンクロ/ 後幕シンクロ/ 赤目軽減/ 赤目軽減スローシンクロ
アクセサリーシュー	シンクロ接点、レディ信号接点、TTL 調光ストップ信号接点、モニター信号接点､GND付き
シンクロ接点	X 接点のみ、同調シャッタースピード：1/250 秒以下
シンクロターミナル	シンクロターミナル（ISO519）標準装備、外れ防止ネジ付き
ファインダー	アイレベル式ペンタプリズム使用（視野率上下左右約95%）、 視度調節機構付き、ファインダー倍率約0.94倍
液晶モニター	2.5 型低温ポリシリコンTFT カラー液晶モニタ 約23 万画素（再生時視野率約100%）
リモートレリーズ	10 ピンリモートレリーズ端子装備
撮影時機能	カラースペース選択、ダイナミックレンジ選択、フィルムシミュレーションモード選択、格子線表示、コマNo. メモリー、多重露出撮影、ライブ画像表示機能
再生時機能	トリミング、スライドショー、マルチ再生、ヒストグラム表示、高輝度警告表示
その他の機能	PictBridge対応、Exif Print対応、PRINT Image MatchingⅡ対応、 言語設定（日本語、英語）、世界時計（時差設定）

入出力端子	
ビデオ出力	NTSC/PAL方式
デジタル入出力	USB2.0 High-Speed、MTP/PTP接続
DC入力端子	専用ACパワーアダプター AC-135VN（別売）

電源部、その他

電源	充電式バッテリー NP-150（付属）
バッテリー作動可能枚数の目安（フル充電時）	(下表参照)

バッテリーの種類	撮影枚数
NP-150（1500 mAh）	約400枚

CIPA（カメラ映像機器工業会：Camera & Imaging Products Association）規格によるバッテリー寿命測定方法（抜粋）：バッテリーは付属のものを使用。レンズはAF50 mm F1.4 Dを使用。記録メディアはコンパクトフラッシュカードを使用。温度（23℃）、30秒ごとに1回撮影。撮影ごとにAFを動作し、2回に1回フラッシュをフル発光、10回に1回電源OFF/ONして撮影。
・注意：バッテリーの充電容量により撮影可能枚数の変動があるため、ここに示すバッテリー作動可能枚数を保証するものではありません。低温時ではバッテリー作動可能枚数が少なくなります。

本体外形寸法	147mm×113mm×74mm（幅×高さ×奥行き）＊突起部含まず
本体質量	約830g（付属バッテリー、メモリーカード含まず）
動作環境	温度0℃～+40℃　湿度80%以下（結露しないこと）

*[1] CCD-RAW はFinePix S5 Pro 専用フォーマットです。画像の復元には、付属のソフトウェア「FinePixViewer」、または別売のハイパーユーティリティー HS-V3が必要です。
*[2] 高感度撮影時には画像がザラつく場合があります。また、白点などのノイズが生じることがあります。
*[3] 長時間露光時には画像がザラつく場合があります。また、白点などのノイズが生じることがあります。

次ページにつづく

■ 画像サイズ／記録可能／連続撮影可能コマ数

撮影された画像のファイルサイズは、画質モード（クオリティー）と画像サイズ（ピクセル）によって決定されます。そのため、メモリーカードに記録できる画像のコマ数は画質モードと画像サイズの組み合わせによって変化します。1GBのメモリーカードで記録できるコマ数、および連続で撮影できるコマ数は、それぞれの設定で以下のようになります（露出モードM、ISO感度200、フォーカスモードM、撮影画像表示OFF、高速表示用データ付加する、SanDisk社製SDCFXシリーズ（Extreme Ⅲ）の場合）。

“D-RANGE”が100%の場合

クオリティー	ピクセル	1コマあたりのファイルサイズ	記録可能コマ数	連続撮影可能コマ数	最短撮影間隔
RAW＋FINE	L	約18.1MB	55コマ	約20コマ	約0.3秒
	M	約16.3MB	61コマ	約21コマ	
	S	約15.1MB	66コマ	約21コマ	
RAW＋NORMAL	L	約15.7MB	63コマ	約21コマ	
	M	約14.8MB	67コマ	約21コマ	
	S	約14.2MB	70コマ	約21コマ	
RAW	−	約12.8MB	78コマ	約24コマ	
FINE	L	約5.3MB	189コマ	約29コマ	
	M	約3.5MB	285コマ	約39コマ	
	S	約2.2MB	442コマ	約51コマ	
NORMAL	L	約2.9MB	345コマ	約30コマ	
	M	約2.0MB	495コマ	約71コマ	
	S	約1.4MB	718コマ	約80コマ	

“D-Rng D-RANGE”がWIDE（100%以外）の場合

クオリティー	ピクセル	1コマあたりのファイルサイズ	記録可能コマ数	連続撮影可能コマ数	最短撮影間隔
RAW＋FINE	L	約30.3MB	32コマ	約8コマ	約0.6秒
	M	約28.6MB	34コマ	約8コマ	
	S	約27.3MB	36コマ	約8コマ	
RAW＋NORMAL	L	約28.0MB	35コマ	約8コマ	
	M	約27.1MB	36コマ	約8コマ	
	S	約26.5MB	37コマ	約8コマ	
RAW	–	約25.1MB	39コマ	約10コマ	
FINE	L	約5.3MB	189コマ	約19コマ	
	M	約3.5MB	285コマ	約73コマ	
	S	約2.2MB	442コマ	約100コマ	
NORMAL	L	約2.9MB	345コマ	約19コマ	
	M	約2.0MB	495コマ	約90コマ	
	S	約1.4MB	718コマ	約100コマ	

メモ

- 1コマあたりのファイルサイズは“高速表示用データ付加”を“しない”に設定すると減少し、記録可能コマ数と連続撮影可能コマ数は記載の値と異なります。
- 記録可能コマ数はメモリーカードの種類や撮影条件により、増減することがあります。
- 撮影画像表示を有効にすると、連続撮影可能コマ数が少なくなります。

＊ 仕様、性能は、予告なく変更することがありますのでご了承ください。使用説明書の記載の誤りなどについての補償はご容赦ください。
＊ 液晶モニターは非常に高精密度の技術で作られておりますが、0.01%以下の画素で点灯しないものや常時点灯するものがありますので、あらかじめご了承ください。また、記録される画像には影響ありません。

用語の解説

EV	：露出を表す数値で、被写体の明るさとフィルムやCCDなどの感度によって決まります。被写体が明るければ数値は大きくなり、暗ければ数値は小さくなります。デジタルカメラは被写体の明るさの変化に対して、絞りやシャッター速度を調整することによりCCDに与える光量を一定にしています。 CCDに与えられる光量が2倍になるとEV値は＋1、半分になるとEV値は－1変化します。
Exif（イグジフ）ファイル形式	：Exif（イグジフ）は、電子情報技術産業協会（JEITA）にて承認されたデジタルスチルカメラ用のフルカラー静止画像フォーマットです。TIFFやJPEGとの互換性があり、一般的な画像処理ソフトウェアで取り扱うことができます。サムネイル画像やカメラ情報の記録方法も規定されています。さらにフォルダ構造、フォルダ名についての規定を含めて、DCFがJEITA規格になっています。
JPEG（ジェイペグ）	：Joint Photographic Experts Groupの略で、もとは画像圧縮の標準化を推進している組織の名称。そこで標準化したカラー画像を圧縮して保存するためのファイル形式です。圧縮率が高くなるほど伸長（画像の復元）したときの画質は劣化します。
スミア	：撮影画面内に太陽やその反射光など非常に明るい輝点があるときに、画像に白いスジが写るCCD特有の現象。
ホワイトバランス	：人間の目にはどんな照明のもとでも、白い被写体は白に見えるという順応性があります。これに対してデジタルカメラなどでは、被写体周辺の照明光の色に合わせて調整を行って初めて、白い被写体が白く撮影されます。この調整をホワイトバランスを合わせるといいます。
CCD-RAW	：信号処理（CCDから読み出されたデータを画像として再構成する作業）を行う前のデータ。信号処理をパソコンで行うため、細かい制御が可能です。 ※ 画像を再構成するには、パソコンにFinePixViewer（同梱CD-ROM）、または、ハイパーユーティリティー（別売）がインストールされている必要があります。
色温度	：ローソクの炎のような温度の低いものは赤みが強く、ガスコンロの炎のような温度の高いものは青みが強くなります。この温度に対する光の色を色温度（K=ケルビン）で表します。よく晴れた正午頃の太陽の光は5500Kと言われています。
Adobe RGB（1998）	：Adobe Photoshop 5.0の作業用色空間として導入された色空間です。ほとんどのCMYKプリンタで再現される色を内包しており、主に印刷用途に適しています。 Adobe Photoshop 5.0のRGB設定では、「SMPTE-240E」、6.0以降のプロファイル指定では、「Adobe RGB（1998）」として導入されています。
カラースペース（色空間）	：カメラ・モニタ・プリンタなど各装置が表現できる色を2次元または3次元の数値で表現した範囲を示します。xy色度図（明るさを除いた色味を2次元で表現した座標空間）でsRGB色空間とAdobeRGB色空間を示します。このxy色度図上で三角で示した範囲が各色空間で表現できる色の範囲を示しています。xy色度図上では外側になるほど鮮やかな色になります。この色の表し方で全ての実在色を表すことができます。

索引

カメラ編

【アイコン（抜粋）】詳細は本文をご参照ください。

アイコン

【A～L】

【M～X】

【数字】

【あ】

【か】

【さ】

【た】

【な】

【は】

ソフトウェア編

【A～Z】

【あ～ん】

ソフトウェアのお問い合わせについて

1 お問い合わせの前にお確かめください。
ソフトウェアのインストール、FinePixViewerの使い方は使用説明書（本書）やFinePixViewerのヘルプから調べることができます。

2 富士フイルム製品Q&A・お問い合わせ
(http://fujifilm.jp/support/dc/index.html)、またはインターネットメニューの「サポート登録変更」から、ホームページで調べてください。

＊「サポート」をご利用いただくには画像ネットサービスへのユーザー登録が必要です。

3 裏表紙のお問い合わせ先にFAX、電話でお問い合わせください。
より早く正確な回答のために、247ページのご質問用紙にご記入の上、下記の情報もご用意ください。

- カメラの機種名
- FinePixViewerのバージョンまたはCD-ROMのタイトル
- エラーメッセージ
- どのようなときにトラブルが発生しますか？ /トラブルが発生する直前の操作は？ /カメラの状態は？ /トラブルが発生する頻度は？

ご質問によっては回答するまでに時間を要する場合もありますので、あらかじめご了承ください。

＊あらかじめ「アフターサービスについて」の項の「個人情報の取扱について」をご確認ください。

■ ご質問用紙

FAXでのお問い合わせは、この「ご質問用紙」をA4サイズにコピーして、質問事項および使用環境を詳しくお書きください。ボールペン、サインペンで楷書にてお書きください。

フリガナ			
お名前			
ご住所	〒　　　ー		
電話番号	（　　　）　　ー	ファクス番号	（　　　）　　ー
E-mail			
ご記入日	年　　月　　日		
カメラの機種名			
FinePixViewerのバージョン またはCD-ROMのタイトル			
コンピュータ機種名		OSバージョン	
メモリ容量	MB	ハードディスク容量	GB
接続機器名		その他	
エラーメッセージなど			
ご質問内容			

アフターサービスについて

保証書

- 保証書はお買上げ店に所定事項を記入していただき、大切に保存してください。
- 保証期間中は、保証書の記載内容に基づいて無償修理をさせていただきます。保証規定に基づく修理をご依頼になる場合には、必ず保証書を添付してください。なお、お買上げ店またはサービスステーションにお届けいただく際の運賃などの諸費用は、お客様にてご負担願います。

修理

■ 調子が悪い時はまずチェックを

本書の「困ったときは」をご覧ください。
使い方の問題か、故障か迷うときは、FinePixサポートセンターへお問い合わせください。電話番号が裏表紙に記載されています。

■ 故障と思われるときは

富士フイルム修理サービスセンターまたは当社サービスステーションに修理をご依頼ください。富士フイルム修理サービスセンター、サービスステーションのご案内が裏表紙にあります。依頼方法は、次のページの中からお客様のご都合によりお選びください。

■ 修理ご依頼に際してのご注意

- 本書巻末にある「修理依頼票」をコピーしていただき、必要事項をご記入の上、製品に添付してください。「修理依頼票」は、故障箇所を正確に把握し、迅速な修理を行うための貴重な資料になります。
- 修理料金の見積をご希望の場合には、「修理依頼票」の「見積」欄にご記入ください。ご指定のないときは、修理を進めさせていただきます。なお、見積は有料となります。
- 落下·衝撃、砂·泥かぶり、冠水·浸水などにより、修理をしても機能の維持が困難な場合には、修理をお断りする場合もあります。

■ 修理部品について

- 本製品の補修用部品は、製造打ち切り後８年を目安に保有しておりますので、この期間中は原則として修理をお引き受けいたします。ただしこの期間中であっても、部品都合等により、同等の製品に交換させていただく場合もあります。
- 本製品の修理の際には、環境に配慮し再生部品や再生部品を含むユニットと交換させていただく場合があります。交換した部品およびユニットは回収いたします。交換部品が必要な場合には、修理をご依頼されるときにその旨をお伝えください。

個人情報の取扱について

当社は、お客様の住所・氏名・電話番号等の個人情報を大切に保護するため、個人情報保護に関する法令を遵守するとともに、電話問い合わせ時あるいは修理依頼時にご提供いただいたお客様の個人情報を次のように取扱います。

1. お客様の個人情報は、お客様のお問い合わせに対する当社からの回答、修理サービスの提供およびその後のユーザーサポートの目的にのみ利用いたします。
2. 弊社指定の宅配業者、修理業務担当会社、その他の協力会社に当社が作業を委託する場合、委託作業実施のために必要な範囲内でお客様の個人情報を開示することがございます。開示にあたりましては、盗難・漏洩等の事故を防止し、また当社より委託した作業以外の目的に使用しないよう、適切な監督を行います。
3. ご提供いただいたお客様の個人情報に関するお問い合わせ等は、FinePixサポートセンター等のお問合せ先、富士フイルム修理サービスセンターあるいは修理依頼先サービスステーション宛にお願いいたします。

修理の依頼方法は、下記の中からお客様のご都合に合わせてお選びください。

●FinePixクイックリペアサービス

「お預かり」・「梱包」・「修理」・「お届け」をワンパックにした、お預かりからお届けまでが最短3日の宅配修理サービスです。

- 申し込みは、以下から選択してください。
  【クイックリペアサービス申し込み先】
  インターネット：
  http://repairlt.fujifilm.co.jp/quick/index.php
  ナビダイヤル：0570-00-9555
  ※ 受付時間：月～土 9:00～17:00（日・祝日・年末年始を除く）
  ※ PHS・IP電話・NTT以外の固定電話など、ナビダイヤルをご利用いただけない場合は、「0228-35-3586」に電話してください。
  ファクス：0570-06-0070
  申し込みに際し、248ページの「個人情報の取扱について」をご確認ください。
- 当社指定の宅配業者が、ご指定の日時にお預かりに伺い、修理完了品をご自宅までお届けします。
- 保証期間内外を問わず、全国一律のサービス料金が必要です。また有償修理の場合には、別途修理料金が必要です。
- 修理料金は、修理完了品お届け時に宅配業者に直接お支払いください。

●富士フイルム修理サービスセンターへの送付修理

- ご依頼の際「修理依頼票」を記載の上修理依頼品に添付してください。
- 修理料金は、修理完了品お届け時に宅配業者に直接お支払いください。

●FinePix特急30分修理（持込修理）

サービスステーションに直接お越しいただいたお客様を対象とした、30分を目安にその場で修理を行う持込修理サービスです。

- 下記サービスステーションにてFinePix特急30分修理を実施しております。

東京 大阪 名古屋 札幌 福岡	当社ホームページ http://fujifilm.jp/support/repairservice/servicestation/index.html をご覧ください。 ※ 仙台サービスステーションではFinePix特急30分修理は実施しておりません。

- その場で修理を行うことができます。後日引き取りもできます。
- 特急修理のために特別なサービス料金は不要です。ただし有償修理の場合には、別途修理料金が必要です。
- 修理料金は、お引取り時にサービスステーション窓口でお支払い下さい。
- 故障内容や部品在庫切れ等の場合に「特急修理」ができない場合もありますので、ご了承ください。
- FinePix S1 Pro/S2 Pro/S3 Pro/FinePix S5 Proは、東京及び大阪の当社サービスステーションでのみの扱いとなります。

●お買上げ店への持込修理

- 修理料金及びその支払方法については、お持ちいただいたお店にご確認下さい。

■ 修理に関する情報は

- 修理サービスQ&A
  http://www.fujifilm.co.jp/faq/after/index.html
  修理依頼方法、紛失した付属品の購入方法など修理に関するよくある質問と回答をまとめて掲載しています。
- 修理納期検索サービス
  http://repairlt.fujifilm.co.jp/repair/certificate.jsp
  東京もしくは大阪のサービスステーションおよび富士フイルム修理サービスセンターへ修理依頼品を送付、あるいは持ち込みされた場合、修理完了予定日を検索することができます。
- FinePix修理概算見積サービス
  http://repairlt.fujifilm.co.jp/estimate/index.php
  当社サービスステーションに直接修理依頼された場合の目安の修理料金を算出できます。

FinePix S5 Pro　修理依頼票

※予め248ページの「個人情報の取扱について」をご確認ください。
※本紙は拡大コピーしてお使いください。※下表の□は、該当する項目にチェック（✔）を入れてください。

フ リ ガ ナ お　名　前		電 話 番 号 FAX番号	
ご　住　所	〒　　　ー		
ボディ番号（機番） 保証書あるいは本体底面に記載してある8桁の番号です。 修理お問合せ時にご連絡ください。	No.		
修理品への添付	□保証書　・　□バッテリー		
□（　　　）		□（　　　）	
□（　　　）		□（　　　）	
見　積	□要（修理金額　　　円以上見積り）　・　□不要		
見積連絡方法	□電話　・　□ＦＡＸ		
故障症状（故障時の様子）			
ご購入時期	20　　年　　月		
修理履歴	□初回　・　□再依頼 （□同一症状　・　□別症状）		
発生状況：発生頻度	□開始時のみ　・　□いつも　・　□時々（　　日に　　回）		
発生状況：動作モード	□再生時　・　□撮影時　・　□ショックを与えると		
発生状況：他機との接続	□無　・　□有（接続機　　　）		
発生状況：使用電源			

FUJIFILM 富士フイルム株式会社

●本製品に関するお問い合わせは… ※予め「アフターサービスについて」の項の「個人情報の取扱について」をご確認ください。

富士フイルムFinePixサポートセンター

ナビダイヤル 0570-00-1060 / 携帯電話・PHS・IP電話・NTT以外の固定電話など、ナビダイヤルをご利用いただけない場合は 042-481-1673

市内通話料金でご利用いただけます
⇒呼び出し音の前にNTTより通話料金の目安をお知らせします。

月曜日～金曜日　午前9:00～午後5:40　土曜日　午前10:00～午後5:00　日・祝日・年末年始を除く

FAX　042-481-0162　受付時間:24時間（返信対応は電話の受付時間と同一です）

●本製品の関連情報は、下記のホームページをご覧ください。

http://fujifilm.jp/　※弊社ホームページの自己解決に役立つ「Q＆A検索」もご利用ください。

●修理の受付は… ※詳細は本文中の「アフターサービスについて」をご覧ください。また、予め「アフターサービスについて」の項の「個人情報の取扱について」をご確認ください。

■修理のご相談受付窓口　富士フイルム修理サービスセンター

ナビダイヤル 0570-00-0081 / PHS・IP電話・NTT以外の固定電話など、ナビダイヤルをご利用いただけない場合は 0228-35-3586

⇒呼び出し音の前にNTTより通話料金の目安をお知らせします。

月曜日～金曜日　午前9:00～午後5:40　土曜日　午前10:00～午後5:00　日・祝日・年末年始を除く

FAX　0570-06-0070　受付時間:24時間（返信対応は電話の受付時間と同一です）

■修理品ご送付受付窓口　富士フイルム修理サービスセンター
〒989-5501 宮城県栗原市若柳字川北中文字95-1　/ TEL：0228-35-3586

▶ お急ぎの場合は、全国どこからでも

【FinePix クイックリペアサービス】：お預かりからお届け迄が最短3日の宅配修理サービス
インターネット：http://repairlt.fujifilm.co.jp/quick/index.php　/ ナビダイヤル：0570-00-9555

■修理品お持込窓口　全国６箇所のサービスステーション（東京・大阪・札幌・仙台・名古屋・福岡）でも修理をお受けします。
サービスステーションにつきましては、当社ホームページhttp://fujifilm.jp/をご確認ください。

▶ お近くにサービスステーションがあれば

【FinePix 特急修理30分】：30分を目安にその場で修理を行う持込修理サービス

●本製品以外の富士フイルム製品のお問い合わせは…
お客様コミュニケーションセンター（月曜日～金曜日　午前9:30～午後5:00）TEL　03-5786-1712

Printed in Japan　Y-709104-PY